

2018（平成30）年度

学生生活アンケート報告書

和洋女子大学

はじめに

学生生活アンケートは和洋女子大学で学ぶすべての学生・大学院生を対象としています。本調査は2年毎に実施しており、本報告書は2018年に実施した調査結果の報告書です。本調査の目的は本学の教育内容、教育環境を検証し、点検することにあります。調査は、学生の意見を集めることに留まらず、調査結果から本学の教育課題を導き出し、学部、学科で2年毎に作成する目標と計画に具体的な課題解決を反映させることとしています。

教育現場においては、時に学生が弱い立場となりうることを教員、職員は十分に認識し、自らの指導姿勢、支援方法を検証し、学生と真摯に立ち向かうことが求められます。この学生生活アンケートは、学生の学びに加え、日々の生活実態を把握することで、学生を科目履修者としてだけでなく、その生活ぶりを立体的に把握するための貴重な情報源と考えています。多様な角度から分析し、本学の教育の点検、学生の就学支援体制の点検、検証に活用したいと考えています。

毎年実施されている授業評価アンケートを含め、学生の協力を得て実施する調査が昨今増えています。そんな状況においても快く回答に応じてくれた学生の皆さんに改めてお礼を述べたいと思います。また、調査の設計、取りまとめ作業を担当していただいた大学・大学院評議会メンバーの教職員の皆さまに感謝する次第です。

この調査結果を真摯に受け止め、活用し、和洋女子大学・大学院の教育の質の向上にさらに努めたいと思います。

和洋女子大学
学長 岸田宏司

目次

I. 学生生活アンケートの概要	1
1. 調査の目的	1
(1) 調査の目的と実施体制.....	1
(2) 調査票の設計と実施方法.....	1
(3) 回収結果の概要.....	1
2. 調査結果の概要.....	2
(1) 回答者数	2
(2) 回答者の属性.....	2
II. 学生生活アンケート結果（総論）	5
1. 学生生活アンケートの実施に当たって.....	5
2. 教育内容からみた大学の問題と課題.....	5
(1) 「教育目標の認知」と「カリキュラムの満足度」	5
(2) 勉強の目標とその取り組み状況.....	6
(3) 科目群別授業の満足度.....	6
3. 大学生活についての評価結果からみた大学の問題と課題.....	7
(1) ハラスメント・いじめの実態・人権侵害.....	7
(2) セクハラと感じた体験について.....	8
(3) 悩みの実態と相談.....	8
(4) 授業以外の学習時間.....	9
(5) ICT の活用	9
4. 事務部署についての評価結果から見た大学の問題と課題.....	10
(1) 窓口業務の評価.....	10
(2) 事務方への自由記述から記載.....	11
III. 学生生活アンケート結果その1（教学関連）	13
1. 教育目標やカリキュラムについて.....	13
2. 授業の満足度について.....	17
3. 進路について.....	20
4. 大学全体について.....	21

IV. 学生生活アンケート結果その2（生活関連）	24
1. アルバイトの実態について	24
2. モバイル通信端末・PCの利用実態について	25
3. 大学設備及びWEBサービスの利用実態について	29
4. 大学施設の利用実態について	31
5. 大学施設の満足度について	35
6. 事務対応の満足度について	38
V. 学生生活アンケート結果その3（悩み・ハラスメント関連）	非公開
VI. 各学科および各課の問題点と課題	46
1. 国際学科	43
2. 日本文学文化学科	45
3. 心理学科	47
4. こども発達学科	49
5. 服飾造形学科	51
6. 健康栄養学科	53
7. 家政福祉学科	55
8. 看護学科	57
9. 全学教育センター	59
10. 教務課	61
11. 教育支援課	62
12. メディアセンター	63
13. 学生課	64
14. 財務管財課	64
15. 保健センター・学生相談室・ユニバーサルサポート推進室	65
16. 進路支援センター	66
VII. 大学満足度からみた問題点と課題	68
VIII. 資料	72

I. 学生生活アンケートの概要

I. 学生生活アンケートの概要

1. 調査の目的

(1) 調査の目的と実施体制

大学の教育や学生生活に関連するさまざまな問題について、学生がどのように感じているのかを明らかにし、今後の大学改革にその意向を生かしていくことを目的に本学における自己点検評価の一環と位置付け、平成 16 年度より全学生を対象としたアンケート調査の実施とその結果の解析を行ってきた。平成 24 年度からは隔年ごとに実施し、今回の平成 30 年度で教学・生活関連アンケート調査は 14 回目となる。

実施運営は、大学・大学院評議会の学生生活アンケート担当者（責任担当者：湊久美子教学部門長）が行った。

(2) 調査票の設計と実施方法

調査票の設計にあたっては、経年変化を注視するためにこれまでの学生生活アンケートの自由記述を含む調査項目を踏襲した上で、カリキュラムの目標合致度、専門科目満足度、勉学目標の明確さ、大学全体の満足度などがより明確に浮かび上がるよう配慮した。

調査対象は、大学院生を含む学生全員とする悉皆調査である。

また実施方法については、前回（平成 28 年）行われた紙媒体による、配布と回収に教員の介在を要した方法を変えて、悩みハラスメント関連のアンケートを除き教学関連アンケートおよび生活関連アンケートについてはクラウド型教育支援システム「マナビコース」を用いて WEB 上でのアンケートの実施を行った。

実施に際しては、悩み・ハラスメント関連はマークシート用紙を配布し、平成 30 年 11 月 8 日から 1 週間の期間で各建物エントランス設置の回収箱に投函、教学関連は 11 月 15 日から 1 週間をおいてマナビコースで回答、生活関連は 11 月 22 日から 1 週間でマナビコースで回答を要請、その際個人の特定はできない管理体制であることも周知した。

(3) 回収結果の概要

平成 30 年 11 月 8 日から 28 日までの 4 週間の期間に寄せられたアンケート結果のデータは、担当事務局である学事課が集約し、教学関連は各学科長に、生活関連は事務局・施設・各システム部局の各責任者に、調査結果についての分析および経年変化からみた課題の取りまとめを依頼し、学事課への報告提出を依頼した。

今回は在籍学生 2,628 名のうち約半数にあたる 1,318 名からの回答を得ることができ、回収率は教学関連で 50,2%、生活関連で 51,3%であった。前回平成 28 年度実施の際の回収率は 77,2%で、紙媒体で教員介在のもとでの実施であったことに比べ、回収率の低下は懸念されたものではあったが、やはり教員の介在のなかった前々回平成 26

年度実施の回収率 46 パーセントと比べると遜色はなく、自主的回答という要素を伴う
マナバ使用の今回の結果は、回収率の低下は免れなかったものの解答の質において意
味あるものであったと考えられる。

2. 調査結果の概要

(1) 回答者数

アンケートは、ハラスメントアンケート・教学関連アンケート・生活関連アンケート
の三回に分け実施した。各回答数（回収率・総数）は以下のとおりである。

<2018（平成 30 年）年 11 月末日現在>

①ハラスメントアンケート：1,217 件（回収率 46%・総数 2,643 人）

※ハラスメントアンケートは大学院生も対象に含む

②教学関連アンケート回答数：1,318 件（回答数 50.1%・総数 2,628 人）

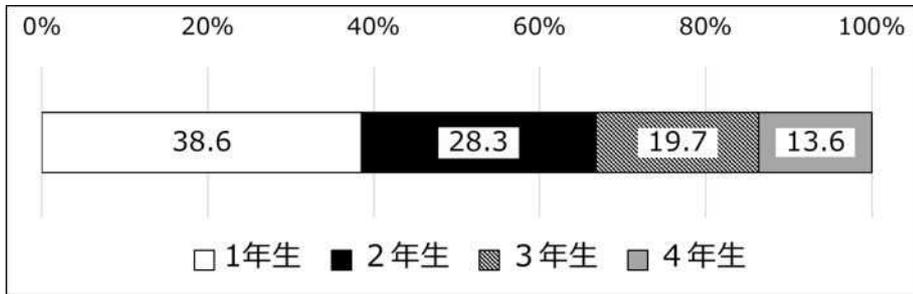
③生活関連アンケート回答数：1,349 件（回答数 51.3%・総数 2,628 人）

※②③両方の提出者数 1,260 件（回答数 47.9%：総数 2,628 人）

(2) 回答者の属性

教学関連アンケート、生活関連アンケートの各回答者属性は図表Ⅰ-1・2、図表Ⅱ-1・
2 のとおりである。なお、ハラスメントアンケートについては明示しない。また、表内
各項目は小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、それぞれの合計が必ずしも 100%
にはならない。各回答結果については、旧学類（専修・コース）を現学科に統合する。

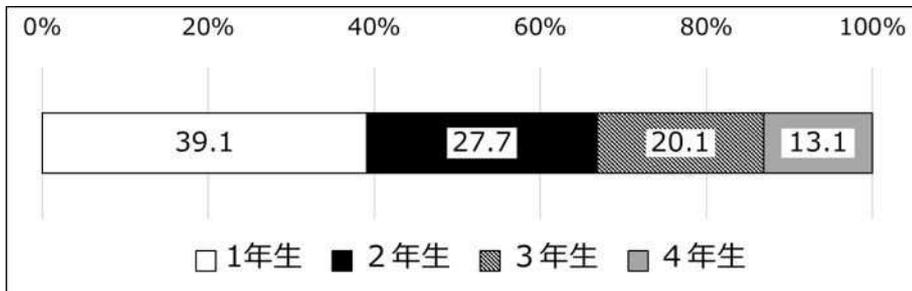
図表 I -1 教学関連アンケート回答者



図表 I -2

1年生												1 年 生 計			
人文学群				家政学群				看護学群							
心理学類		日本文学文化学科		国際学科		こども発達学科		服飾造形学科		健康栄養学科			家政福祉学科		
心理学専修															
0.1%	2.8%	6.7%	6.2%	4.2%	2.6%	8.5%	3.3%	4.2%				38.6%			
2年生												2 年 生 計			
人文学群						家政学群									
国際学類			日本文学文化学類			心理学類		こども発達学類		家政福祉学類					
英語文化コミュニケーション専修	国際社会専修	日本文学専修	日本語表現専修	書道専修	文化芸術専修	心理学専修	こども発達学専修	服飾造形学専修	健康栄養学専修	家政福祉学専修					
1.0%	1.3%	1.3%	1.6%	1.0%	1.0%	2.1%	6.0%	3.3%	7.1%	2.6%		28.3%			
3年生												3 年 生 計			
人文学群						家政学群									
国際学類			日本文学文化学類			心理学類		こども発達学類		家政福祉学類					
英語文化コミュニケーション専修	国際社会専修	日本文学専修	日本語表現専修	書道専修	文化芸術専修	心理学専修	こども発達学専修	服飾造形学専修	健康栄養学専修	家政福祉学専修					
0.6%	0.9%	1.0%	0.6%	0.4%	1.2%	1.3%	4.1%	2.1%	5.5%	2.0%		19.7%			
4年生												4 年 生 計			
人文学群						家政学群									
心理・社会学類		国際学類		日本文学文化学類			心理学類		こども発達学類		生活環境学類		家政福祉学類		
国際社会システム専修	英語文化コミュニケーション専修	国際社会専修	日本文学専修	日本語表現専修	書道専修	文化芸術専修	心理学専修	こども発達学専修	生活科学コース	家政福祉学専修	健康栄養学専修		服飾造形学専修		
0.1%	0.4%	0.4%	0.8%	0.4%	0.2%	0.2%	1.4%	0.8%	0.1%	1.0%	6.4%	1.4%		13.6%	

図表Ⅱ-1 生活関連アンケート回答者



図表Ⅱ-2

1年生													1 年 生 計	
人文学群				家政学部				看護学部						
心理学類	心理学	日本文学 文化学科	国際学科	こども 発達学科	服飾 造形学科	健康 栄養学科	家政 福祉学科	看護学科						
心理学 専修														
0.1%	2.8%	6.8%	6.2%	4.2%	2.6%	8.5%	3.6%	4.3%					39.1%	
2年生													2 年 生 計	
人文学群								家政学部						
国際学類		日本文学文化学類				心理学類	こども 発達学類	家政福祉学類						
英語文化コ ミュニケー ション専修	国際社会 専修	日本文学 専修	日本語 表現専修	書道専修	文化芸術 専修	心理学 専修	こども 発達学 専修	服飾造形 学専修	健康栄養 学専修	家政福祉 学専修				
1.0%	1.1%	1.2%	1.6%	0.9%	1.3%	2.0%	5.9%	3.3%	6.9%	2.5%		27.7%		
3年生													3 年 生 計	
人文学群								家政学部						
国際学類		日本文学文化学類				心理学類	こども 発達学類	家政福祉学類						
英語文化コ ミュニケー ション専修	国際社会 専修	日本文学 専修	日本語 表現専修	書道専修	文化芸術 専修	心理学 専修	こども 発達学 専修	服飾造形 学専修	健康栄養 学専修	家政福祉 学専修				
0.7%	1.1%	0.9%	0.6%	0.5%	1.0%	1.4%	4.2%	1.9%	5.7%	2.1%		20.1%		
4年生													4 年 生 計	
人文学群								家政学部						
心理・ 社会学類	国際学類		日本文学文化学類				心理学類	こども 発達学類	生活環境 学類	家政福祉学類				
国際社会 システム 専修	英語文化コ ミュニケー ション専修	国際社会 専修	日本文学 専修	日本語 表現専修	書道専修	文化芸術 専修	心理学 専修	こども 発達学 専修	生活科学 コース	家政福祉 学専修	健康栄養 学専修	服飾造形 学専修		
0.1%	0.4%	0.4%	0.8%	0.3%	0.2%	0.3%	1.4%	0.8%	0.1%	0.8%	6.2%	1.3%	13.1%	

Ⅱ. 学生生活アンケート結果

(総 論)

II. 学生生活アンケート結果（総論）

1. 学生生活アンケートの実施に当たって

今回の H30 学生生活アンケートから、それ以前の質問紙方式（紙媒体）から、大学全体で H30 年度より使用している「マナビコース」を用いて回答する方式に変更した。量の多い質問では web で回答するのに時間がかかり、途中で断念してしまう可能性が考えられたため、「教学関連」と「生活関連」の 2 回に分け、1 週間ずらして実施した。H26 のアンケート回収率が 46.3%で、さらに学年学科により回収率が大きく異なり、それらの解析が困難であったとの反省から、前回の H28 は学科毎に教員が介在してアンケートの配布回収を実施した結果、回収率が 77.2%に増加していた。今回 H30 の実施に当たり、再び教員が介在しない方式でまた「紙」がない状態でのアンケートに学生がどの程度回答するのか懸念されたが、学内放送などの活用により両アンケートとも 50%を超える回収率となった。

マナビコースでの web 回答では、システム上、無記名での回答はできないため回答者名を明らかにすることは可能であるが、回答者、学籍番号のデータは、2 つのアンケート（教学関連・生活関連）の回答を結合する際にのみ活用し、統合されたアンケート結果の集計ならびに解析時には、回答者名を外したデータを用いた。このことについても理解した上で学生は回答し、教員が介在しない H26 の紙媒体でのアンケートと同等の回収率を得ることができた。

3 つめの悩み・ハラスメント関連のアンケートは無記名性の担保のため、紙媒体（マークシート回答）でのアンケートを実施し、こちらも H26 と同等の回収率であった。

以上のアンケートにより得られた結果から明らかとなった学生の実態や要望、大学の問題点と課題、今後の対策などについて以下にまとめる。

2. 教育内容からみた大学の問題と課題

(1) 「教育目標の認知」と「カリキュラムの満足度」

所属する学科の教育目標を「知っている」者の割合が前回 H28 の 77.7%から今回 85.4%に増加し、「知らない」者の割合が H28 の 21.5%から 8.2%へと大きく減少している。H26 からスタートした新カリキュラムでの教育が定着し、前回、前々回の学生生活アンケート結果からも「教育目標の認知」が学生の満足度と関連していることが指摘されてきたことを受けて、各学科での学生指導の取り組みが奏効していると評価する。

一方、「カリキュラムの満足度」では、カリキュラムが自分の学びたいことに「合っている」者の割合は前回 H28 と概ね同様の 78.8%である。学科別では、こども発達学科と健康栄養学科で 85%以上と高く、その他の学科では 70%以上であり、資格取得を全員が目指す学科では高い傾向にある。引き続き、学科の教育目標とそれに対応するカリキュラム構成についての学生への丁寧な説明を行い、学生の学科教育への意欲と満足度の向上を目指す。

(2) 勉強の目標とその取り組み状況

勉強の目標が「はっきりしている」者の割合は、全体では 66.1%、H28 の 62.3%に比較してやや増加している。しかし、学年や学科による差異が大きく、全員が資格取得を目指しているこども発達、健康栄養、看護（1年生のみ）で 75%以上と高い。学科学年によって、こども発達 4 年生の 100%から、日本文学文化 2 年生、心理 1 年生、服飾造形 1・2 年生の 40%台まで差が大きい。その目標に向かって「よく取り組んでいると思う」と自己評価している者の割合は全体で 51.8%と低いが、H28 結果の 48.4%に比較するとやや増加している。また、上級学年になるほど高い傾向にあり、4 年生になって、就職活動、公務員試験、国家試験、卒業論文など、具体的な目標に向けて努力している学生が多くなることが窺われる。こども発達 4 年生 90.9%、国際 4 年生 75%、健康栄養 4 年生 67.8%では高く、国際、心理、服飾造形 1 年生が 30%台と低い。一方、目標に向けて「積極的に学びたいと考えている」者の割合は、全体で 76.5%と高く、こども発達、健康栄養で 80%以上と高い。その他の学科でも概ね 70%以上と学科による差違も少ない。

(1) (2) の結果を概観すると、所属する学科の目標を知っている者、カリキュラムが自分の学びたいことと合致していると考えている者でも、自分自身の勉強の目標が定まらない者、目標に向けて積極的に取り組みたいと思いながら実際には取り組めていない者も存在し、「資格取得」や「就職活動」などの具体的な学修課題と直面して熱心に「取り組む」学生の様子が窺われる。「資格取得」のような具体的な学修課題が統一されていない学科では、学生が自ら学ぶ題材を見つけるための手助けをすると同時に、複数の具体的な「学修課題」を呈示することも、学生の「積極的に学びたい」意識に働きかける 1 つの方法であろう。例えば「語学試験」「留学」「ゼミ活動」「社会貢献」など、学生の特性に合わせて具体的に呈示することは、学生の自主的で幅広い学びを促進する動因となると考えられる。

(3) 科目群別授業の満足度（文章中の率は受講していない者を除いて算出）

全体での専門科目（講義）の満足度（満足している者の割合）は 76.2%、専門科目（ゼミ・卒論・実習等）は 69.7%である。前回 H28 の 84.7%（専門科目の授業内容）、76.4%（授業・ゼミ等の教員の教え方）に比較して低下している。設問の訊き方、選択肢が変更されているので直ちに「満足度が低下した」とはならないが、教員の教え方も含めて、専門科目の満足度向上は、学生の大学への満足度向上のためにも今後の大きな課題である。特に、R2 から学部として改組スタートする国際の専門科目講義の満足度 64.6%、H30 にスタートしたばかりの看護（1年生のみ）の満足度 67.2%が、他の学科に比較して低かったことは課題である。「講義」と「卒論・ゼミ・実習等」に別けて質問したの

は今回が初めてである。少人数科目が多く、教員と学生が近い関係性をもち、アクティブ・ラーニングや双方向授業を実践しやすい「卒論・ゼミ・実習等」で満足度が高いと予想していたが、逆に「講義」のほうが満足度は高い。満足度の向上には、教員の教え方の改善が何より課題である。「大学で不満だと思う点」の回答で、最も多かったのは残念ながら「施設・設備」と並んで「教員の教え方」の23%である。教員1人1人がこの結果を受けとめ、真摯に学生と向き合い「丁寧に教える、学びを支援する」教育を展開することが必要である。

全体での共通総合科目の満足度は、基礎共育科目（人文・社会・生活・人間科学）の61.7%、和洋アビリティーズ（基礎ゼミ・キャリアデザイン・パソコン関連科目）の56.5%、外国語の56.7%と専門教育科目より低く、また、前回H28の67.5%（共通総合科目の授業内容）、63.3%（共通総合科目の教員の教え方）に比較してもやや低下している。アビリティーズ科目のうち基礎ゼミ以外の2科目は人数制限のある科目で抽選も行われるため、希望通りの受講ができなかった学生では、低い満足度になった可能性もある。外国語科目では、入学時のプレイスメントテスト結果によって各学科2ないし3クラスのレベル分けで授業が行われているが、自由記述をみると、一部の学生では自分に合わないクラス（レベルが高すぎる、低すぎる）で受講しており、不満足となっている。また、教員により授業の内容や教え方が大きく異なっていることも不満足の原因となっている。全学教育センターがH30から教授会組織としてスタートしていることから、センターでの共通総合科目の運営（時間割配置、各科目のクラス数、英語のクラス分け、共通総合科目担当教員へのFDなど）をより充実させ、学生の満足度向上を目指す必要がある。

3. 大学生活についての評価結果からみた大学の問題と課題

(1) ハラスメント・いじめの実態・人権侵害

本項目は、学生アンケートで明らかにしたいもっとも重要な課題の一つであるため、前回までは対象外であった大学院生、非正規生をも含む悉皆調査というかたちを採った。大学ではハラスメント相談員、相談窓口を設置し、解決や根絶を目指し学生対応に努めているが、本調査では、その認知度は調査に応じた学生全体の43%であった。（なお、調査に回答した学生は、全在籍学生2,628名の約半数、1,318名であった。）H26の相談窓口認知度は42.2%、H28は51.2%とやや向上したが、今回の調査では低下している。調査に応じた学生においても約半数の学生が相談窓口の存在を知らないという点について数年来変わらない状況である。

なお、この点について学科学年別みると日本文学文化の4年生の回答者の100%、健康栄養の3年生の回答者の70.8%が、相談窓口の存在を認知している一方、こども発達1年生回答者の68.4%がこうした窓口の存在を認知していない。このように学科、学年

より相違はあるが、いずれにせよアンケートに応じた学生の 48.0%がこうした窓口の存在を知らないで過ごしているのが現状である。

(2) セクハラと感じた体験について

全回答者の 1.1%がセクハラと感じた経験があると回答している。H24 の 1.6%、H26 の 1.0%、H28 の 1.3%に比べ大きな変化はない。とはいえ、学科学年別で見ると、日本文学文化 3 年生では回答者の 7.7%、心理 4 年生では回答者の 4.8%、服飾造形 1 年生で回答者 3.3%の学生がセクハラを感じた経験があると回答している。このような問題に関し特定の学科、学年が高い数値を示すことについては、大学として細心の注意を以て積極的に臨む必要があると考える。人権を侵害されたと感じた学生の割合は、H24 は 10.6%、H26 は 10.8%、H28 は 10.9%、今回は全体としては 10.7%であり、残念ながら減少していない。学科別にみると看護で 12.0%と最も高く、学科・学年別では、日本文学文化の 3 年生が 23.1%であった。ともに看過できない数字であるといえよう。

(3) 悩みの実態と相談

日常生活に支障があるほどに悩んでいる学生は、回答学生の 4.7%であり、H24 は 7.8%、H26 は 5.9%、H28 は 4.8%に比べ漸減しているが、しかし一定数の学生が深刻な悩みを抱えていることは注意すべきである。学科別では、心理が 11.4%、学科学年別では日本文学文化 3 年生が 23.1%である。支障をきたすほどではないが、悩みを抱えている学生は 54.0%、これを H24 の 63.1%、H26 の 59.3%、H28 の 58.3%に比べると減少しているが、回答者の半数以上の学生が悩みを抱えていることが明らかになる。

悩みの内訳については、進路・就職のことが 35.4% (H28 は 62.2%)、学業のことが 26.7% (H28 は 36.6%) であった。進路・就職のことでは、日本文学文化が 43.3%と最も高く、心理の 3 年生も 43.3%と高い。学業のことでは看護が 46.0%、健康栄養が 38.2%、学生生活では経済問題で不安を抱えている学生が 10.3%ほど存在する。

ハラスメント、進路・学業問題を含めて学生生活に悩みを抱えている学生の相談先については、家族・友人が突出して多く、大学の相談窓口を選択するものはきわめて少ないといえる。前述したように大学の相談窓口の認知度の低いこと、また敷居が高いと感じられていることも一因かもしれない。ただ、ハラスメント・人権侵害といったきわめて深刻な相談を家族・友人などに相談し、専門家に相談しない、そもそもだれにも相談しない、という回答の多いことは根本的解決に繋がらず憂慮される。今回特に、アカデミックハラスメントとも呼ぶべき教員による不適切な言動として、自由記述欄に論文指導教授による指導放棄とみられる言動への指摘があった。高い数値に注意を怠らないとともにこのような直接的訴えに大学として積極的かつ真摯に向き合うことがもたらわれよう。

(4) 授業以外の学習時間

今回初めて授業時間以外の学習時間について訊いた。1日に「1時間以上」学習時間のある者の割合は、全体で57.2%、学科による差異が大きい。健康栄養で76.0%と最も高く、次いで国際、服飾造形の60%以上と高いが、その他の学科は40%台と低い。一方、「あまりしない」は全体で13.7%である。最も少ないのは健康栄養の5.0%、その他の学科は15%以上である。全員が資格取得を目指していることも発達や看護でも1日1時間以上の学習時間確保している者は半数以下である。この実態を全国学生調査結果の「週に6時間以上の授業に関連した学習時間」のある者の割合33.2% (2007)、29.6% (2014)と比較すると和洋では高い結果である。この割合には卒論や授業に関連しない学習は含まれていないので単純に比較することは難しいが、4年生を除き和洋の学生では、学習時間の多くが授業に関連しているのではないかと推測されるため、学習時間を確保している学生の割合は全国調査結果と同等かそれ以上の結果であると推察される。一方で、同調査による「週に0時間の学習時間」の者の割合の10.9% (2007)、12.0% (2014)と比較すると健康栄養を除き、学習時間がほとんどない学生の割合も和洋で多いと判断される。学習時間を確保している学生と、ほとんど学習時間がない学生の差が大きい可能性がある。授業での適切な課題や授業以外での自主的な学びの促進など、大学生としての学習時間の増加を大学としてまた、教員が支援していく必要がある。

(5) ICTの活用

パソコンやスマートフォン(以後、スマホ)の保持と利用について今回初めて訊いた。スマホを持っていない者は1%未満で、ほぼ全員が持っている。1日に4時間以上利用する者が67.9%と2/3を超え、スマホを学習に活用している者も88.7%いる。タブレットは看護では全員に貸与され、学習に活用されている。国際4年生の50%が持っているが、学習にはほとんど活用されていない。その他の学科では20%以下の保持率であり、学習にもほとんど活用されていない。一方、パソコンを持っていない者は全体で4.8%と少なく、残りの半数ずつが自分専用あるいは家族と共有を持っている。健康栄養では自分専用を持っている者が多く、その他の学科では家族と共有で持っている者が多い。パソコンを学習に活用している者も全体の80.6%と高い。さらに、大学のパソコンの利用率も高く、「ほとんど使わない」者は6.4%である。

現代の学習ツールとしてスマホもパソコンも欠かせない存在である。現在、和洋では学生がフリーに使用できるパソコンを多数設置しているが、90%以上の学生が、自分専用とは限らないが自宅で使えるパソコンを持っていることから、今後は学生が自前のパソコンを持参して授業に参加する学習スタイルも選択肢の1つと考えられる。特に、健康栄養では、自分専用のパソコンの保持率が60%を超え、4年生では70%を超えていることから、看護のタブレットと同様に、パソコンの貸与方式の導入について検討でき

ると考える。

本アンケートの回収にも活用した web システムのマナバコースについて、「ほとんど利用しない」者の割合は 4.6%と少ない。ただし、「週に 1 日以上利用する」者の割合には学科による差違がみられ、最も利用しているのは健康栄養の 70.2%、その他の学科は 30～50%の利用であり、健康栄養以外では「必要な時だけ」利用する者も多い。マナバコースは、学外のスマホやパソコンからもアクセス可能で、授業科目ごとに教員と学生の双方向学習のツールとしても活用することが可能で、出欠確認や課題提出などについても web 上で管理できる教育支援ツールである。教員と学生が適切に利用することにより、充実した授業運営に繋げることも可能である。特に多人数科目ではその効果が得られるため、教員によるさらなる活用が期待される。

4. 事務部署についての評価結果からみた大学の問題と課題

(1) 窓口業務の評価

事務窓口対応の業務の比重が大きい教学系（教務課、ラーニングステーション・教職サポート室（教育支援課）、学生課、進路支援センター）」の窓口対応について、満足度をみると「満足している」と「まあまあ満足をしている」の満足度については、進路支援センターの支援対象学年である 4 年生が前回の 72.9%から 74.8%、3 年生が前回 62.1%から 70.1%、学生課が前回の 65.3%から 73.0%、教務課が前回の 60.0%から 69.3%と、前回の調査から満足度は上昇傾向にあり、概ね 7 割の学生が事務窓口対応に満足しているという結果である。これは各課（センター）が、事務窓口対応にあたり、学生に寄り添って丁寧に話を傾け、学生の立場を理解することに努めている成果と受け止めている。一方、「不満である」と「やや不満である」を合わせた不満度について、教務課が 10.9%、学生課が 8.1%、進路支援センター（支援対象学年）が 4.6%となっており、窓口対応について若干不満に感じている学生もいる。基礎学力の向上を目指すラーニングステーションや教職を目指す学生支援をする教職サポート室は、支援学年が特定傾向にあるため、「ほとんど利用しない」が約 80%の回答があった。利用者の満足度は高いため、利用者数を上げることを検討する。

今後は、窓口の対応の満足度の内容を詳しく知ること、各職員はそれを意識した窓口対応に取り込めるので、事務窓口対応で満足した理由等を設問項目に設定したい。調査結果は、学生支援に活用する。今回のアンケートの結果に満足することなく、更にサービスの向上に努め、今後も満足度を高められるよう学生に寄り添った学生目線での対応を心掛ける。

(2) 事務方への自由記述から記載

[学生対応について]

①学生対応時の不満について

・ 教学系（教務課、ラーニングステーション・教職サポート室（教育支援課）、学生課、進路支援センター）」の窓口対応についての学生満足度は、「丁寧」、「親切」、「やさしい」との回答が多く、総じて全体的な満足度が上がっている。一方、記述件数は少なかったが「怖い」、「冷ややか」、「事務的（臨機応変でない）」、「入室しづらい」といった指摘もあり、普段学生目線での対応を心がけていることが学生に理解してもらえないところもあり、正直少々残念である。規程等のルールにそった指導を、学生が「断られた」、「怒られた」と受け止めていることも考えられる。

・ 学生対応業務は、各課（センター）の中でも大きな比重を占めるものであり、「怖い」、「冷ややか」等今回の指摘については、真摯に受け止め、職員ひとり一人が自分のこととして取り組んでいく。

・ 職員のスキルアップに取り組むとともに、学生が相談しやすい雰囲気作りに取り組んでいく。対応の違いや不公平感につながらないように、全体で共通認識を図る。

・ 今回の指摘につながったと思われることについては、今一度各業務を振り返り、学生には説明の上、理解を求めることも必要と思われる。

・ 他課とも連携を強め、学生がたらい回しにならないように連携を密にする。

②見守りの必要な学生の対応について

・ 保健センター・学生相談室・ユニバーサルサポート推進室は「ほとんど利用しない」が59.8%との回答があったが、逆に言えば学生全体の約40%が利用をしていることになる。

・ 教員へ見守りの必要な学生に対する教育的配慮の依頼や、定例会で、悩みを抱える学生の情報を、学生相談室のカウンセラーと担当教員そして職員の間で密にすることで、悩みを抱える学生は支援の下、修学と悩みのバランスをとりながら、単位修得へとつなげてきた。見守りの必要な学生について、学びの姿勢について対応できるよう全学的に取り組んでいく必要がある。

・ 調査の結果から、悩みを抱える学生の割合が多くなったことが示された。ごく少数の学生から利用しづらさを感じているとの回答があった。年々利用者が多くなっていることから保健センター・学生相談室・ユニバーサルサポート推進室についての役割や内容を詳細に伝える、支援について基本的なあるべき対応を再確認する。

[施設・設備について]

①メディアセンターについて

・ メディアセンターは、「図書館として」と「勉強場所として」の二つの側面から、

学生利用についての回答は「図書館」は約 60%、「勉強場所」は約 69%、学生満足度についての回答は、「図書館」は約 68%、「勉強場所」は約 70%から、総じて満足度は高い。その反面、「ほとんど利用しない（含む無回答）」の回答が約 30%あることから、今後より学生の図書館の利用率を上げることを検討する。

- ・図書館内の PC エリア等の各エリアの整備について、各エリアの利用方法等をよりはっきり利用者に周知し、「各環境の拡大」は各エリアの利用状況を確認の上、検討する。
- ・「図書館資料の充実」については、収書基準に沿うものはできるだけ学生の要望に応えられるよう予算の確保に努める。
- ・できるかぎり学生の要望に対応し、館内の環境や資料の整備を進める。

②ICT 環境整備について

設備への改善要望として多数記述があった「Wi-Fi 使用可能なエリアの拡大・環境整備」は、大規模な回線周りの増強が必要なことから、確実に勉学に必要なところから整備を進めている。文部科学省から「ICT を活用した教育」や「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」について指針が示されていることから学内の ICT 環境整備の検討を進めることは必要不可欠と考える。また、本学が使用する学生ポータルサイトは、学生ひとり一人にページが割り振られ、学生全体へのお知らせ、個人宛の伝言、休講・補講等授業の連絡をパソコンやスマートフォン等から確認することができる、また、授業時に出席管理のため出席票やアンケートを提出する際にも、学生が所有するスマートフォンを使用することも多くなる。現状はこれに関わる通信費は自己負担になることを、学生とその保護者に説明をする必要がある。

③施設整備について

前回の学生生活アンケートの施設に対しての改善要望を受けて、「エレベーターの渋滞」、「学食・購買」、「空調等設」、「トイレの洋式化」、「勉強・休憩スペースの確保」等できるところから、順次施設改善等を行ってきた。事務窓口時間や施設開放時間の延長を求める意見もあったが、学生の防犯や教職員の勤務時間等大学の管理上の問題もあることから、今以上の延長はできない。今後も学生アンケートの結果を真摯に受け止め計画的に予算化し、学生により良い環境を提供するため施設改善に努める。

Ⅲ. 学生生活アンケート結果その1

(教学関連)

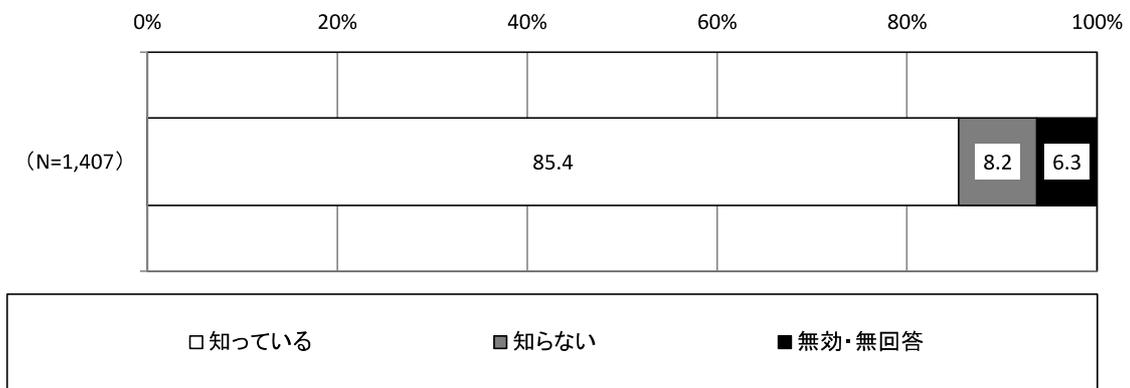
Ⅲ. 学生生活アンケート結果その1（教学関連）

1. 教育目標やカリキュラムについて

①教育目標の認知

教育目標の認知については、「知っている」が85.4%である。学科別にみると「知っている」では、こども発達学科が93.3%と最も高く、9割を超えている。一方で服飾造形学科は、「知っている」が他学科に比べて低く、「知らない」が19.2%と高い。

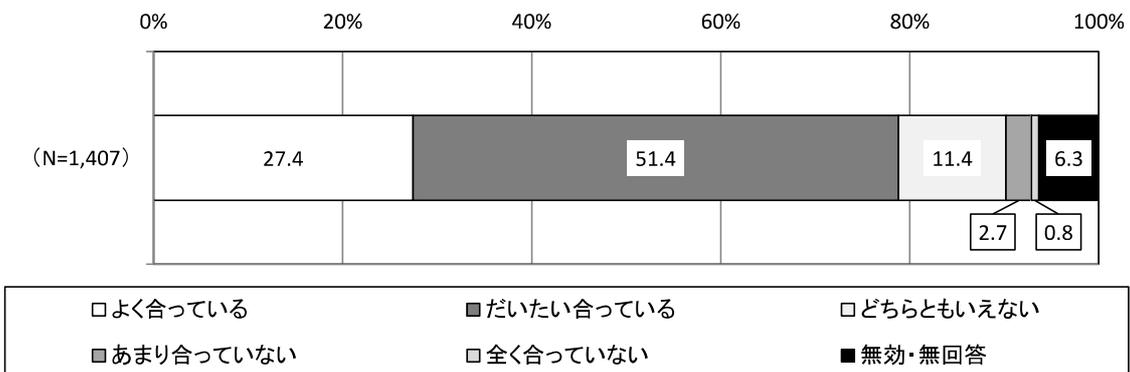
図表Ⅲ-1-①



②カリキュラムの満足度

カリキュラム満足度については、“合っている”（「よく合っている」と「だいたい合っている」の合計）は78.8%である。学科別にみると、こども発達学科では88.0%と最も高い。

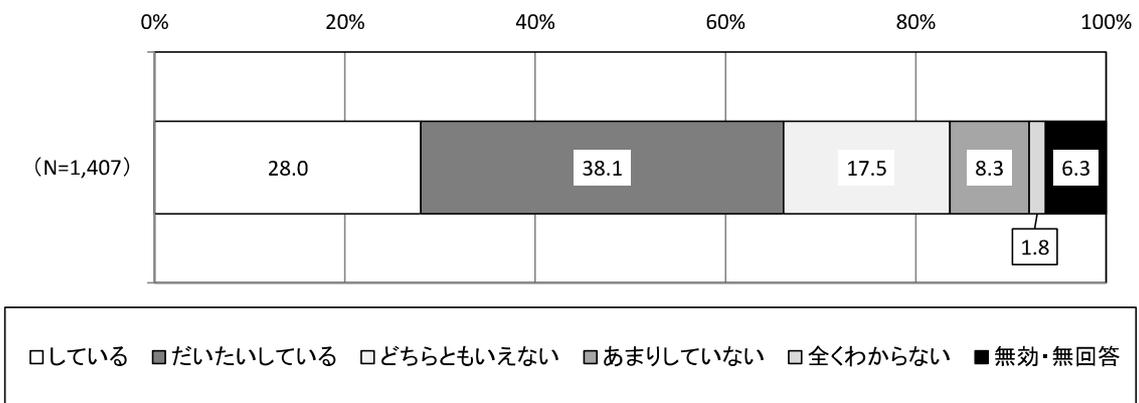
図表Ⅲ-1-②



③勉強目標がはっきりしているか

勉強目標がはっきりしているかについては、“はっきりしている”（「している」と「だいたいしている」の合計）は66.1%である。学科別にみると、こども発達学科では77.5%と最も高い。

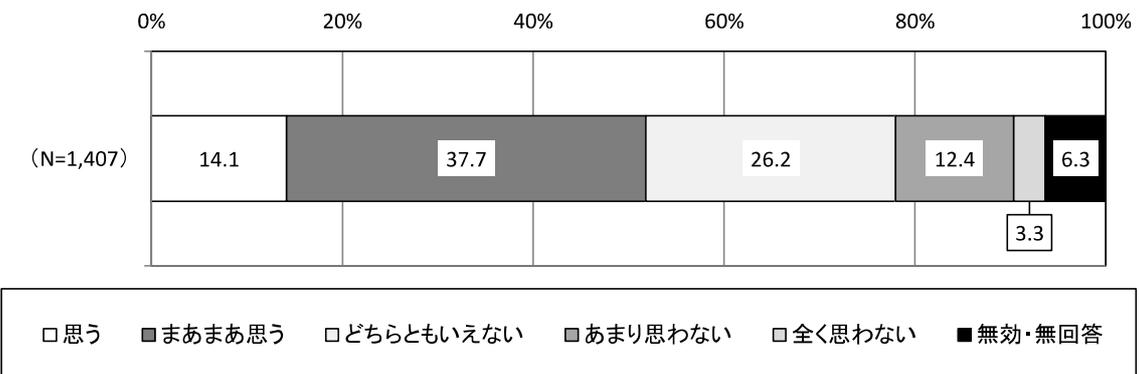
図表Ⅲ-1-③



④勉強目標に向かってよく取り組んでいるか

勉強目標に向かってよく取り組んでいるかについては、“そう思う”（「思う」と「まあまあ思う」の合計）は51.8%と約半数である。学科別にみると、こども発達学科では61.7%と最も高い。

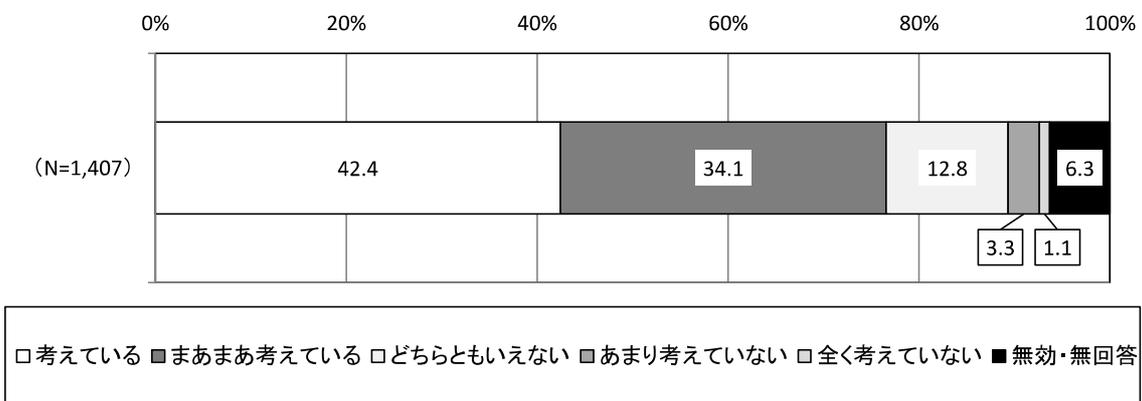
図表Ⅲ-1-④



⑤目標に向けて積極的か

目標に向けて積極的かについては、“積極的に考えている”（「考えている」と「まあまあ考えている」の合計）は76.5%である。学科別にみると、健康栄養学科では81.5%と最も高い。

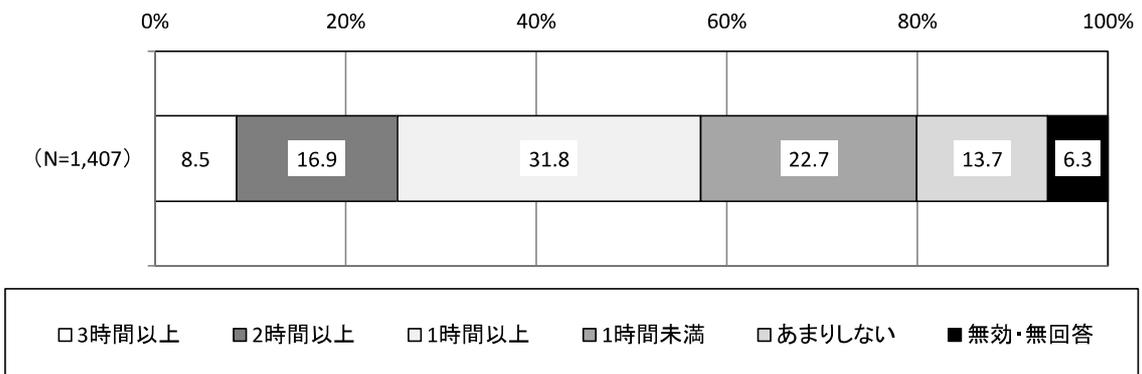
図表Ⅲ-1-⑤



⑥時間外の学習時間

授業時間外の学習時間については、1日に“2時間以上”（「3時間以上」と「2時間以上」の合計）は25.4%である。学科別にみると、健康栄養学科では38.7%と最も高い。

図表Ⅲ-1-⑥

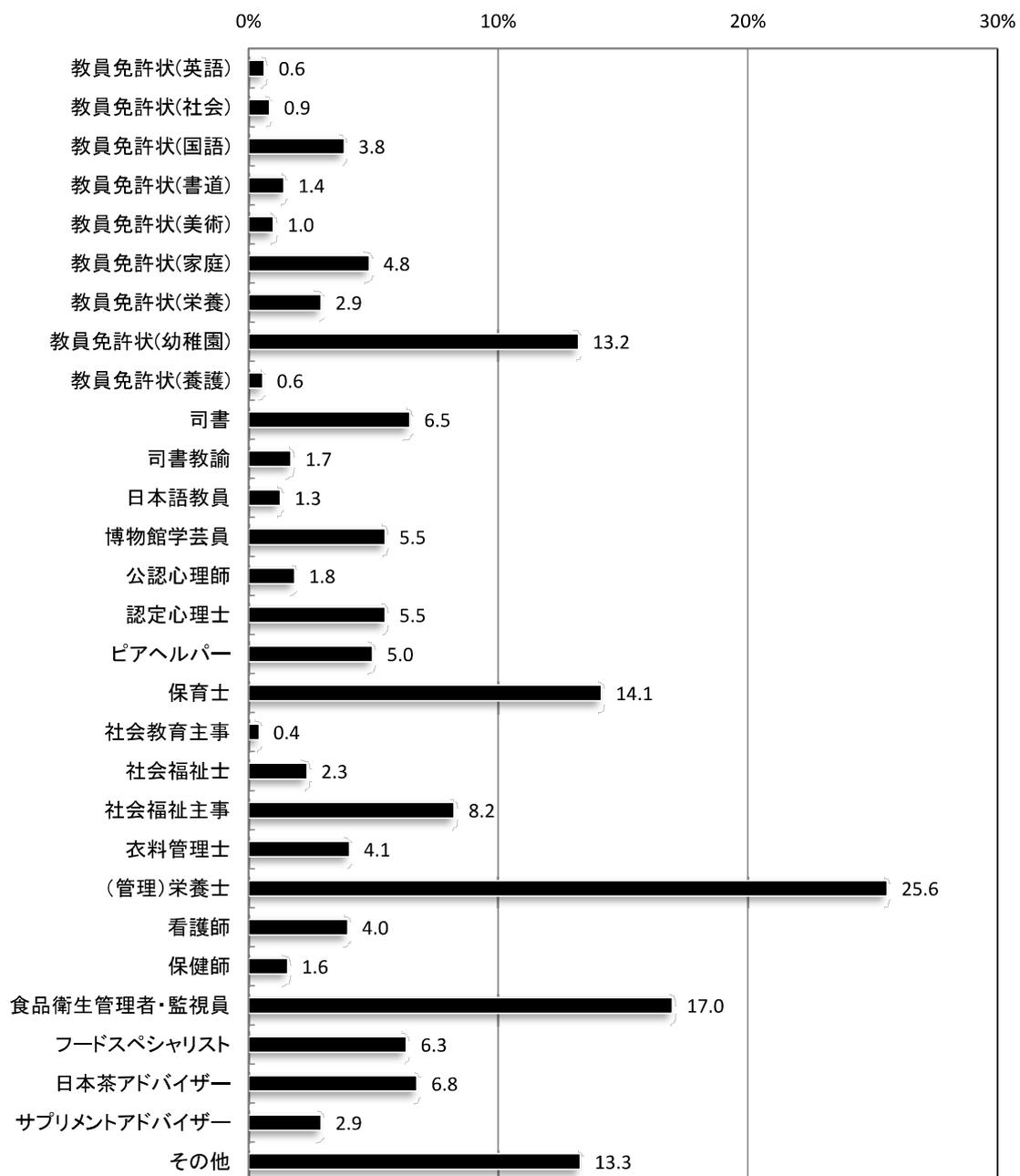


⑦目指す資格・取得資格（複数回答）

目指す資格・取得資格については、「（管理）栄養士」では25.6%と最も高く、次いで、「食品衛生管理者・監視員」では17.0%である。学科別にみると、「（管理）栄養士」では健康栄養学科が95.0%と9割を超え最も高く、次いで、「食品衛生管理者・監視員」では健康栄養学科が62.5%である。

図表Ⅲ-1-⑦

(N=2,295)

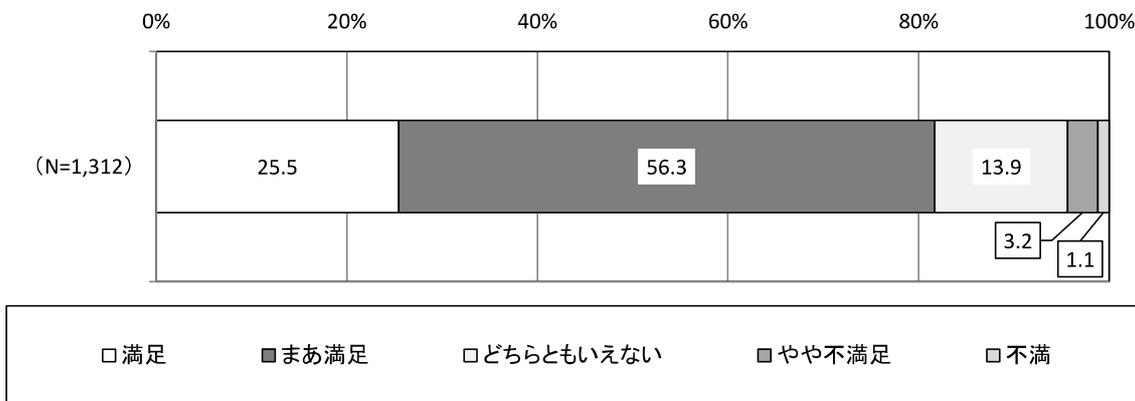


2. 授業の満足度について

①専門科目（講義）の授業の満足度

専門科目（講義）の授業の満足度については、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は81.7%と高い。学科別にみると、家政福祉学科では85.6%と最も高い。（「受講していない」、無効・無回答除く）

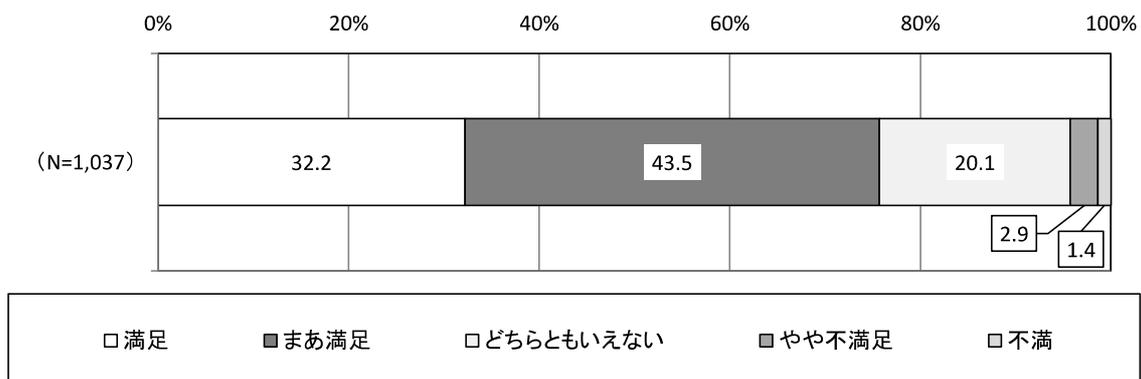
図表Ⅲ-2-①



②専門科目（卒論・ゼミ・実習等）の授業の満足度

専門科目（卒論・ゼミ・実習等）の授業の満足度については、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は75.7%である。学科別にみると、こども発達学科では85.7%と最も高い。（「受講していない」、無効・無回答除く）

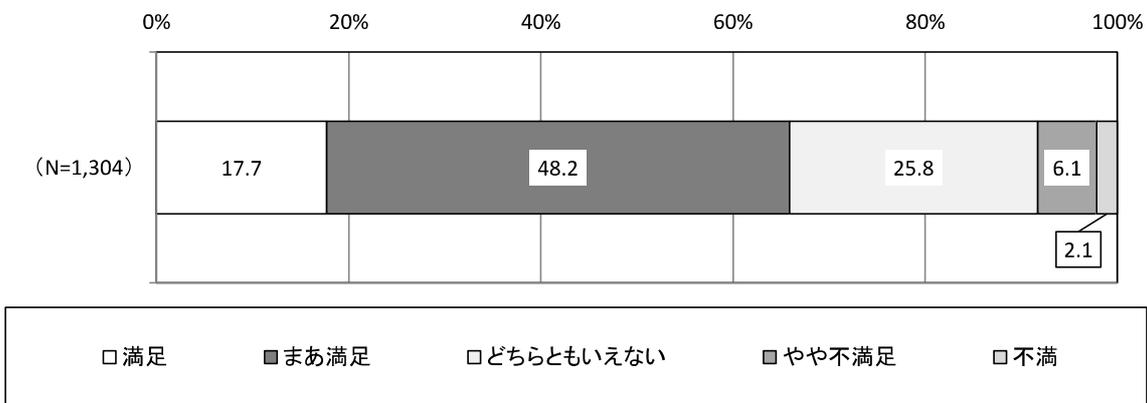
図表Ⅲ-2-②



③共通総合科目（基礎教養科目）の授業の満足度

共通総合科目（基礎共用科目）の授業の満足度については、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は65.9%である。学科別にみると、家政福祉学科では74.6%と最も高い。（「受講していない」、無効・無回答除く）

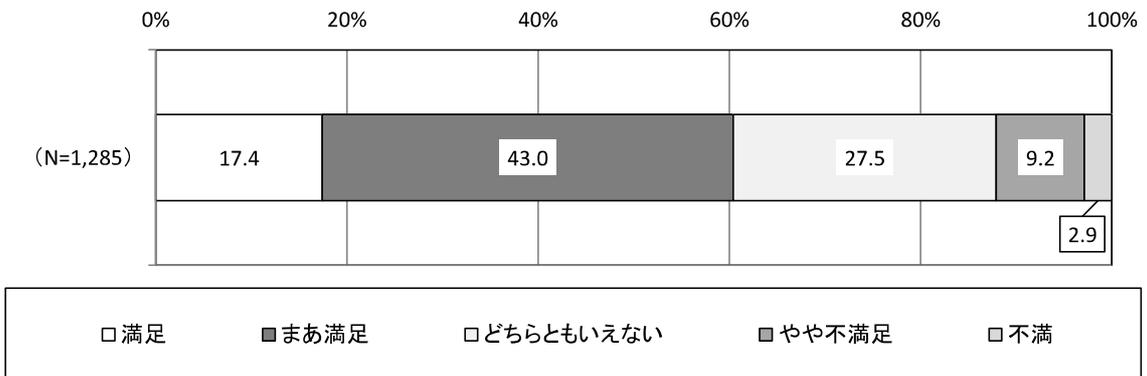
図表Ⅲ-2-③



④共通総合科目（和洋アビリティーズ）の授業の満足度

共通総合科目（和洋アビリティーズ）の授業の満足度については、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は60.3%で、6割を超えている。学科別にみると、家政福祉学科では71.6%と最も高い。（「受講していない」、無効・無回答除く）

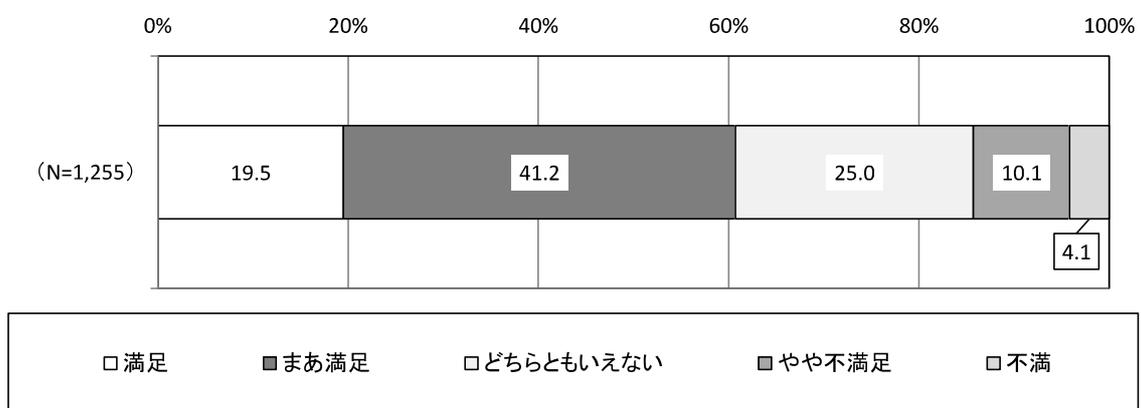
図表Ⅲ-2-④



⑤共通総合科目（外国語科目）の授業の満足度

共通総合科目（外国語科目）の授業の満足度については、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は60.7%である。学科別にみると、健康栄養学科では67.8%と最も高い。（「受講していない」、無効・無回答除く）

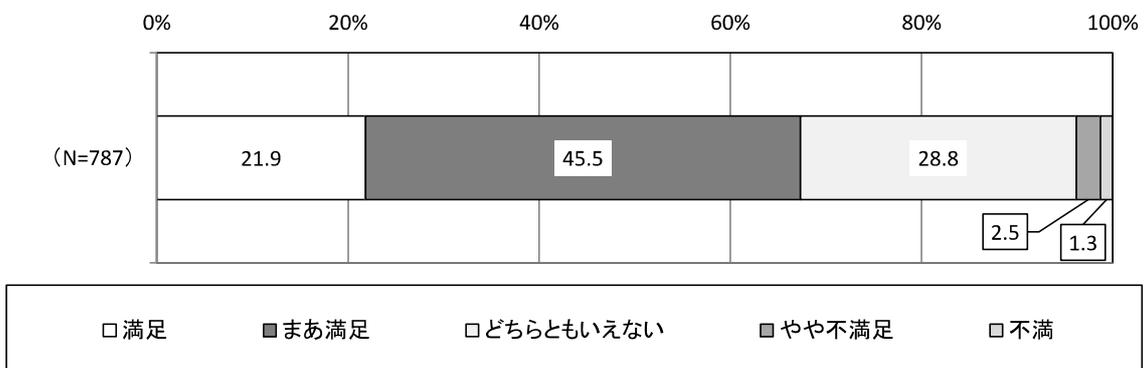
図表Ⅲ-2-⑤



⑥資格取得（全学共通）の授業の満足度

資格取得（全学共通）の授業の満足度については、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は67.3%である。学科別にみると、日本文学文化学科では77.4%と最も高い。（「受講していない」、無効・無回答除く）

図表Ⅲ-2-⑥

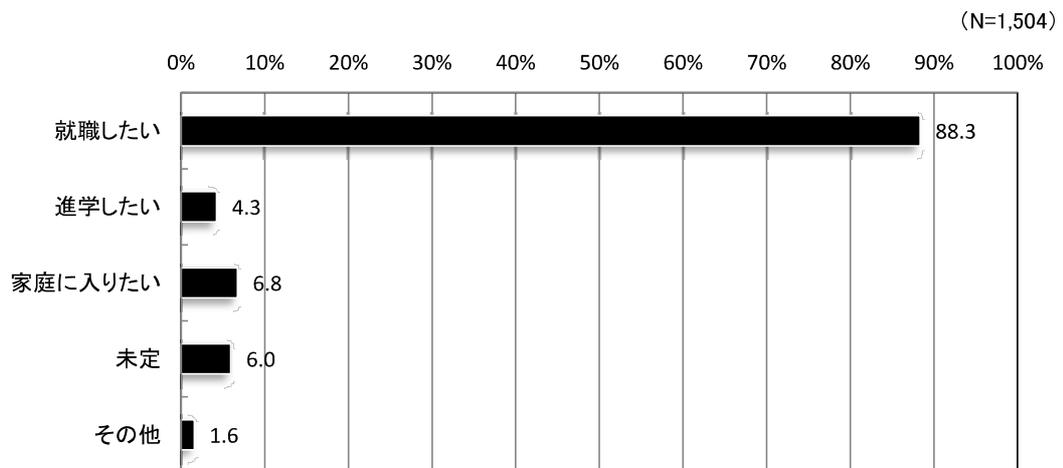


3. 進路について

①卒業後の希望進路（複数回答）

卒業後の希望進路については、「就職したい」が最も多く、88.3%である。学科別にみると、「就職したい」では健康栄養学科が93.4%と最も高い。

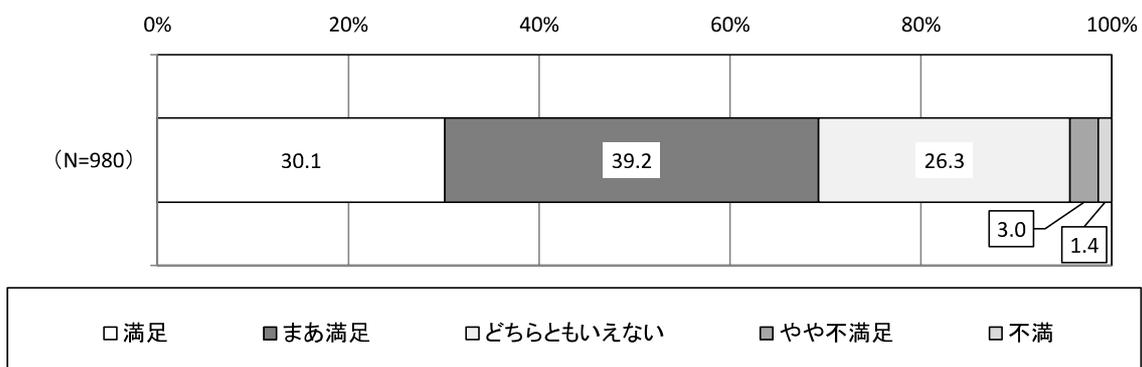
図表Ⅲ-3-①



②就職や進学に対する大学の支援体制の満足度

就職や進学に対する大学の支援体制の満足度については、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は69.3%である。学科別にみると、こども発達学科では80.7%と最も高い。（「まだ利用していない」、無効・無回答除く）

図表Ⅲ-3-②

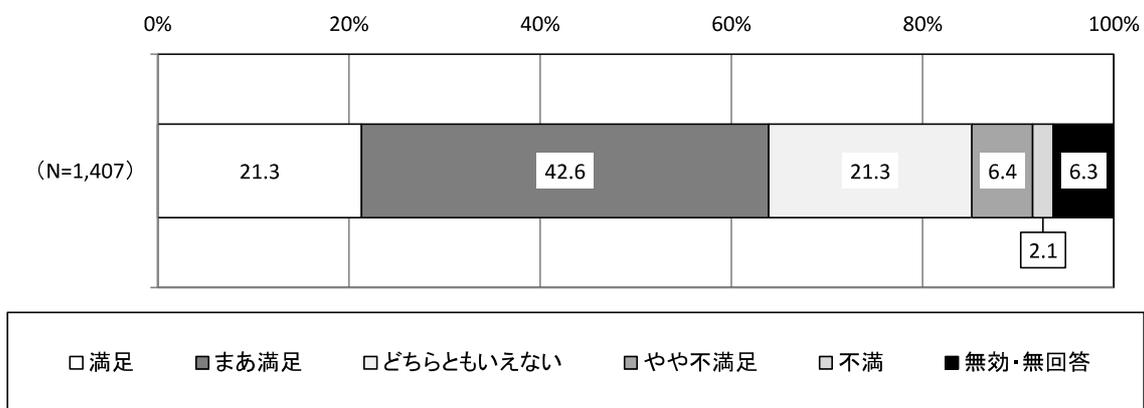


4. 大学全体について

①大学の全体的な満足度

大学の全体的な満足度については、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は63.9%である。学科別にみると、こども発達学科では70.3%と最も高い。

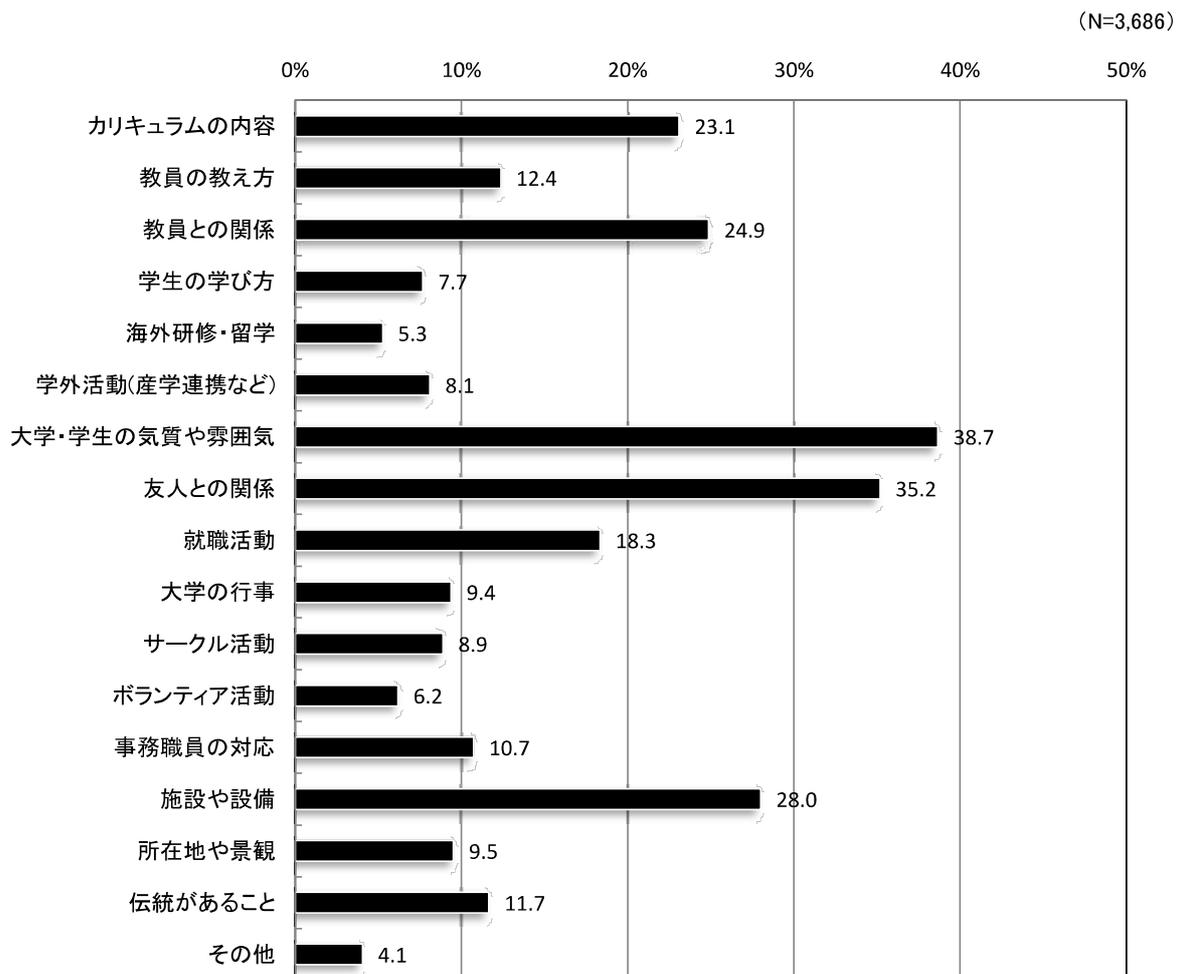
図表Ⅲ-4-①



②大学で良いと思う点（複数回答）

大学で良いと思う点については、「大学・学生の気質や雰囲気」が38.7%と最も高く、次いで、「友人との関係」が35.2%である。学科別にみると、「大学・学生の気質や雰囲気」では日本文学文化学科の44.2%が最も高く、「友人との関係」では看護学科の41.0%が最も高い。

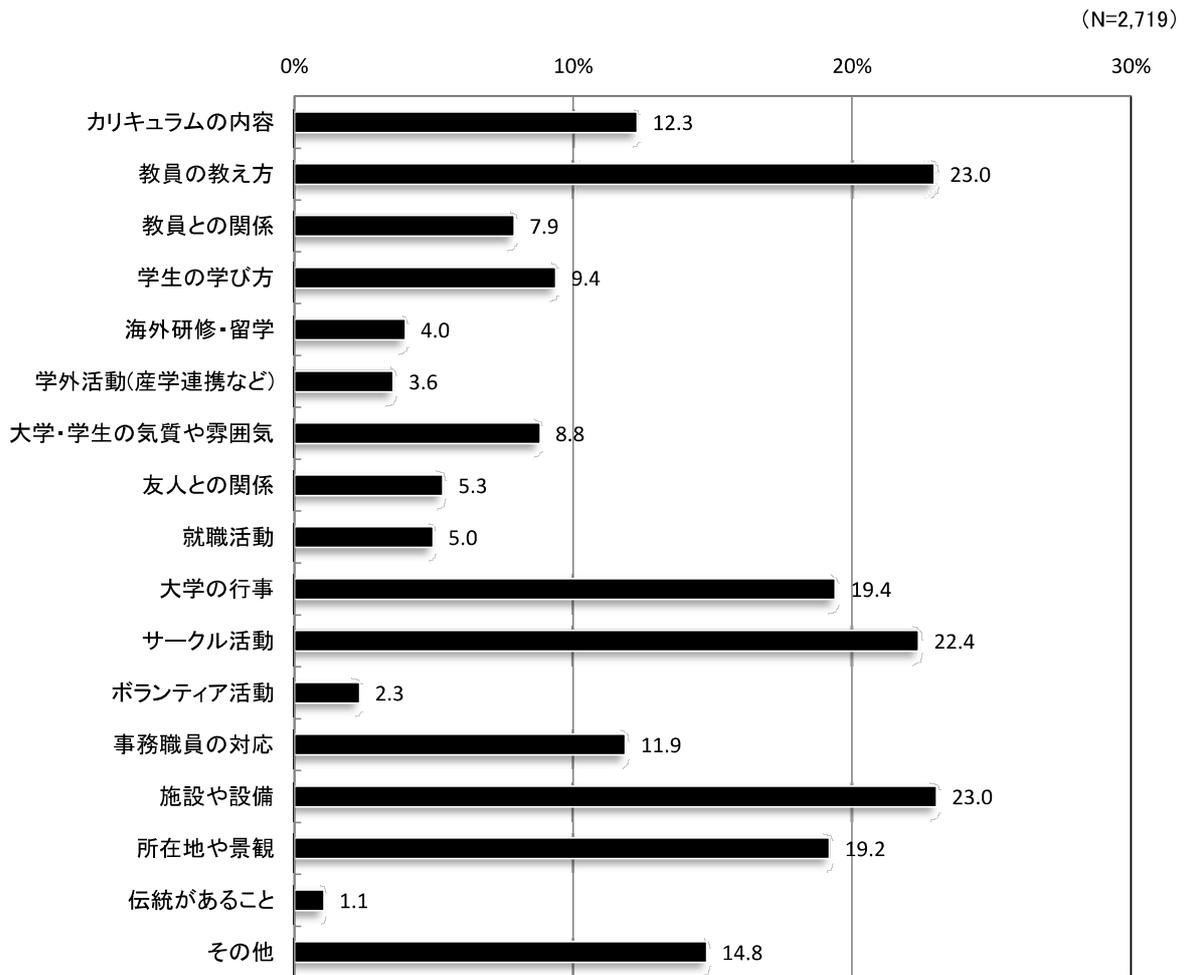
図表Ⅲ-4-②



③大学で不満だと思う点（複数回答）

大学で不満だと思う点については、「教員の教え方」、「施設や設備」が23.0%と最も高く、次いで、「サークル活動」の22.4%である。学科別にみると、「教員の教え方」では国際学科の30.4%が最も高く、「施設や設備」では健康栄養学科の28.0%が最も高い。

図表Ⅲ-4-③



IV. 学生生活アンケート結果その2 (生活関連)

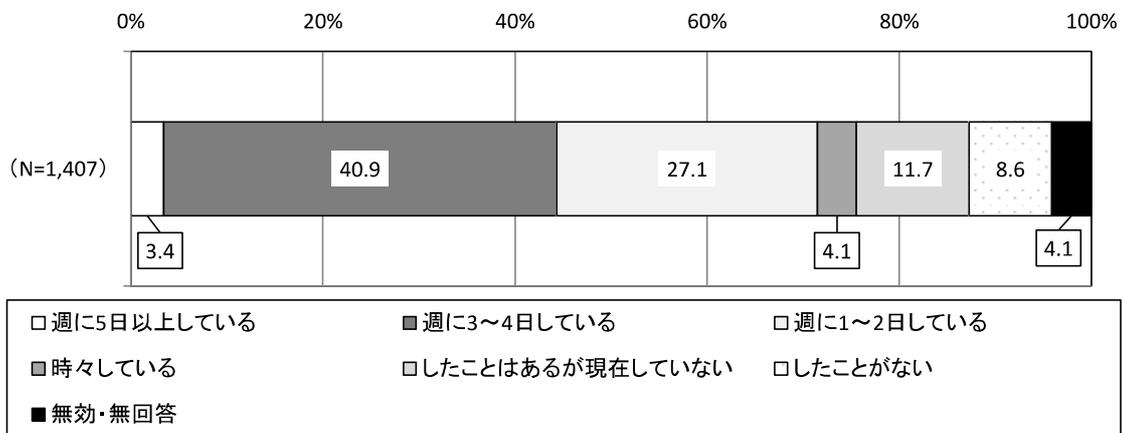
IV. 学生生活アンケート結果その2（生活関連）

1. アルバイトの実態について

① アルバイトの頻度

アルバイトの頻度については、“現在アルバイトをしている”（「週に5日以上」と「週に3～4日」と「週1～2日」と「時々」の合計）は、75.5%である。学科別にみると、こども発達学科では、86.1%と最も高い。

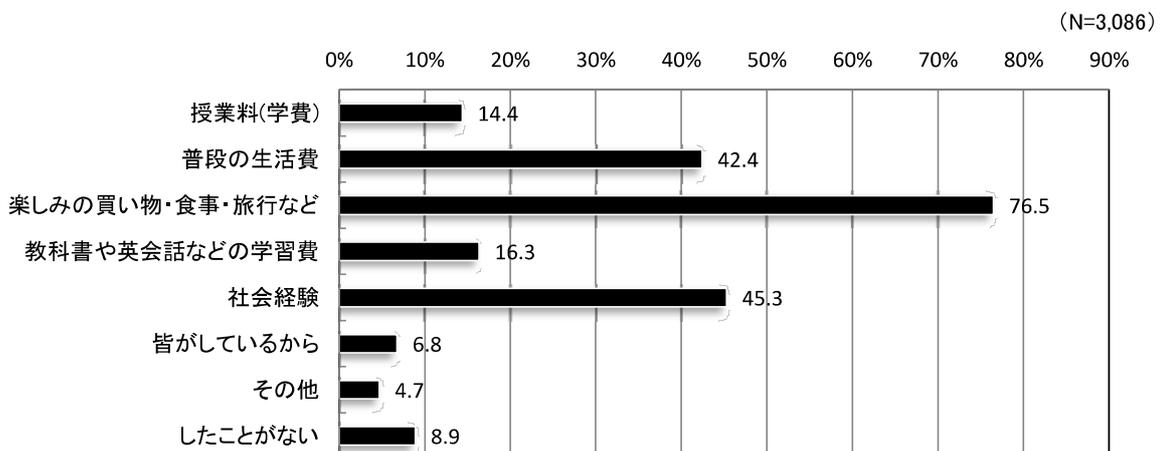
図表IV-1-①



② アルバイトをする理由（複数回答）

アルバイトをする理由については、「楽しみの買い物・食事・料理など」が76.5%と最も高く、次いで「社会経験」が45.3%である。学科別にみると、「楽しみの買い物・食事・料理など」では健康栄養学科が83.6%と最も高い。「社会経験」では心理学科が52.4%と最も高い。

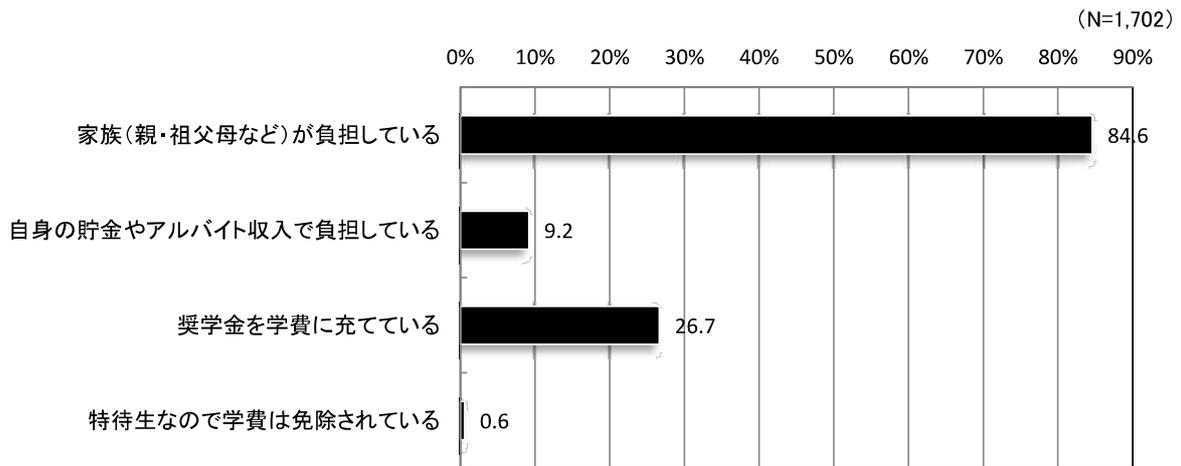
図表IV-1-②



③学費はだれが負担しているか（複数回答）

学費はだれが負担しているかについては、「家族（親・祖父母など）が負担している」が84.6%と最も高い。次いで、「奨学金を学費に充てている」では26.7%である。学科別にみると、「家族（親・祖父母など）が負担している」では看護学科が91.8%と9割を超え、「奨学金を学費に充てている」では健康栄養学科が33.0%である。

図表IV-1-③

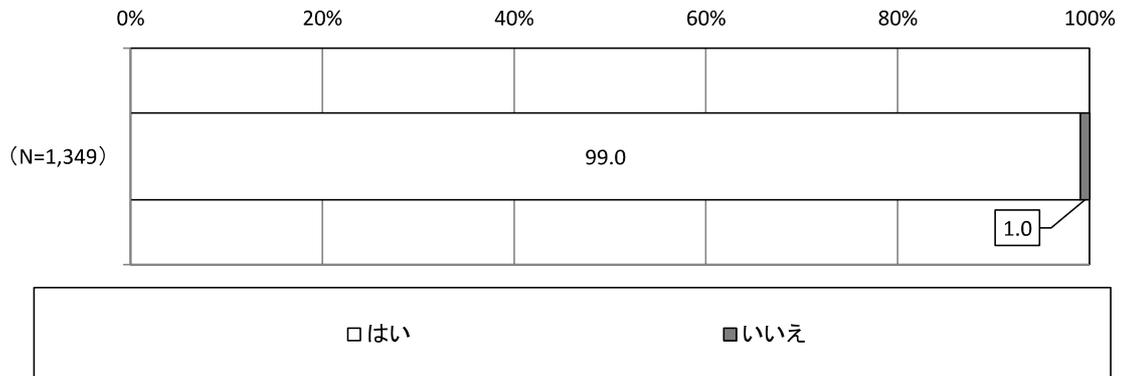


2. モバイル通信端末・PCの利用実態について

①スマートフォンを持っているか

スマートフォンを持っているかについては、「はい」が99.0%と9割を超えている。学科別にみると全学科が9割を超えている。学科・学年別にみても、ほとんどの学科・学年で8割を超えている。（無効・無回答除く）

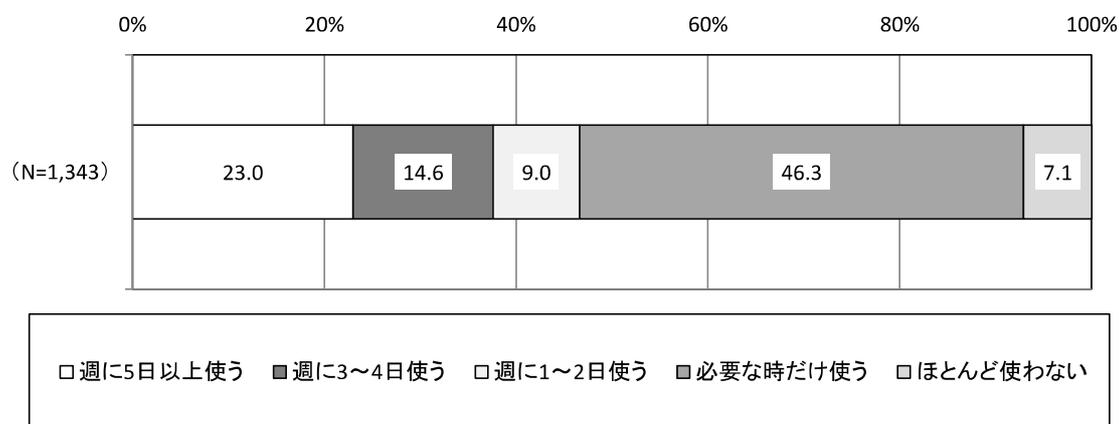
図表IV-2-①



②スマートフォンでの学習頻度

スマートフォンでの学習頻度については、“使う”（「週に5日以上使う」と「週に3～4日使う」と「週に1～2日使う」と「必要な時だけ使う」の合計）は92.9%と高い。学科別にみると、すべての学科で8割を超えている。学科・学年別にみても、ほとんどの学科・学年で8割を超えている。（「持っていない」、無効・無回答除く）

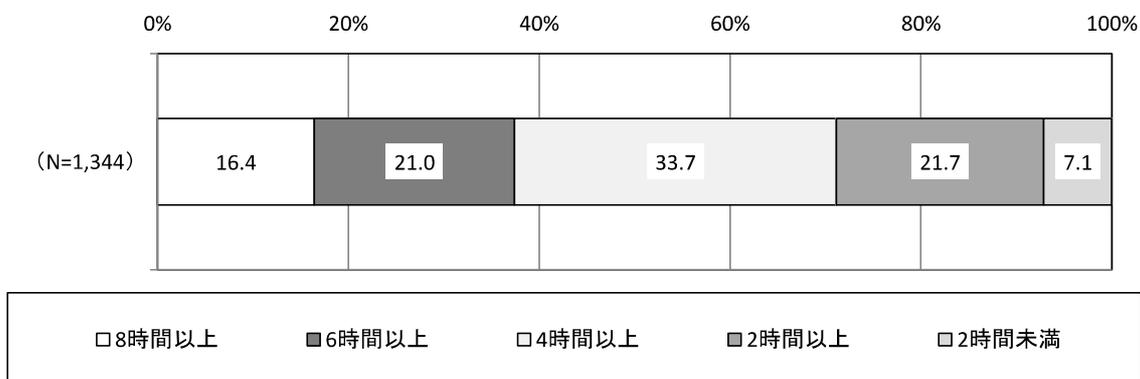
図表IV-2-②



③スマートフォンの平均利用時間

スマートフォンの平均利用時間については、“6時間以上”（「8時間以上」と「6時間以上」の合計）は37.3%である。学科別にみると、日本文学文化学科では46.6%と最も高い。（「持っていない」、無効・無回答除く）

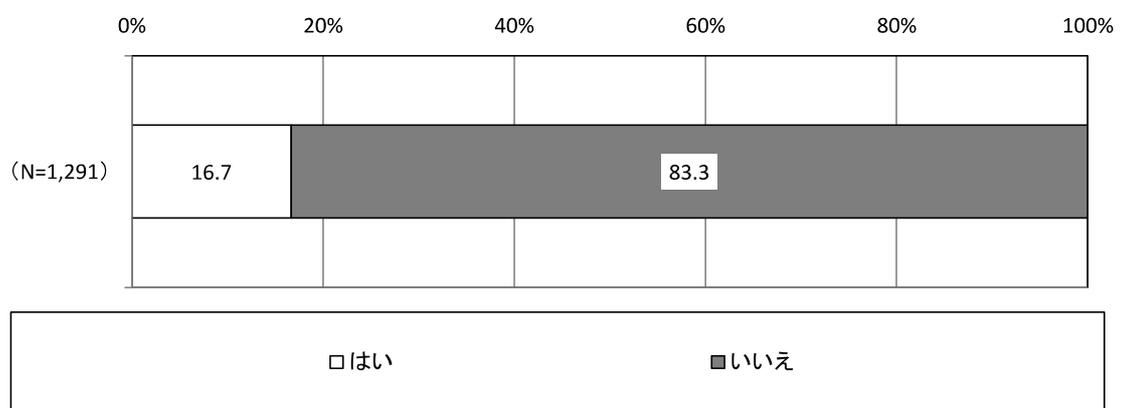
図表IV-2-③



④タブレットを持っているか

タブレットを持っているかについては、「はい」では16.7%である。学科別にみると「はい」では、国際学科では23.1%で最も高い。（看護学科は、教材としてタブレットを全員使用しているため除く。無効・無回答除く）

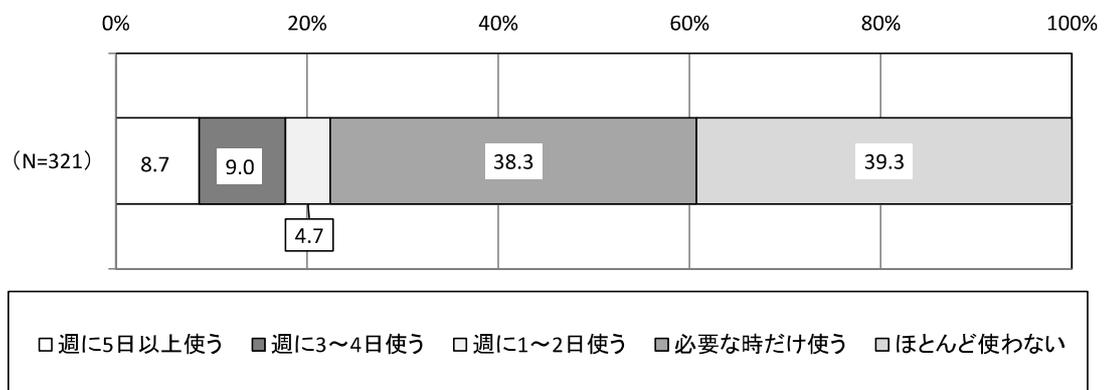
図表IV-2-④



⑤タブレットでの学習頻度

タブレットでの学習頻度については、“使う”（「週に5日以上使う」と「週に3～4日使う」と「週に1～2日使う」と「必要な時だけ使う」との合計）は60.7%である。学科別にみると、教材としてタブレットを全員使用している看護学科では94.7%と高く、看護学科以外では、日本文学文化学科が58.1%で最も高い。（「持っていない」、無効・無回答除く）

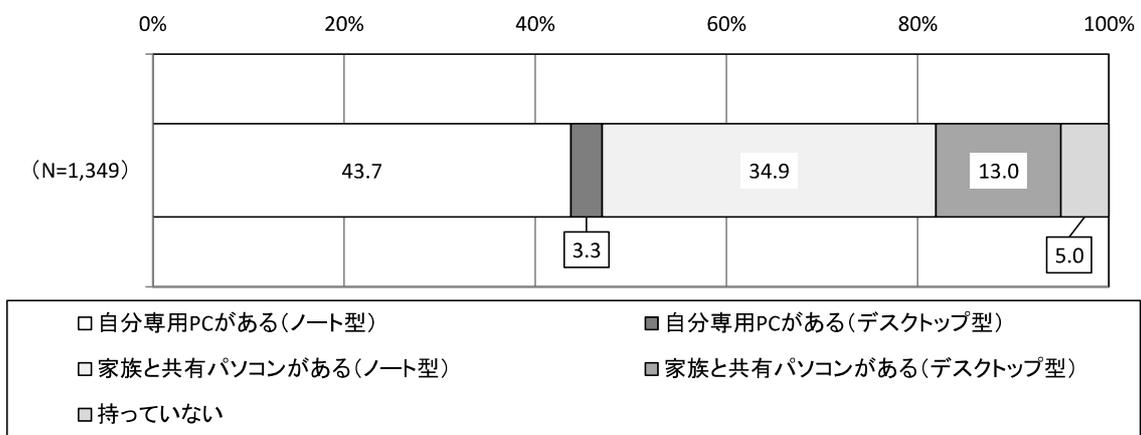
図表IV-2-⑤



⑥PCを持っているか

PCを持っているかについては、“自分専用PCがある”（「自分専用PCがある（ノート型）」と「自分専用PCがある（デスクトップ型）」の合計）は47.0%である。学科別にみると、健康栄養学科では63.4%と最も高い。（無効・無回答除く）

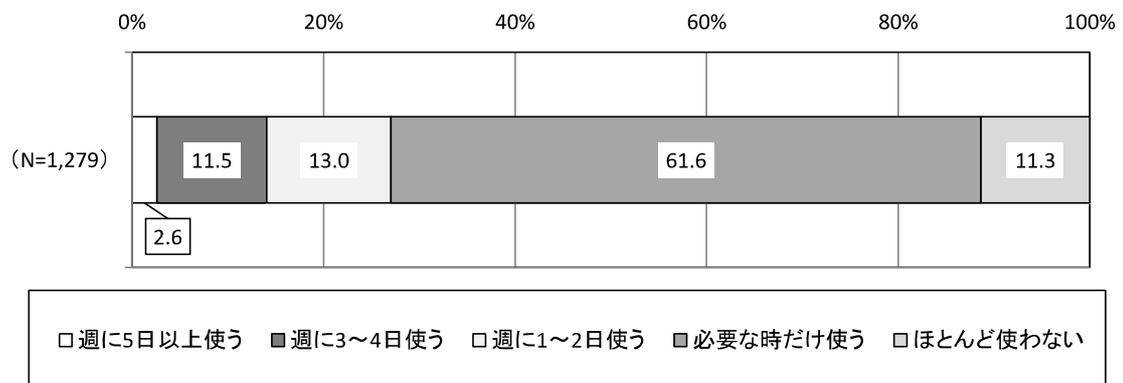
図表IV-2-⑥



⑦PCでの学習頻度

PCでの学習頻度については、“使う”（「週に5日以上使う」と「週に3~4日使う」と「週に1~2日使う」と「必要な時だけ使う」の合計）は88.7%である。学科別にみると、健康栄養学科では95.3%と最も高く、ほとんどの学科で8割を超えている。学科・学年別にみると、ほとんどの学科・学年で8割を超えているが、こども発達学科2年生では65.2%である（「持っていない」、無効・無回答除く）

図表IV-2-⑦

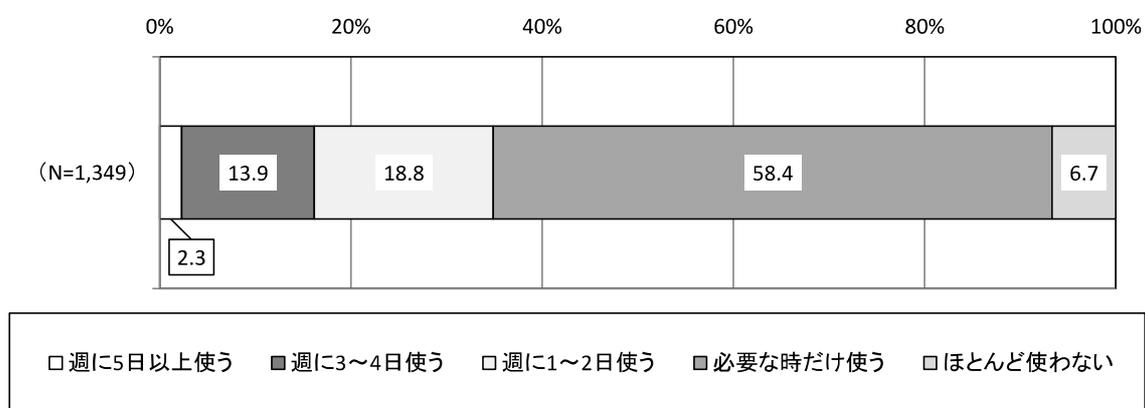


3. 大学設備及びWEBサービスの利用実態について

①大学のPCでの学習頻度

大学のPCでの学習頻度については、“使う”（「週に5日以上使う」と「週に3～4日使う」と「週に1～2日使う」と「必要な時だけ使う」の合計）は93.3%と高く、9割を超えている。学科別にみても、ほとんどの学科で9割を超えている。（無効・無回答除く）

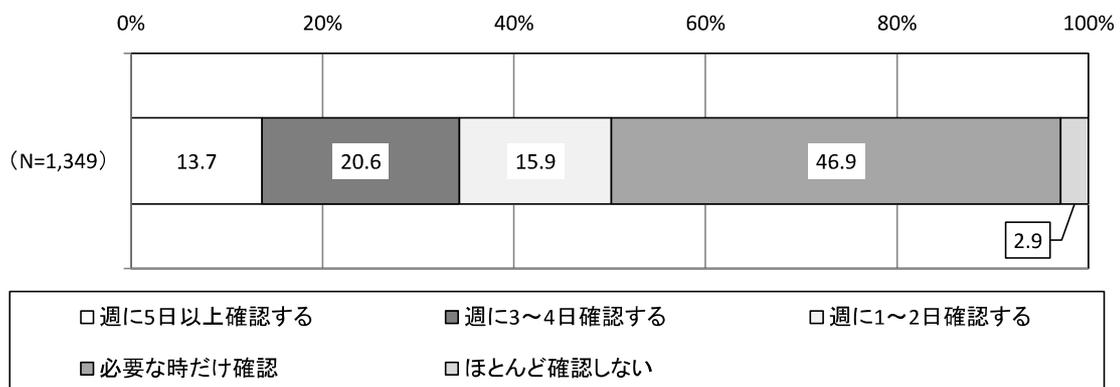
図表IV-3-①



②ポータルサイトからのお知らせの確認頻度

ポータルサイトからのお知らせの確認頻度については、“確認する”（「週に5日以上確認する」と「週に3～4日確認する」と「週に1～2日確認する」と「必要な時だけ確認」の合計）は97.1%で、9割を超えている。学科別にみると、こども発達学科が98.5%と最も高く、全ての学科が9割を超えている。学科・学年別にみても、ほとんどの学科・学年が9割を超え、最も低い数値でも服飾造形学科の4年生で88.9%である。（無効・無回答除く）

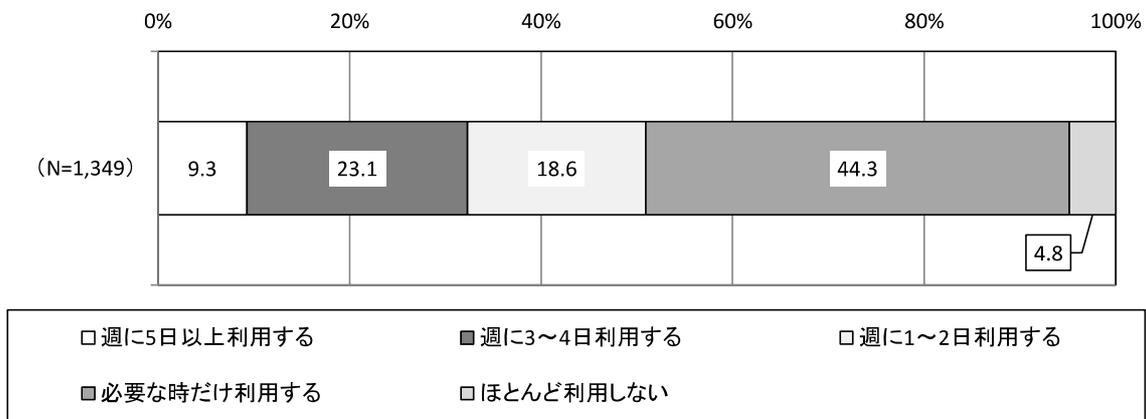
図表IV-3-②



③ マナビコース（授業名コース）の利用頻度

マナビコース（授業名コース）の利用頻度については、“利用する”（「週に5日以上利用する」と「週に3～4日利用する」と「週に1～2日利用する」と「必要な時だけ利用する」の合計）は95.2%と高く、9割を超えている。学科別にみると、健康栄養学科では98.9%と最も高く、ほとんどの学科が9割を超えている。（無効・無回答除く）

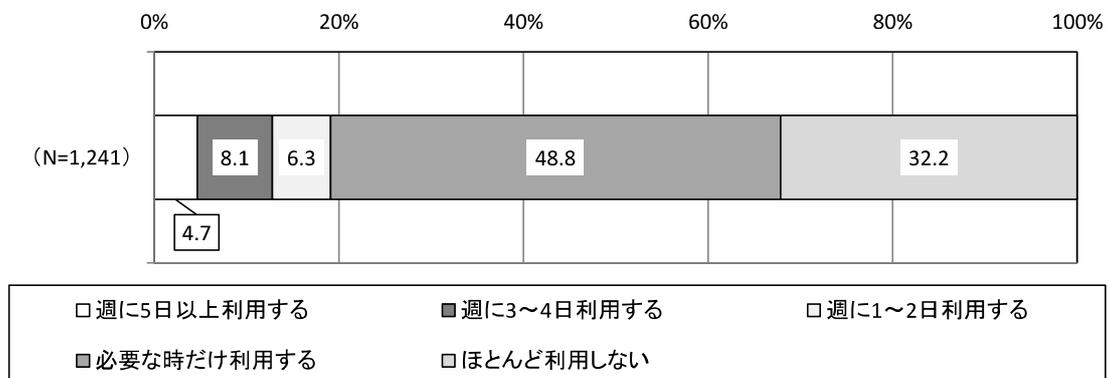
図表IV-3-③



④ マナビコース（個人別コース）のデータ保存活用の頻度

マナビコース（個人別コース）のデータ保存活用の頻度については、“利用する”（「週に5日以上利用する」と「週に3～4日利用する」と「週に1～2日利用する」と「必要な時だけ利用する」の合計）は67.8%である。学科別にみると、国際学科では71.0%と最も高い。また、「どこのことかわからない」は0%だった。（無効・無回答除く）

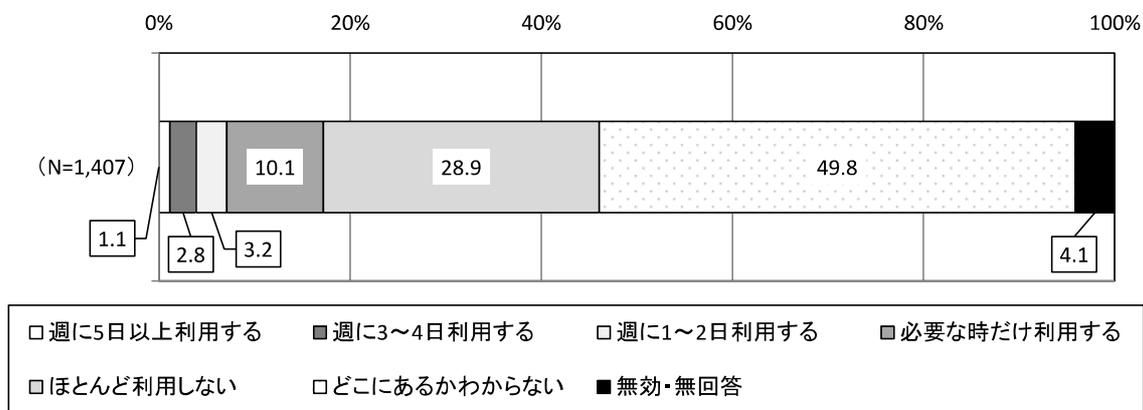
図表IV-3-④



⑤わよりぶの利用頻度

わよりぶ（学習用のWi-Fi）の利用頻度については、“週に3日以上利用する”（「週に5日以上利用する」と「週に3～4日利用する」と「週に1日～2日利用する」と必要なときだけ利用する」の合計）は17.2%と低い。「どこにあるかわからない」が49.8%と約半数であり、大変高い結果である。

図表IV-3-⑤

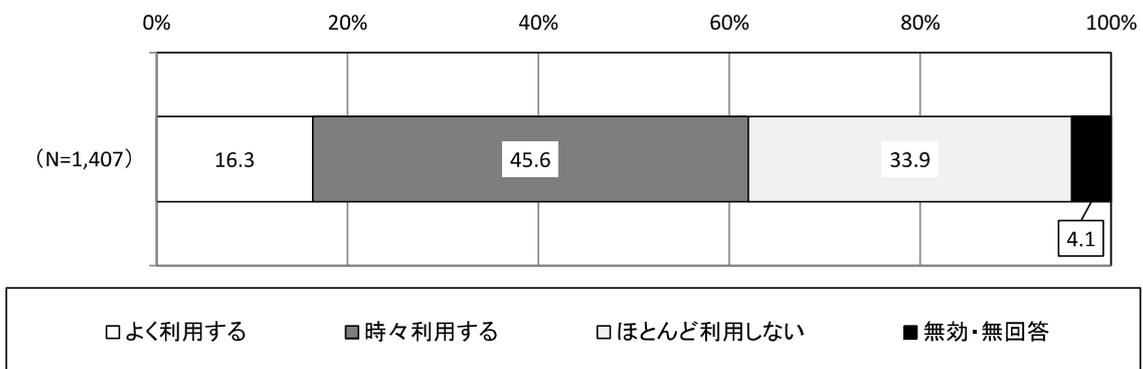


4. 大学施設の利用実態について

①図書館としてのメディアセンターの利用頻度

図書館としてのメディアセンターの利用頻度については、“利用する”（「よく利用する」と「時々利用する」の合計）は61.9%である。学科別にみると、日本文学文化学科では82.7%と最も高い。

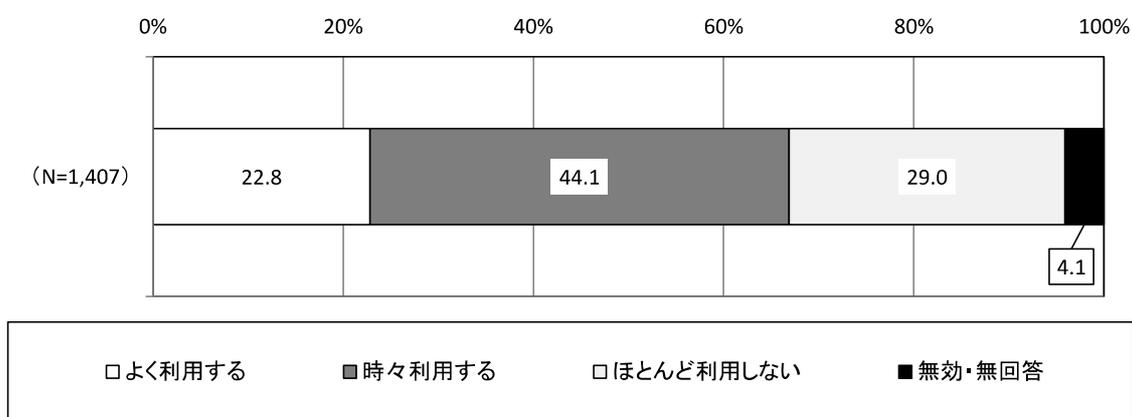
図表IV-4-①



②勉強場所としてのメディアセンターの利用頻度

勉強場所としてのメディアセンターの利用頻度については、“利用する”（「よく利用する」と「時々利用する」の合計）は66.9%である。学科別にみると、日本文学文化学科では74.9%と最も高い。

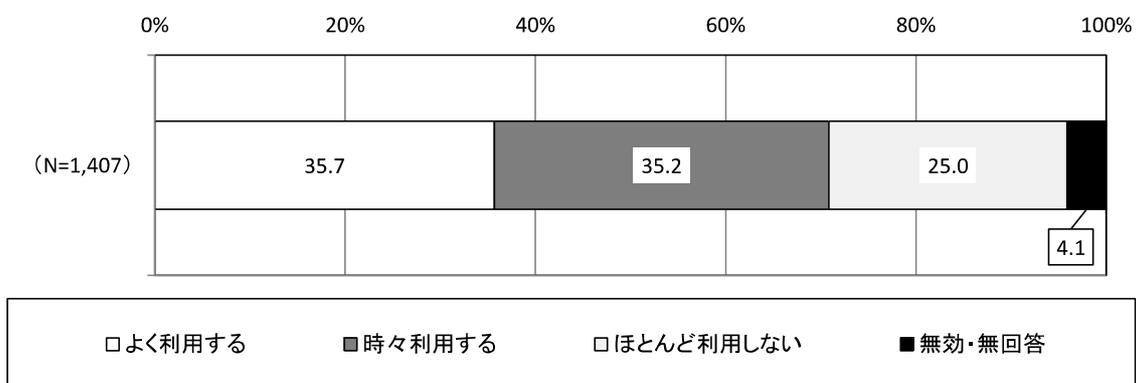
図表IV-4-②



③学生食堂の利用頻度

学生食堂の利用頻度については、“利用する”（「よく利用する」と「時々利用する」の合計）は70.9%と7割を超えている。学科別にみると、こども発達学科では77.1%と最も高く、8割近い割合である。

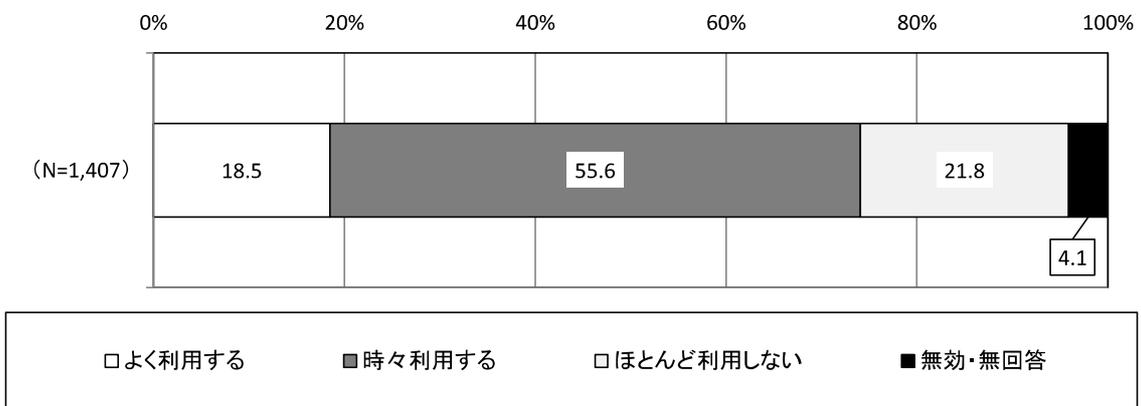
図表IV-4-③



④購買部・紀伊国屋書店ブックセンターの利用頻度

購買部・紀伊国屋書店ブックセンターの利用頻度については、“利用する”（「よく利用する」と「時々利用する」の合計）は74.1%である。学科別にみると、こども発達学科では86.2%と最も高い。

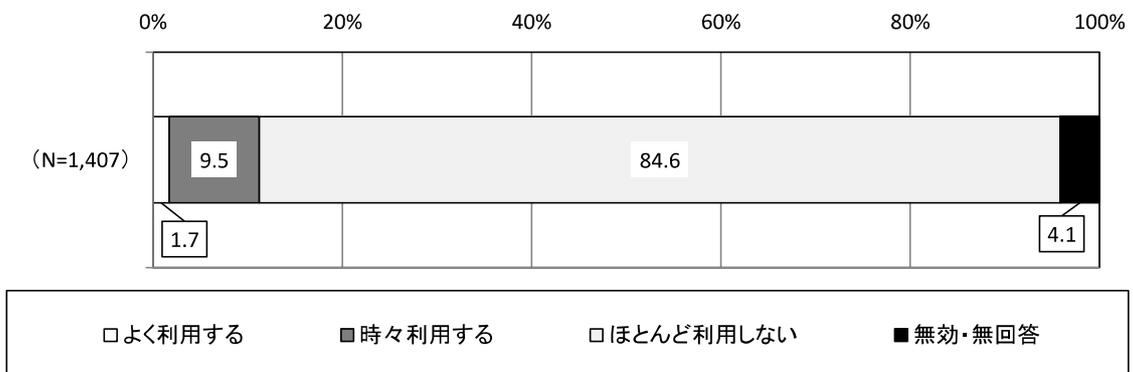
図表IV-4-④



⑤保健センター・学生相談室・ユニバーサルサポート室の利用頻度

保健センター・学生相談室・ユニバーサルサポート室の利用頻度については、“利用する”（「よく利用する」と「時々利用する」の合計）は11.2%である。学科別にみると、心理学科では16.2%と最も高い。

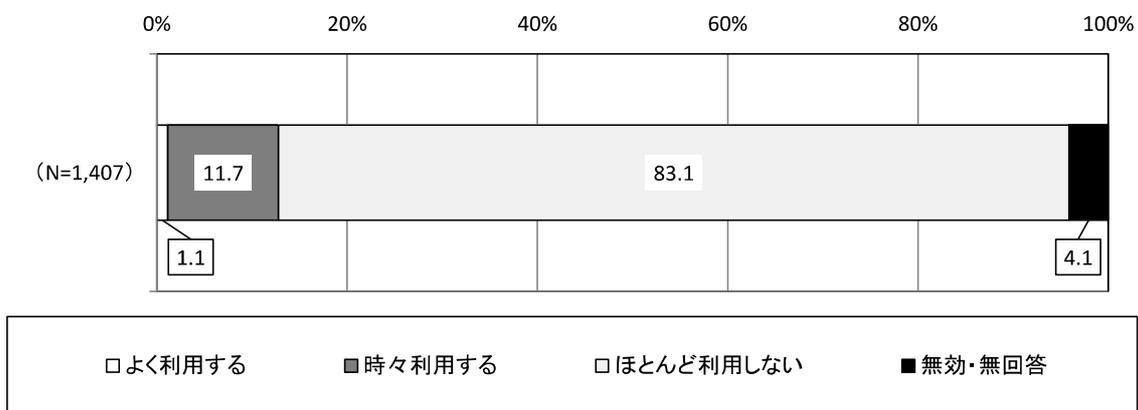
図表IV-4-⑤



⑥ラーニングステーションの利用頻度

ラーニングステーションの利用頻度については、“利用する”（「よく利用する」と「時々利用する」の合計）は12.8%と低い。学科別にみると、国際学科では26.0%で最も高い。

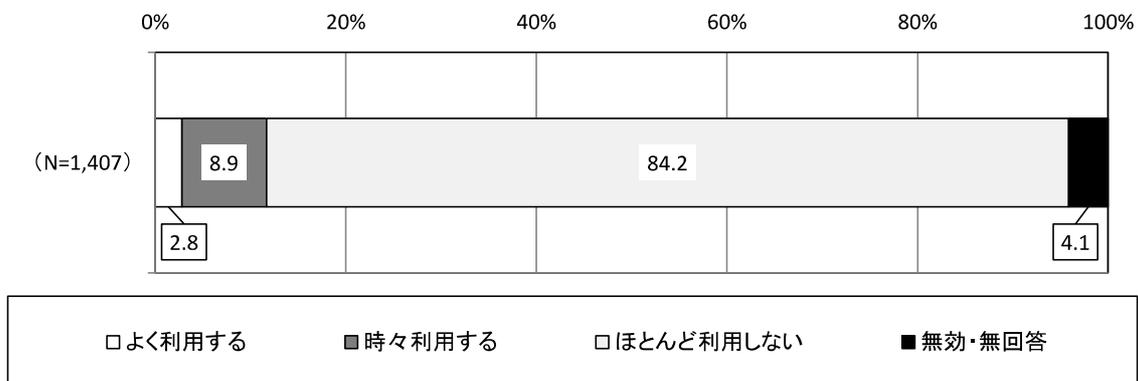
図表IV-4-⑥



⑦教職教育支援センターの利用頻度

教職教育支援センターの利用頻度については、“利用する”（「よく利用する」と「時々利用する」の合計）は11.7%である。学科別にみると、服飾造形学科では27.3%と最も高い。

図表IV-4-⑦

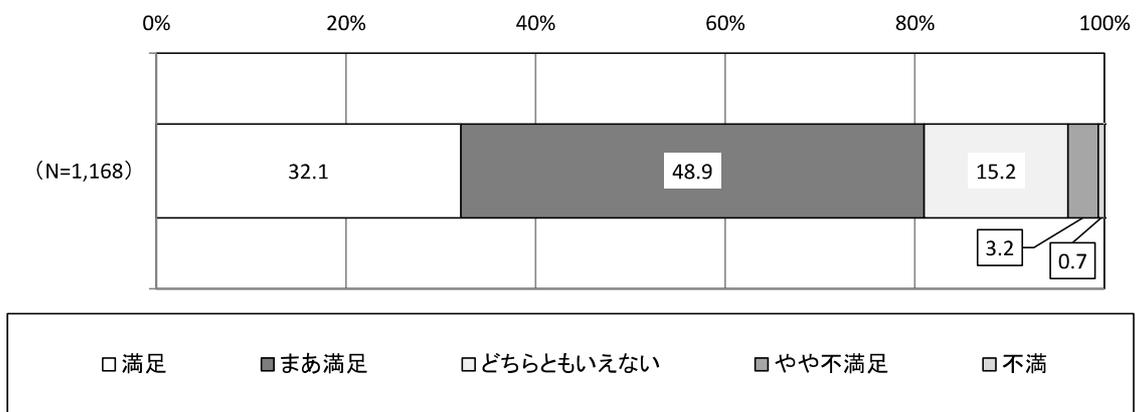


5. 大学施設の満足度について

①図書館としてのメディアセンターの満足度

図書館としてのメディアセンターの満足度については、利用者のうち、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は81.0%と高い。（「ほとんど利用しない」、無効・無回答除く）

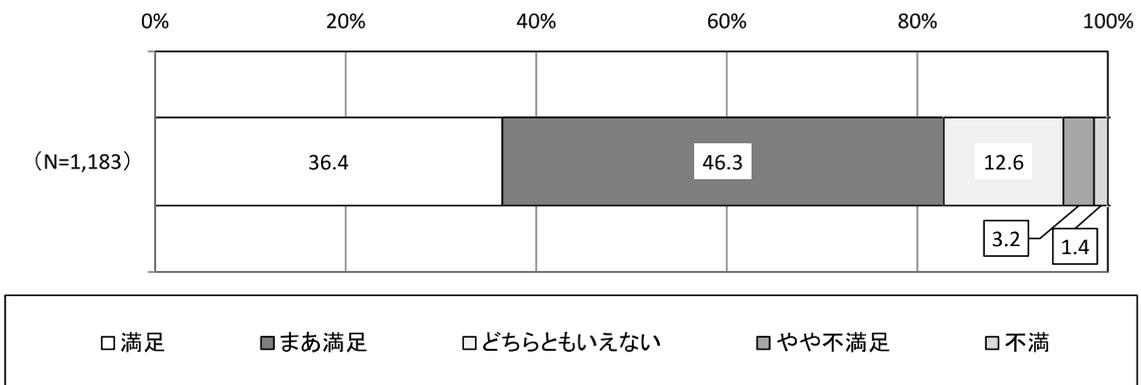
図表IV-5-①



②勉強場所としてのメディアセンターの満足度

勉強場所としてのメディアセンターの満足度については、利用者のうち、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は、82.7%である。（「ほとんど利用しない」、無効・無回答除く）

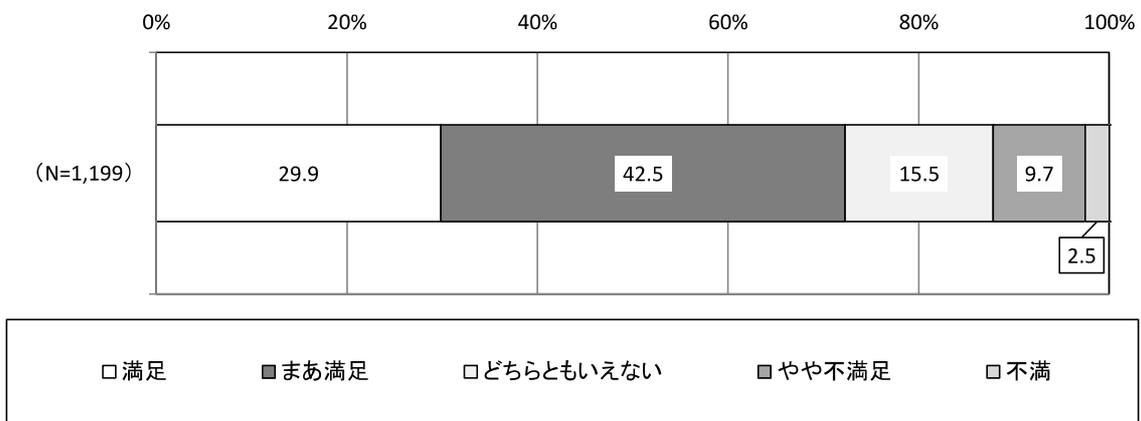
図表IV-5-②



③学生食堂の満足度

学生食堂の満足度については、利用者のうち、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は72.4%である。（「ほとんど利用しない」、無効・無回答除く）

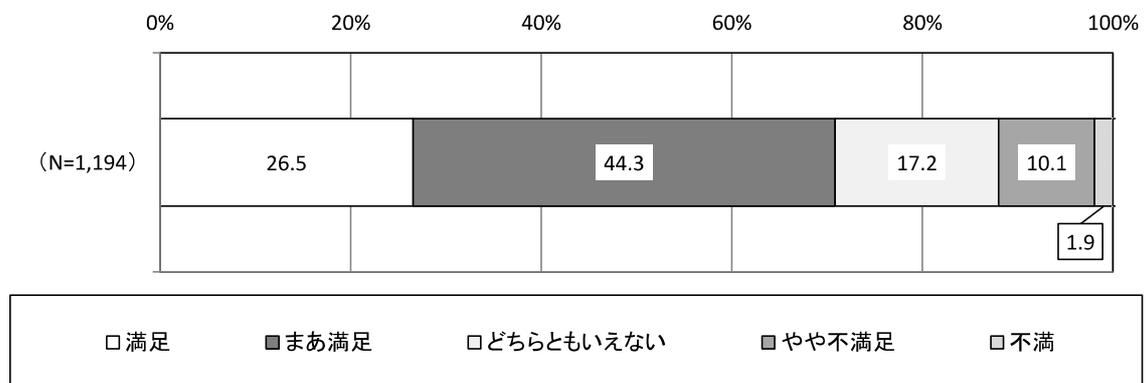
図表IV-5-③



④購買部・紀伊国屋書店ブックセンターの満足度

購買部・紀伊国屋書店ブックセンターの満足度については、利用者のうち、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は70.8%である。（「ほとんど利用しない」、無効・無回答除く）

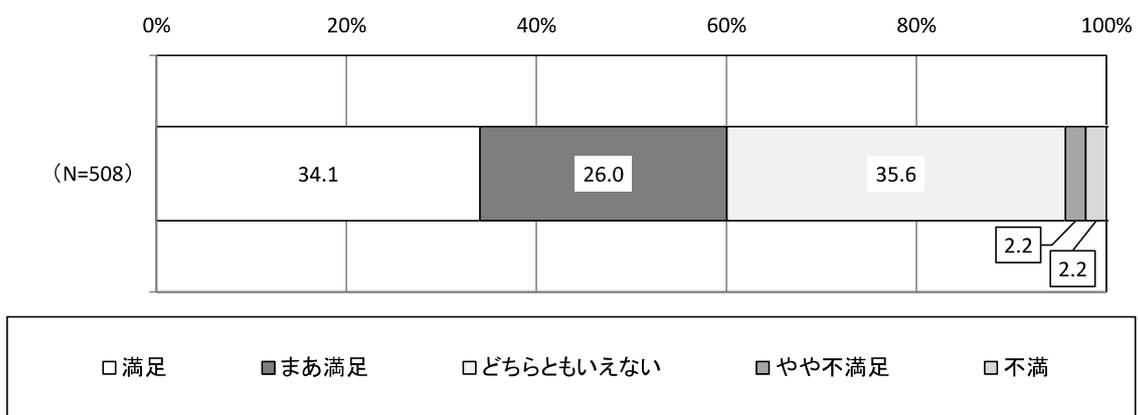
図表IV-5-④



⑤保健センター・学生相談室・ユニバーサルサポート室の満足度

保健センター・学生相談室・ユニバーサルサポート室の満足度については、利用者のうち、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は60.1%である。（「ほとんど利用しない」、無効・無回答除く）

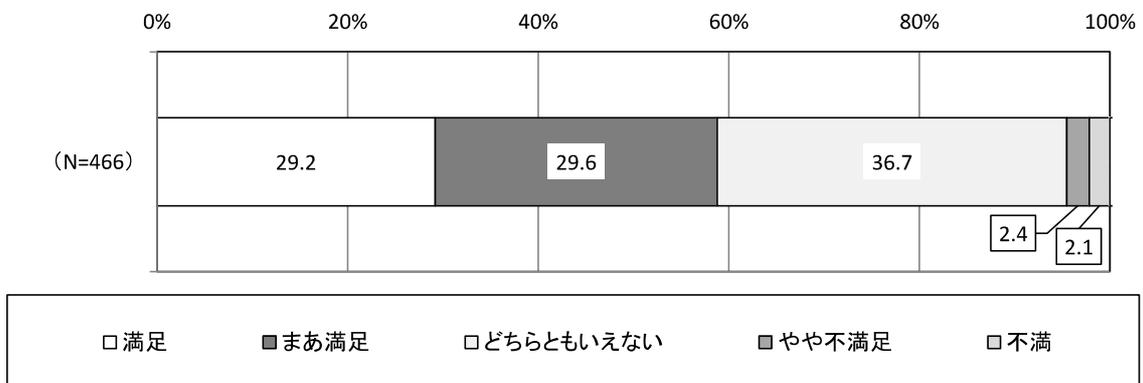
図表IV-5-⑤



⑥ラーニングステーションの満足度

ラーニングステーションの満足度については、利用者のうち、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は58.8%である。（「ほとんど利用しない」、無効・無回答除く）

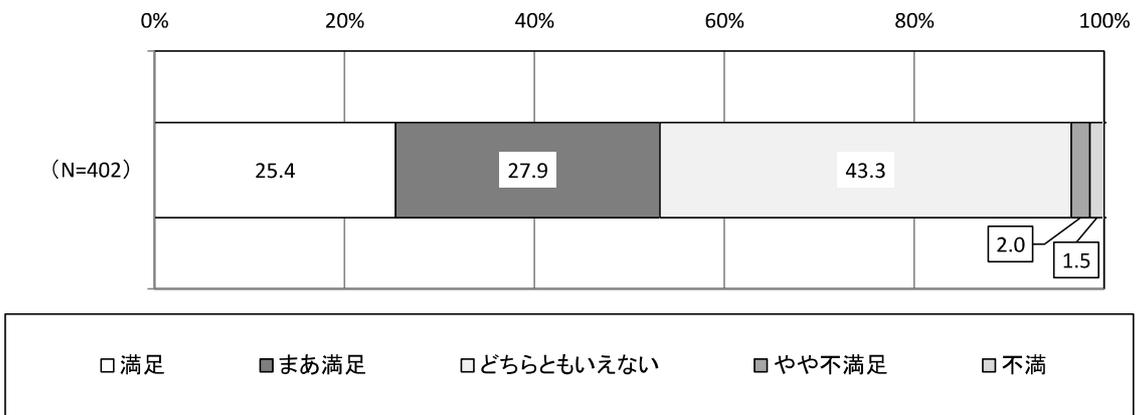
図表IV-5-⑥



⑦教職教育支援センターの満足度

教職教育支援センターの満足度については、利用者のうち、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は53.3%である。（「ほとんど利用しない」、無効・無回答除く）

図表IV-5-⑦

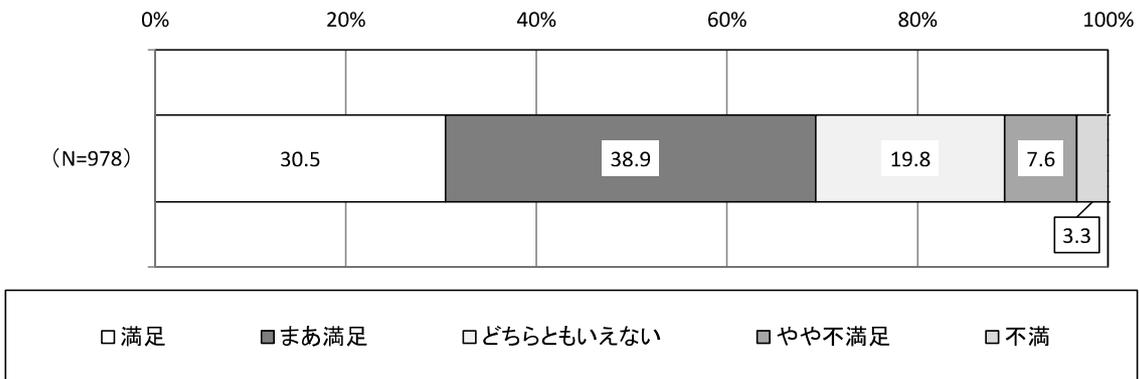


6. 事務対応の満足度について

①教務課の事務対応の満足度

教務課の事務対応の満足度については、利用者のうち、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は69.4%である。（「ほとんど利用しない」、無効・無回答除く）

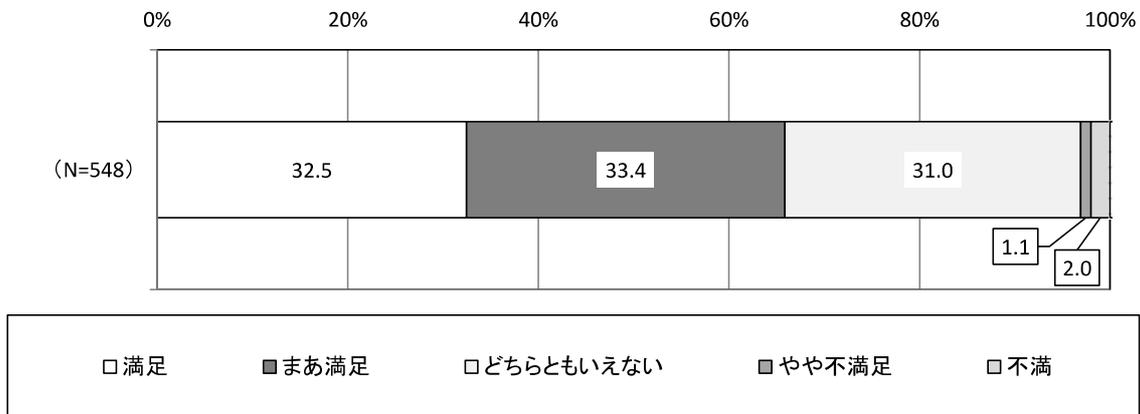
図表IV-6-①



②教育支援課の事務対応の満足度

教育支援課の事務対応の満足度については、利用者のうち、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は65.9%である。（「ほとんど利用しない」、無効・無回答除く）

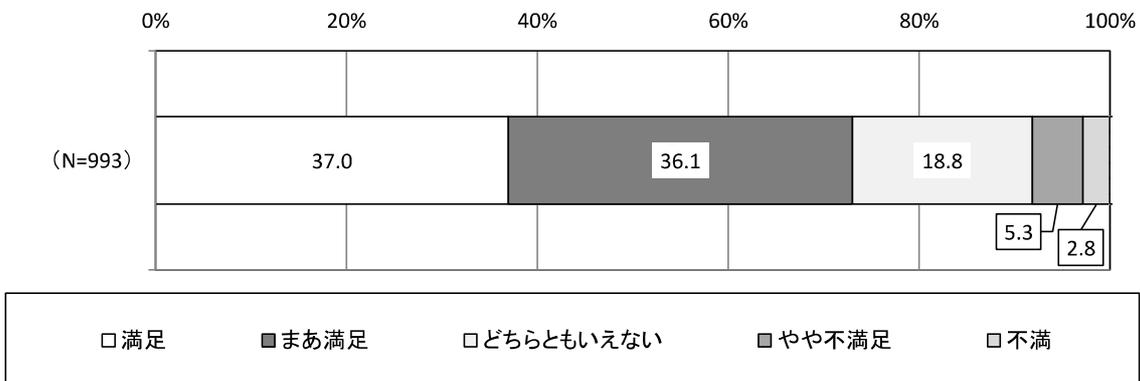
図表IV-6-②



③学生課の事務対応の満足度

学生課の事務対応の満足度については、利用者のうち、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は73.1%である。（「ほとんど利用しない」、無効・無回答除く）

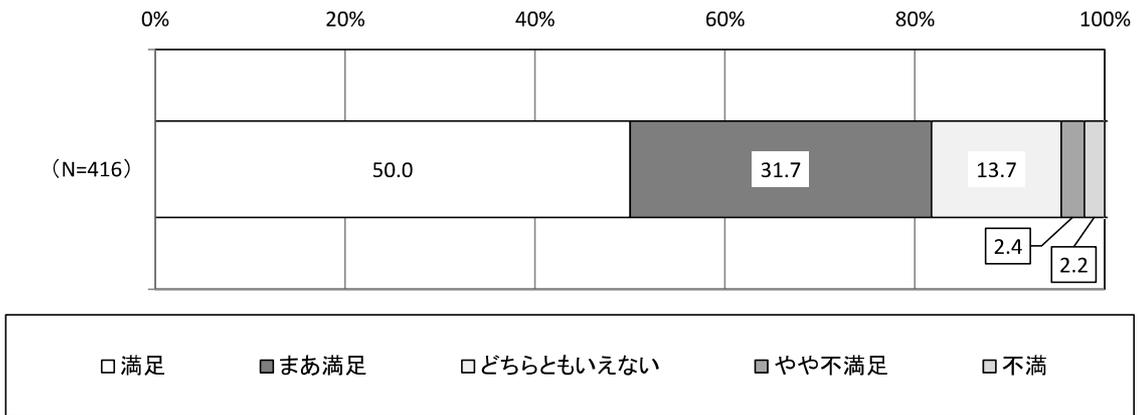
図表IV-6-③



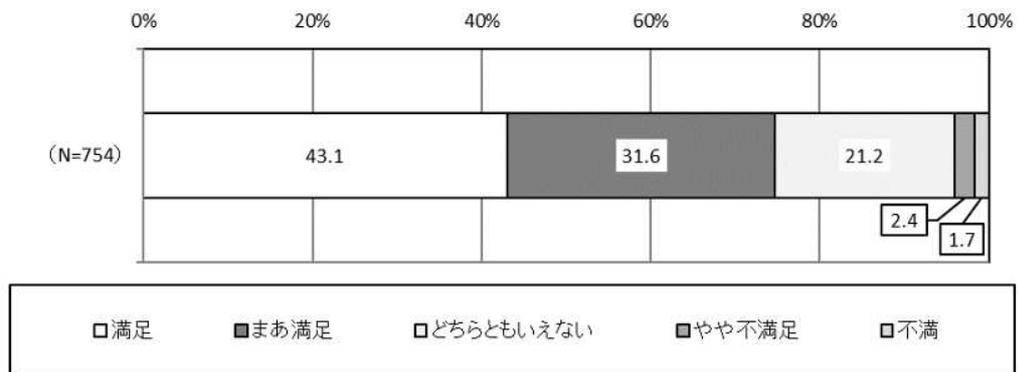
④進路支援センターの事務対応の満足度

進路支援センターの事務対応の満足度については、主な利用が3・4年生であるため、この2学年の結果である。利用者のうち、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）は81.7%と高い。（「ほとんど利用しない」、無効・無回答除く）

図表IV-6-④（3・4年生）



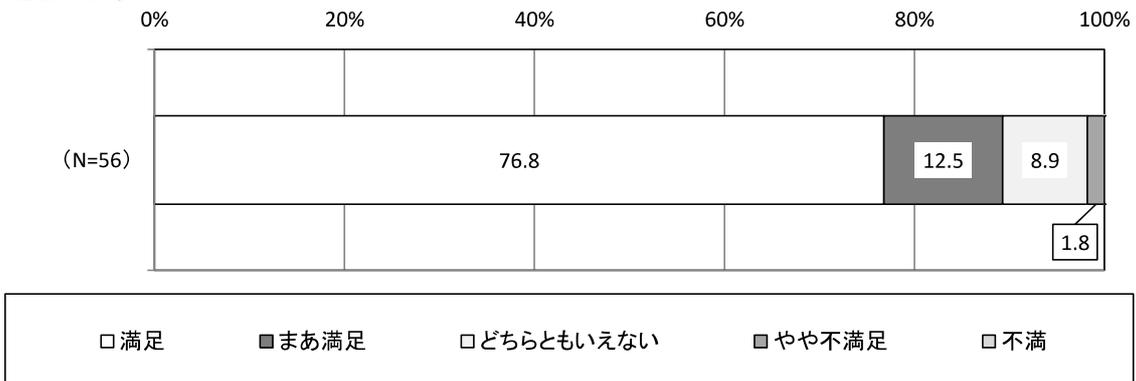
図表IV-6-④-2（参考：全学年）



⑤さとみ館事務室の事務対応の満足度

さとみ館事務室については、看護学科の学生のみの利用であり、かつ、開設年度であるため、1年生のみの結果である。事務対応の満足度は、利用者のうち、“満足している”（「満足」と「まあ満足」の合計）が82.0%と高い。（「ほとんど利用しない」、無効・無回答除く）

図表IV-6-⑤



V. 学生生活アンケート結果その3 (悩み・ハラスメント関連)

V. 学生生活アンケート結果その3（悩み・ハラスメント関連）

この項目については、個人情報が含まれるため大学外へは非公開とする。

VI. 各学科および各課の問題点と課題

VI. 各学科および各課の問題点と課題

H28 の学生生活アンケート報告書に引き続き、各学科のカリキュラム、専門科目への満足度、勉強目標の明確さ、大学全体への満足度について、学科ごとに H26 以降の結果を経年的に比較し、学科長による所属学生の回答結果についての「まとめと課題」の執筆を依頼した。

加えて、各部署に H30 のアンケート結果の総括および今後の課題について各課長・室長に依頼した。過去の設問と多少違いはあるが、経年で比較できる設問結果については分析も含む。なお、これまでの保健室は名称が保健センターに変わった。またユニバーサルサポート推進室については、H28 に開設されたため経年比較は行われていない。

1. 国際学科

学科長 里正明伍

(1) 概要

国際学科は平成 26 年（2014 年）4 月に英語・英文学類と心理・社会学類の国際社会システム専修の合併により国際学類の名称で設置され、本アンケートが実施された平成 30 年度（2018 年度）は 5 年目となり、一部留年生を除き全学年の学生に対しては新カリキュラムによる教育が行われている。ただこのカリキュラムは組織体制の改組同様十分な準備を経たものとは言えない部分もあり、そのため 6 年でその役目を終え令和 2 年度（2020 年度）からは新しく国際学部として展開されることとなった。このような経緯もあり、理想とは相当距離のある評価となった。以下にカリキュラムの目標合致度、専門科目満足度、勉強目標の明確さ、大学全体の満足度等に分けて課題を中心に分析を行う。

(2) カリキュラムの目標合致度

「よく合っている」と「だいたい合っている」の合計が 67.1%で、全学平均 78.8%を大きく下回っている。無効・無回答が 9.5%であることは気になるところであるが、合致度が相対的に低いことは否めない。国際学科の場合、これは教育目標の認知度とパラレルな関係にある。「4 年間に何を学ぶことができるかを知っている」学生は 78.5%で、全学平均の 85.4%を大きく下回っている。ちなみに国家資格系の学科健康栄養とこども発達は 9 割を超えている。このような客観的な要因も考えられるとはいえ、カリキュラムの編成、その周知に問題があることは否定できない。「よく合っている」と「だいたい合っている」の経年変化では、平成 26 年が 75%、平成 28 年が 75.2%で、いずれも今回より高い。これには今回顕著な無効・無回答 9.5%が影響している部分もあるようであるが、平成 28 年度からの改組をめぐっての混乱も影響しているように思われる。

(3) 専門科目満足度

「満足」と「まあ満足」の合計が 64.6%で、これも全学平均 76.2%を大きく下回っている。ただ、4 年生の場合 91.7%となり、看護を除く全学科の 4 年生平均 86.8%を上回っている。低学年と高学年のギャップはこれまでの国際の特徴として認識されているが、とりわけ低学年の満足度向上は今後の課題である。「満足」と「まあ満足」の経年変化では、平成 28 年が 75.2%で今回より高い。これにはカリキュラムの目標合致度と同様の原因が考えられる。

(4) 勉強目標の明確さ

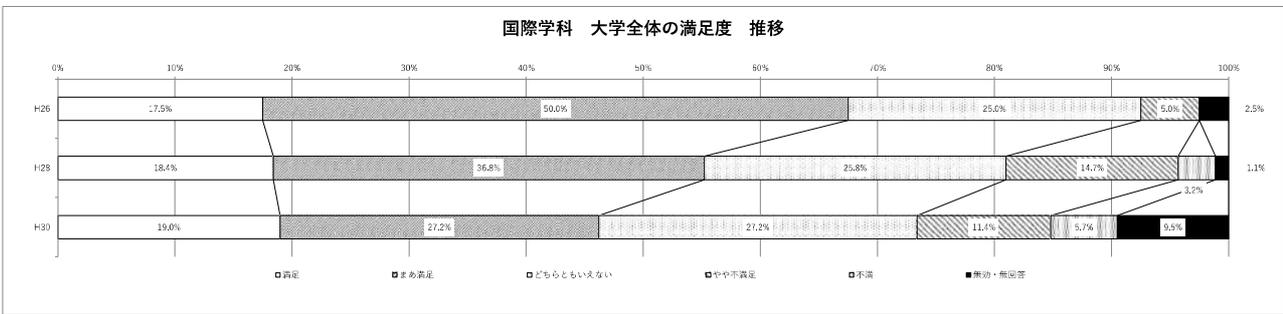
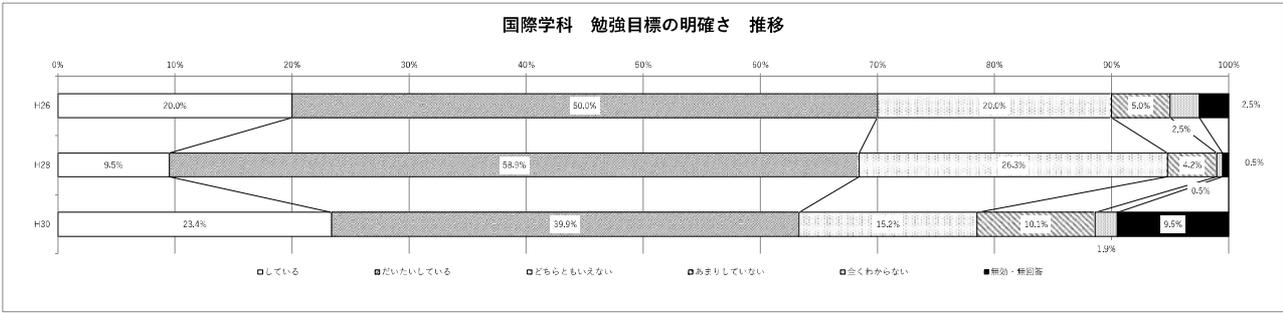
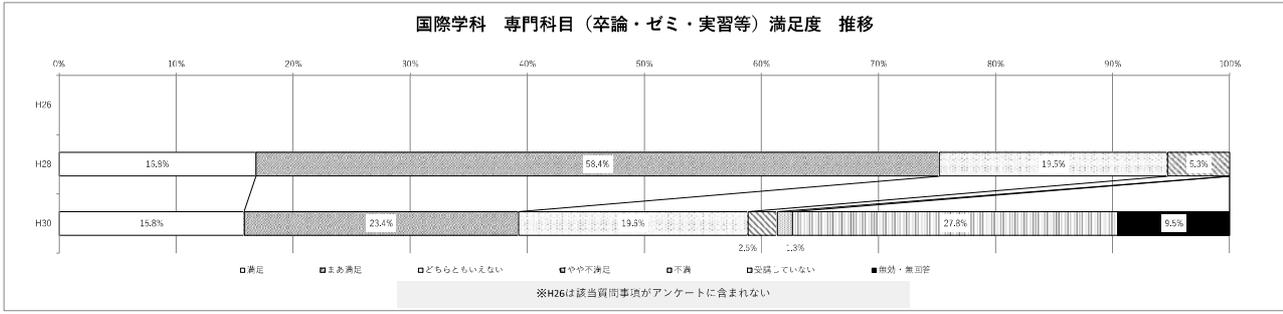
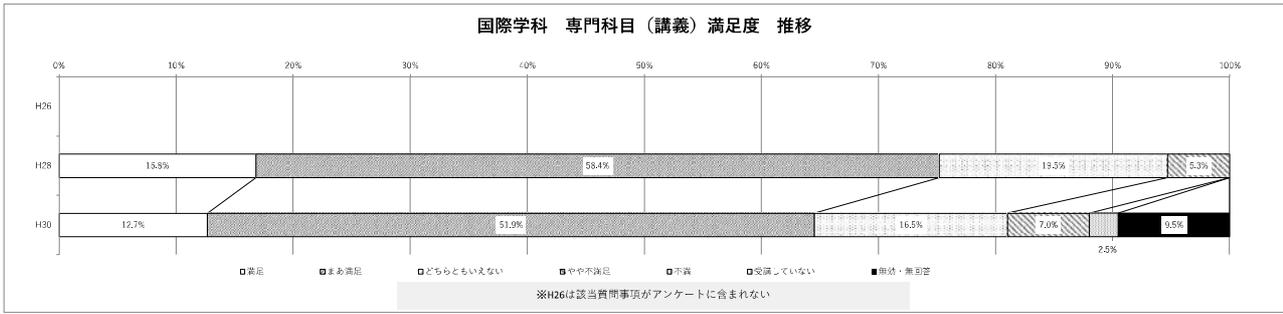
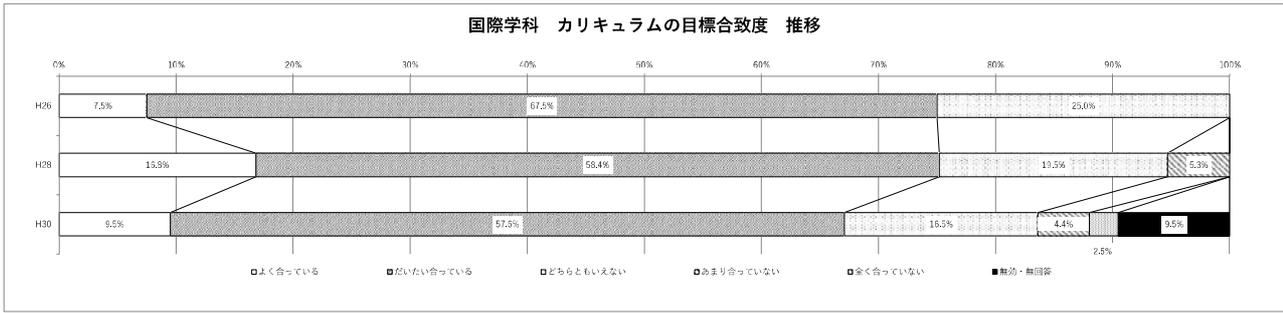
「はっきりしている」と「だいたいはっきりしている」の合計が 63.3%で、全学平均 66.1%を若干下回っている。経年変化では、平成 26 年が 70%、平成 28 年が 68.4%で、いずれも今回より高いが、原因については前記の改組関連の影響も考えられる。

(5) 大学全体の満足度

「満足」と「まあ満足」の合計が 46.2%で、全学平均 63.9%を大きく下回っている。経年変化では、平成 26 年が 67.5%、平成 28 年が 55.2%で、いずれも今回より高い。大学全体の満足度は当然ながら学科以外の諸体制への評価によるところが大きいと思われるが、学科が大学を反映している部分も大きく努力の余地が認められる。

(6) まとめと課題

来年度からの国際学部の展開に向け、とりわけ早い段階から目標意識を明確にさせ、しかも確実に目標が実現できるような仕組みを整えていく必要性を痛感する。



※改組のためH26・H28は1年生のみ、H30は全学年

2. 日本文学文化学科

学科長 井上清徳

(1) 概要

この度の平成30年度実施学生アンケート調査について、カリキュラムの目標合致度、専門科目満足度、勉強目標の明確さ、大学全体の満足度の項目について日本文学文化学科全体の数字と、さらに各学年単位での数値についても経年の変化と推移を見ることができ、それぞれの項目について問題点と課題を見出した。

(2) カリキュラムの目標合致度

H26は「よく合っている」と「だいたい合っている」をあわせた数値が77.6%という結果であったが、H28は76.2%とわずかではあるが減少した。この度のH30の結果は「よく合っている」と「だいたい合っている」をあわせた数値が77.5%であり、H26、H28、H30はおおよそ77%を維持しているといえる。この項目については、数値からは顕著な問題点はないように捉えられるが、日本文学文化学科は専攻ごとにカリキュラムが設定されていることから、さらに詳細な分析を要する。

(3) 専門科目満足度

H24は「満足している」と「まあ満足している」をあわせた数値が72.8%という結果であったが、H28は80.9%とH24を大きく上回る結果であった。この度のH30では「満足している」と「まあ満足している」をあわせた数値が日本文学文化学科全体では75.7%と前回のH28は80.9%をやや下回る結果となった。しかし3年生では「満足している」と「まあ満足している」をあわせた数値が79.5%、4年生では82.6%と、専門科目が多くなる学年では高い満足度であることがうかがえるので、1、2年生と3、4年生の満足度の差をいかに少なくしていくかが今後の課題となる。

(4) 勉強目標の明確さ

H24は「はっきりしている」と「大体はっきりしている」をあわせた数値が52.1%であったのに対し、H26は56.7%とやや上昇し、H28は60.6%とさらに上昇の数字を示した。H30は日本文学文化学科全体では57.1%とやや前回の調査を下回ったもののH26よりはわずかではあるが高い数字となっている。しかし、こうした経年変化から見ると依然として、おおよそ40%の学生が勉強目標を明確に意識できていないということが継続して結果として見られるということは大きな問題と捉えるべきであろう。学生それぞれが、勉強の目標を明確にできるような指導や、目標を達成するための手段をいかに考えるかという課題を日本文学文化学科科学教員全体の目標として共有していくことが肝要と考え努力していきたい。

(5) 大学全体の満足度

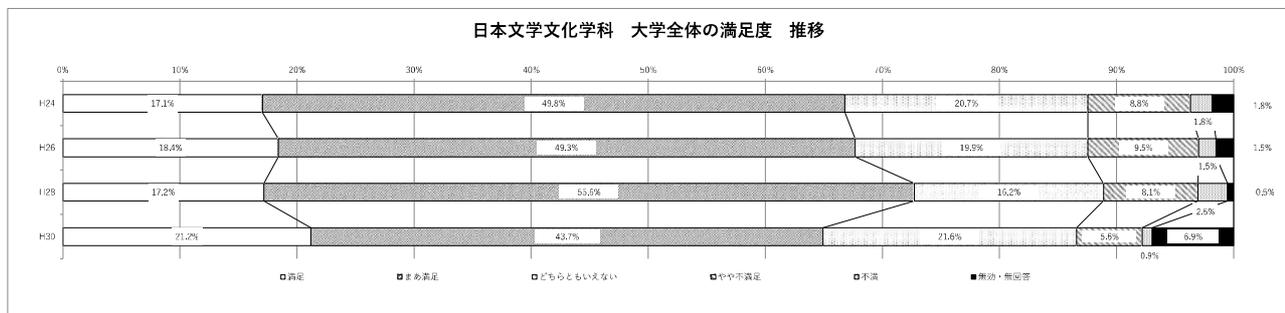
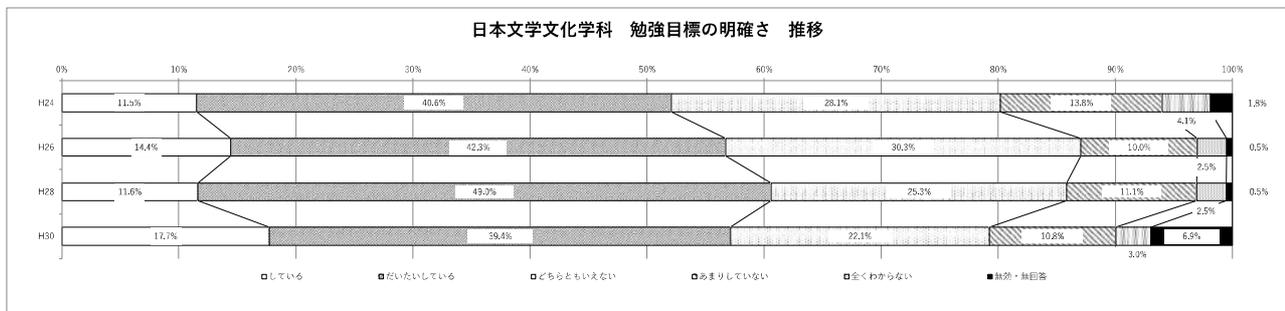
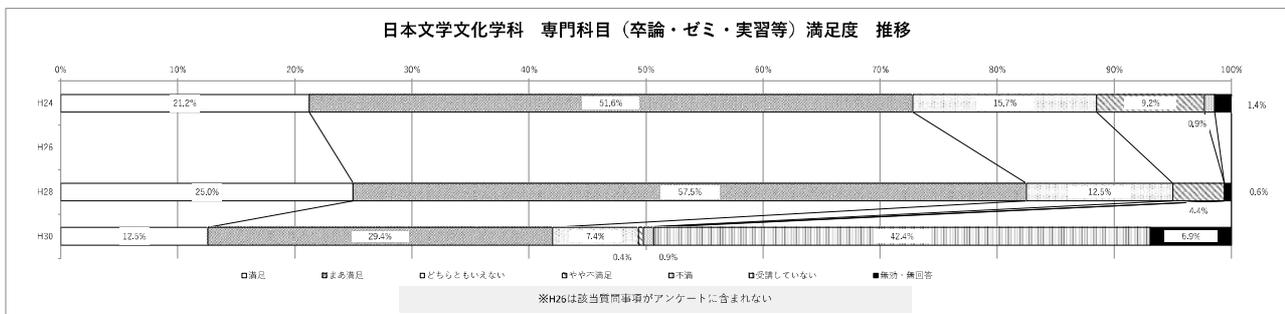
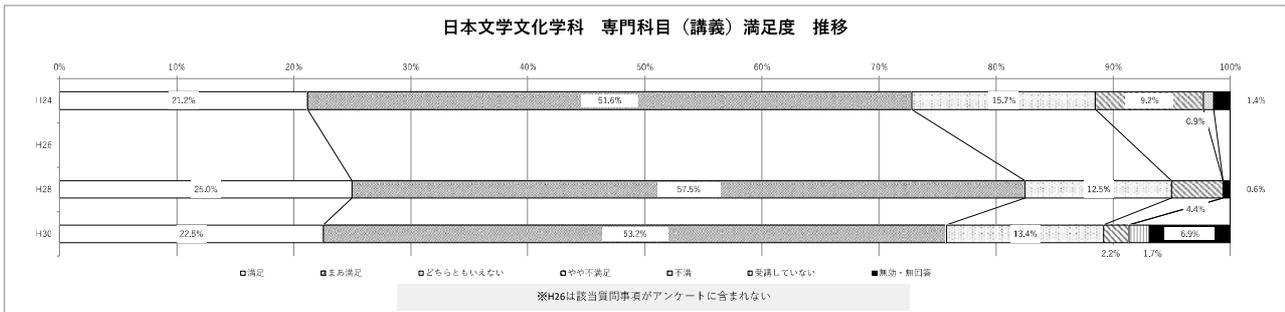
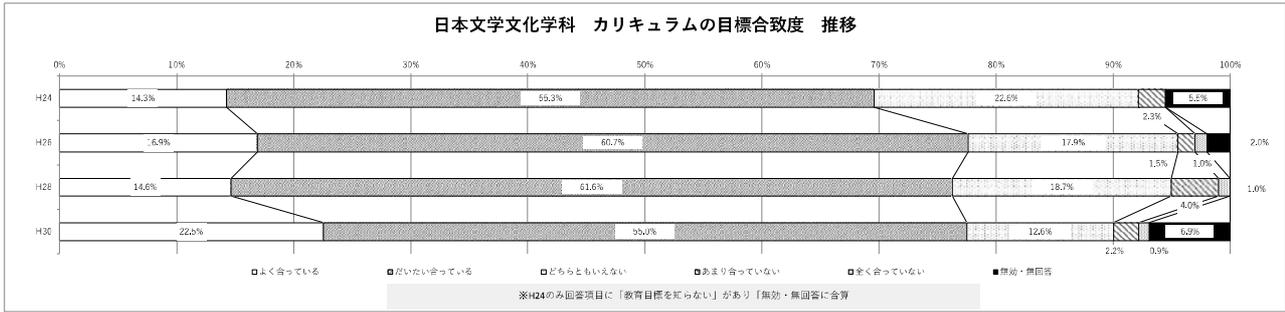
H24は「満足している」と「まあ満足している」をあわせた数値が66.9%であった。次のH26は67.7%と上昇し、H28は72.8%とさらに上昇の結果を示していた。この度のH30では「満足している」と「まあ満足している」をあわせた数値が日本文学文化学科全体では64.97%という結果であった。この結果はこの6年間では最も低い数字となった。しかし3年生では「満足している」と「まあ満足している」をあわせた数値が75%、4年生では78.3という結果になっているものの、2年生では57.7%と顕著に低いことに注目しなければならない。この結果を問題視し、さらにこの結果をもたらした要因を解明し解決策を講じることが課題となる。学生の満足度をさらに高めていくことを目標として、学生と教員との信頼関係を築き、情報を共有することが必要であり、そのためには教員が担任制度を重要視することが必要と考える。

(6) 自由記述から

授業関係では、専門科目と資格科目等で必修科目の授業時間が重なっているため履修したい科目を履修できないこと、シラバスと授業内容が大幅に異なることが挙げられた。大学施設については、ロッカー室のカーテンや、Free Wi-Fiの設置要望が挙げられた。

(7) まとめと課題

学科全体としては「専門科目満足度」について、1、2年生と3、4年生の満足度の差をいかに少なくしていくかが今後の課題となる。「勉強目標の明確さ」については、おおよそ40%の学生が勉強目標を明確に意識できていないということが継続して結果として見られる。「大学全体の満足度」については、2年生では57.7%と顕著に低いことに注目しその要因を解明する。以上の3点が、この度の調査結果を分析したうえで、重要視すべき課題とするものである。



※H28以前は【日本文学・文化学類】と【日本文学文化学類】の合算

3. 心理学科

学科長 内田雅人

(1) 概要

平成 26 年度から平成 30 年度における心理学類・心理学科に対する所属学生の評価は概ねポジティブであった。その中で、今回対象となった期間の大学における諸種の変革は、少なからず学生の学び、学生生活、自己形成に影響を与えていることが読み取れた。大学を運営する一組織としての学類・学科として、過去を顧み将来を見据えて邁進していきたい。

(2) カリキュラムの目標合致度

カリキュラムの目標合致度は、「よく合っている」「だいたい合っている」を合わせると H26 では 76.0%、H28 では 88.0%と上昇していたが、H30 では 72.4%に低下した。H30 における「合っている」の内訳は、1 年生 64.1%、2 年生 85.7%、3 年生 63.2%、4 年生 78.9%と学年間の数値が安定していない。H26 の心理学類への改組その後 H30 に学類への名称変更と、学生にとって学びの座の位置づけが目まぐるしく変動したことは、学類・学科のディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを覆い隠すほどに影響をもたらしたのではないかと懸念される。

(3) 専門科目満足度

専門講義科目について、「満足」（満足＋まあ満足）は、88.0%（H28）から 76.2%（H30）へと低下したのに対して、「不満足」（やや不満足＋不満足）は 0.8%（H28）から 5.8%（H30）へと上昇した。H30 の内訳は、「満足」1 年生 69.2%、2 年生 82.1%、3 年生 63.2%、4 年生 94.7%であり、「不満足」1 年生 7.7%、2 年生 3.6%、3 年生 5.3%、4 年生 5.3%と 1 年生においてやや高かった。「満足」における学年間の差の検討が今後の課題である。1 年生では、「満足」の値が前回の調査結果（89.8%）を大きく下回った。これには、H28 入学生が定員比 73%であったのに対して H30 入学生は 123%に増大したことも関係していると推察される。専門科目（卒論・ゼミ・実習等）では、「満足」は、88.0%（H28）から 54.3%（H30）へと低下したが、1 年生には 2 年生以上のゼミ・実習に対応する科目が設定されていないので、H30 から 1 年生を除外した修正値（2・3・4 年生の値）を求めると、「満足」76.4%となった。H30 の内訳は、2 年生 71.4%、3 年生 68.4%、4 年生 89.5%と、最終学年ではほぼ 9 割の学生が満足していたことが分かった。

(4) 勉強目標の明確さ

勉強目標の明確さは、「はっきりしている」「大体はっきりしている」を合わせると、H26 で 44.0%、H28 で 74.4%、H30 では 50.4%と年度ごとに安定していない。H30 の「明確さ」の内訳は、1 年生 43.6%、2 年生 53.6%、3 年生 57.9%、4 年生 52.6%であり、学年が上がるにつれて明確になっていくことが分かるが、4 年生における数値の停滞は卒業とその後の進路に関連した自己との対峙が現実化していることの影響が推察される。一方、「あまりはっきりしていない」「全く分からない」を合わせて H30 の学年差を見ると、1 年生 30.8%、2 年生 21.4%、3 年生 21.1%、4 年生 15.8%と学年が上がるにつれて減少しており、学年が進むにつれて勉強目標が明確になっていくことが推察される。

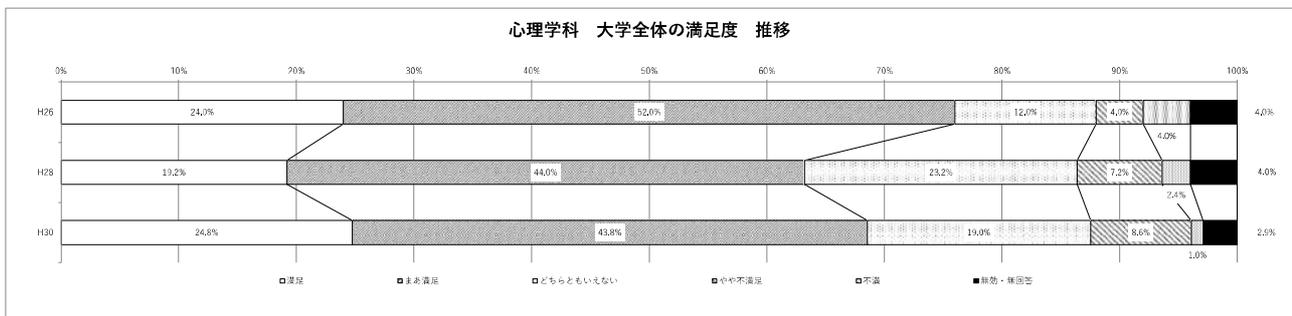
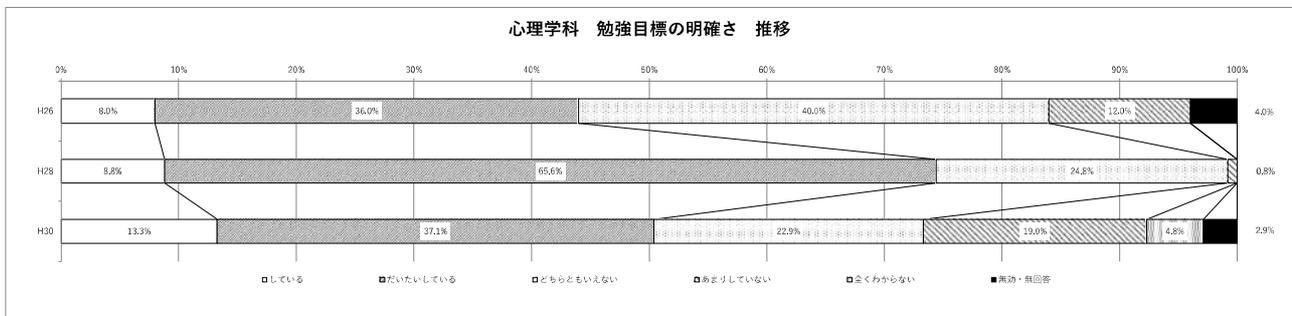
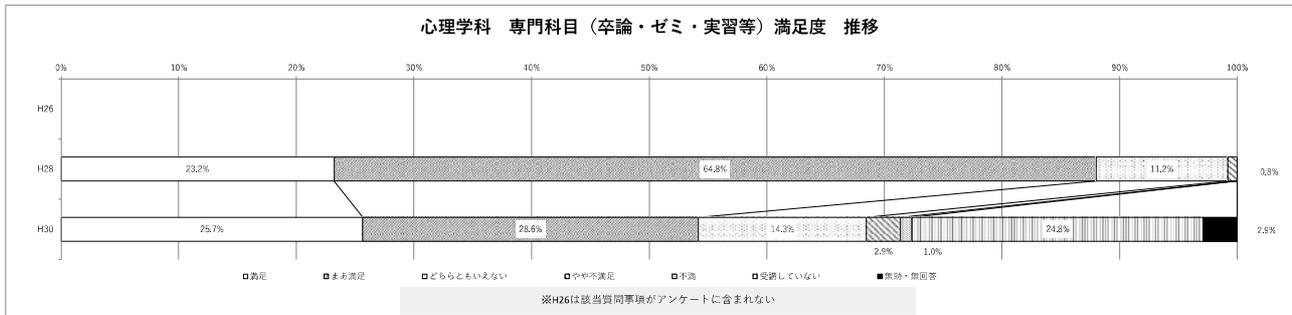
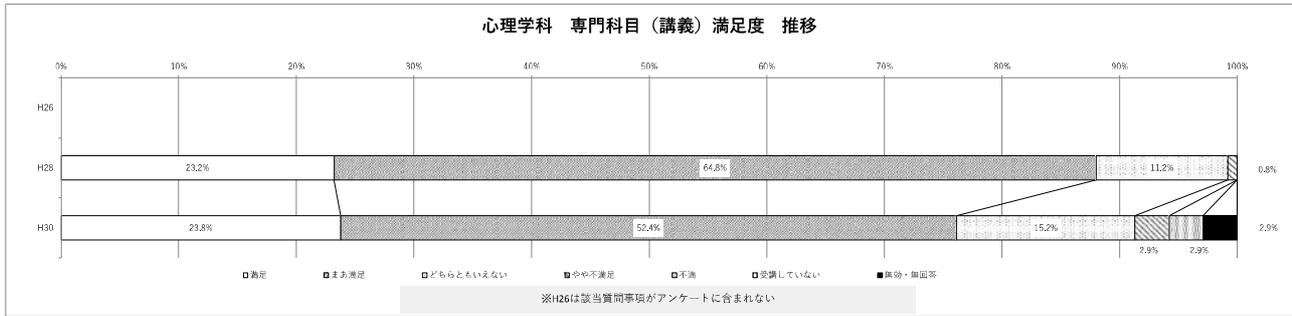
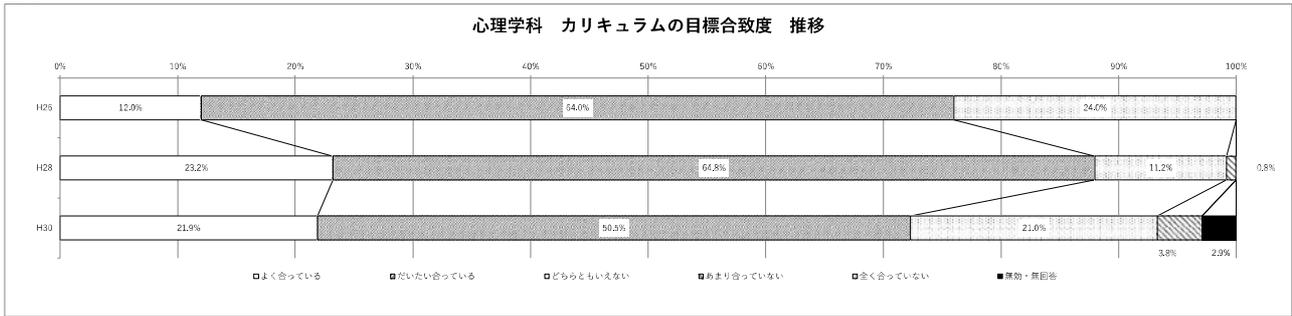
(5) 大学全体の満足度

大学全体の満足度については、「満足」「まあ満足」を合わせて、76.0%（H26）から 63.2%（H28）と低下し、H30 で 68.6%と持ち直した。一方で、「やや不満」「不満」を合わせると、8.0%から 9.6%にやや増加していた。心理学類・心理学科の学生から見た過去 5 年間の大学全体への満足度は、H28 を中心に V 字型の変動を示しているように思われる。H30 について学年ごとの値を見ると、「満足」については 1 年生 59.0%、2 年生 75.0%、3 年生 63.2%、4 年生 84.2%と学年の進行に沿った上昇傾向を示し、最終学年ではほぼ 85%が満足としている。「不満足」に関しては 1 年生 15.4%、2 年生 10.7%、3 年生 5.3%と漸減し、4 年生に至っては 0.0%であった。4 年生にとって現実化した将来設計に、学内関係部局の支援体制が効果的に機能していたと推察される。

(6) まとめと課題

全体的に「どちらともいえない」の回答率が概ね 30%未満という積極的な意見が収集されたことは重要である。今回の調査結果から、まず目を引いたのは、学年間の数値の差であった。これには、入学年度の様々な要因が関わっているだろうけれども、やはり気になったのは、今回の経年比較の対象となった各年度での大学内の改革的変動の影響である。大学の変革による大学組織内の動揺は、少なからず学生生活全般に影響すると直感的に感じられた。大学の改革は、大学教職員にも直接的に多大な影響をもたらすことによって生じる教職員の動揺を学生に波及させずにおくことは大変なストレスとなり、円滑な教育研究活動や事務業務を阻害することが懸念される。このような状況での 2・3・4. で見た結果を精査し、今後の教授－学習過程の改善と学生生活の支援に向けて取り組んでいきたい。

図表V-3



※改組のためH26・H28は1年生のみ、H30は全学年

4. こども発達学科

学科長 矢萩恭子

(1) 概要

平成 26 年度の改組により人間発達学専修の 1 コースから独立した「こども発達学類」は、平成 30 年度より「こども発達学科」となった。乳幼児期のこどもの発達を支える高度な実践力と専門性を備えた保育・幼児教育の担い手の育成を目的とした学類・学科である。

(2) カリキュラムの目標合致度

平成 26 年度から平成 28 年度にかけて 46.8%に上昇していた「よく合っている」と感じていた学生の割合が、平成 30 年度は 37.3%に落ちており、「どちらともいえない」「あまり合っていない」、さらには「無効・無回答」が合わせて 12%に及ぶ点が懸念される。平成 30 年度の学年別では、「あまり合っていない」は、3,4 年生は 0%であり、専門教育科目が増え、初めての実習も経験して改めて専攻分野への適性や将来の進路を見つめ直す 2 年生が 6.3%と最も多いことは、ある程度理解できる一方、3 年生の無回答 10.0%が懸念される。

(3) 専門科目満足度

講義では、平成 28 年度が、「満足」「まあ満足」合わせて 96.1%であったのに対して、平成 30 年度では 81.3%、卒論・ゼミ・実習等は、96.1%から 66.1%と大きく下がっている。また、「やや不満足」が若干上昇している。平成 30 年度の 3 年生のゼミ・実習等は、「満足」「まあ満足」で 81.7%と比較的良好だが、講義が、71.6%と学年別で最も低い。カリキュラムにおける配置科目の違いも考慮する必要があるが、より実習が進み、家庭や地域、障害、養護、ゼミ授業等へと専門性が拡大・深化する時期と言える 3 年生の結果が憂慮される。

(4) 勉強目標の明確さ

「はっきりしている」「だいたいしている」の割合は、平成 26 年度で 81.3%、平成 28 年度で 96.1%、平成 30 年度で 77.5%となっており、減少傾向は大きいものの、平成 30 年度の学年別では、学年進行につれて、1,2 年生の 7 割台から 3 年生で 8 割、4 年生で 10 割へと上昇し、卒業へ向けて自己の目標が明確化していることが読み取れる。

(5) 大学全体の満足度

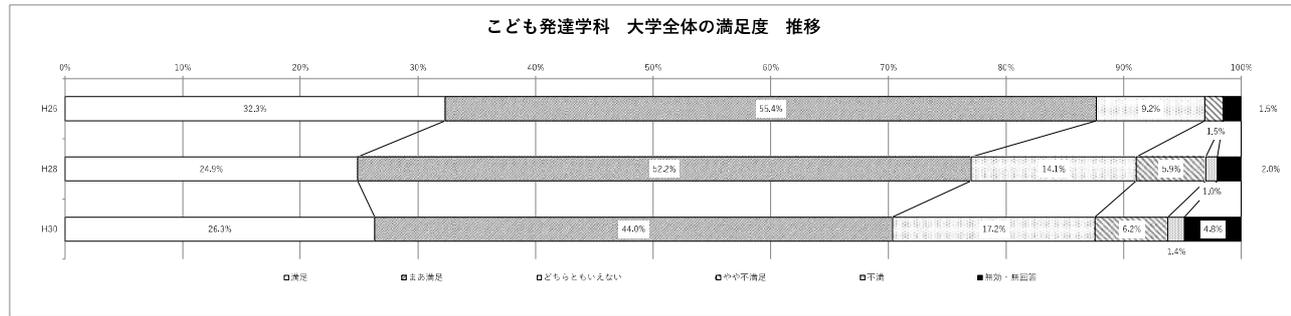
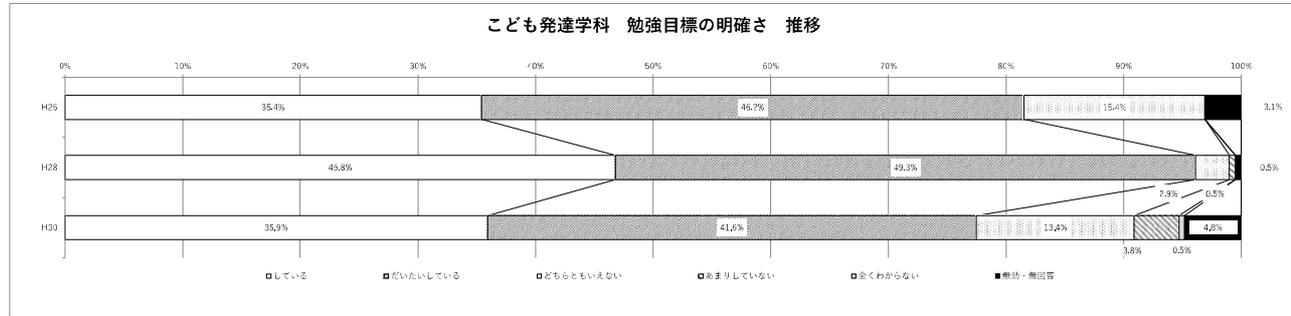
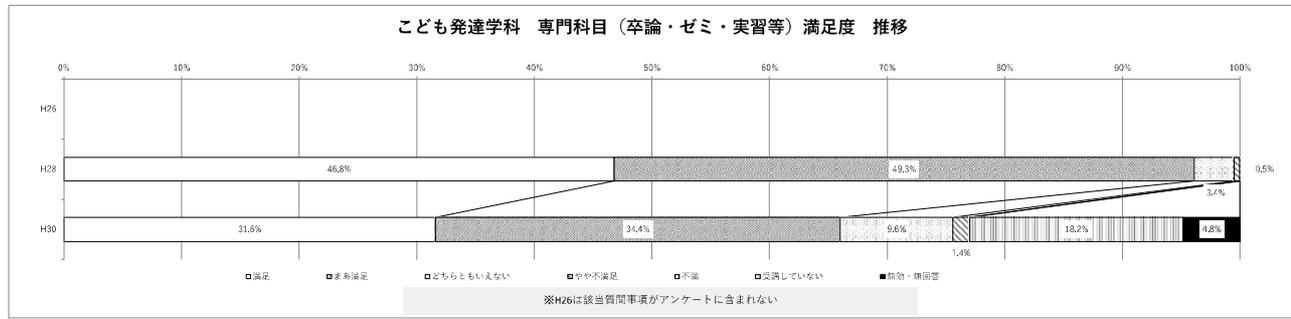
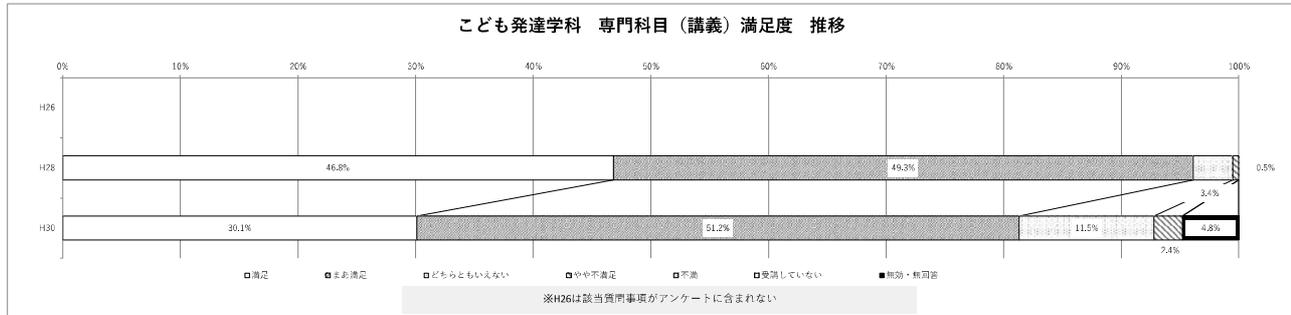
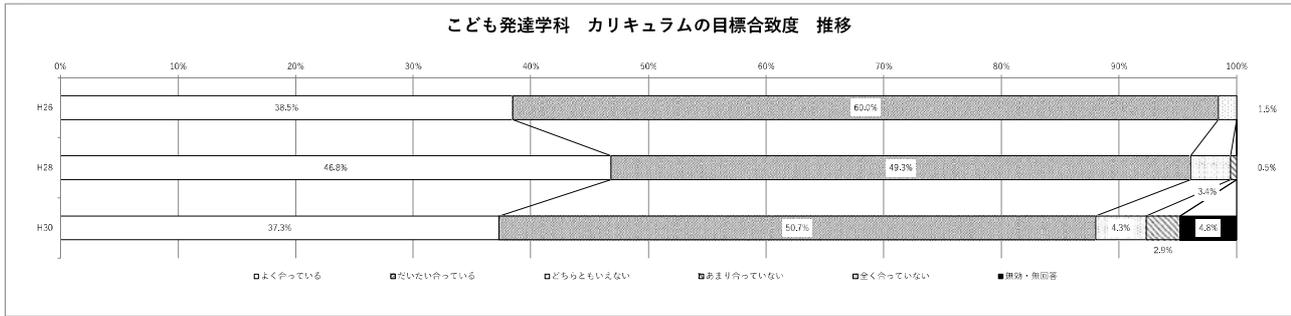
「満足」「まあ満足」が、平成 26 年度の 87.7%、平成 28 年度の 77.1%、平成 30 年度の 70.3%と減少し、「どちらともいえない」「やや不満足」「不満」が、10.7%、21.0%、24.8%と増加している。その要因について具体的に把握し、対策を考える必要がある。

(6) 自由記述から

学修環境として、Wi-Fi の整備や空調調整、エレベーター混雑解消等、学科と教務課の連携を希望する意見、学科教員の異動の多さの指摘、講義の質、相談しやすさを求める声があった。

(7) まとめと課題

平成 29 年度から 30 年度にかけて、学科の教員組織が大きく変わる事態が生じたことが学生に及ぼした影響は否めず、この現状を真摯に受け止め、改めて本学科の使命を実現できる教育の構築を目指して、学生確保から卒業に至るまでを見直していくことが課題である。



※改組のためH25・H28は1年生のみ、H30は全学年

5. 服飾造形学科

学科長 塚本和子

(1) 概要

目標、目的を低学年のうちに見つけられた学生が少なく、学びに対し自信をもてない傾向にある。その結果、設問のほとんどが全体平均より下回っていた。

(2) カリキュラムの目標合致度

「合っている」は、H24は60.6%、H28は75.6%、H30は71.5%であった。教員は他の関連科目との相互関係を把握し、科目の位置づけを学生に説明をしたが、全体平均78.8%に対し低かった。全学年すべてが全体平均より低く、特に2年生は67.4%であった。「合っていない」学生が、全学年で9.2%存在した。

(3) 専門科目満足度

「満足している」、H24は62.2%、H28は81.7%、H30は73%で、全体平均を下回った。特に3年生が66.7%と低かった。「不満である」は、H24の14.8%、H28の6.4%、H30は6.1%と減少したが、4年生が15.8%であった。卒論・ゼミ・実習等の満足度は、「満足」は1.2年生57.1%、54.4%で全体平均に近く、3.4年生46.7%、52.7%であった。「不満」は、2.3年生6.5%、6.7%、1.4年生5.8%、5.3%と、全学年が全体の平均の3.1%を上回っていた。

(4) 勉強目標の明確さ

「はっきりしている」について、H24は49.7%、H26は58.4%、H28は50.9%、H30は52.3%、大学全体の平均より低かった。「よく取り組んでいるか」は3.4年生56.7%、52.6%で全体平均より高いが、1.2年31.4%、45.6%であり、「取り組めていない」は全学年が20~30%存在した。「積極的か」は1.3年生80.0%、73.4%で高かった、2.4年生は67.4%、47.4%で低かった。「積極的ではない」は1.3年生が低く、2.4年生がやや高かった。

(5) 大学全体の満足度

満足度は、H28に65%、H30は61.5%で、大学全体に比べ、やや低かった。「不満」は4年生が31.6%と高く、1~3年生2.9%、10.9%、6.6%であった。満足度を上げるためには、基礎から応用への指導方針の一貫性、授業の進捗の見直しなどの検討、課題解決型学習を通し表現力と応用力をつけていきたいと考える。

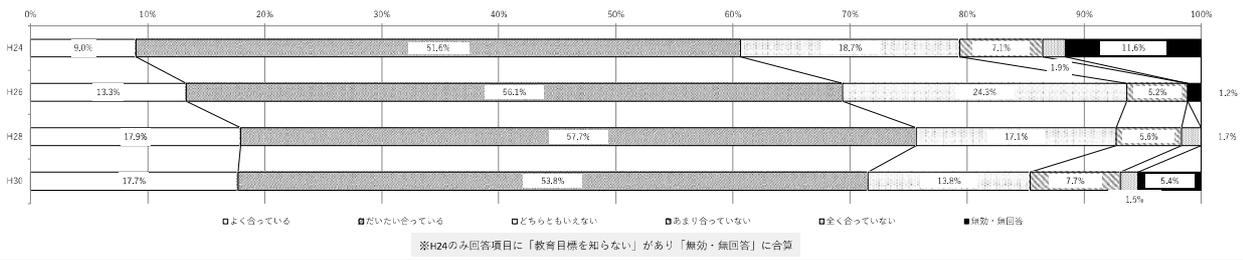
(6) 自由記述から（特筆するものがあれば）

服飾造形学科の教員数が減少したことによって、不安になった学生がいることがわかった。思っていることを教員に話すよう指導をしているが、ためらっている学生がいる。教員間で情報をさらに密にし、学生への対応をしていきたい。

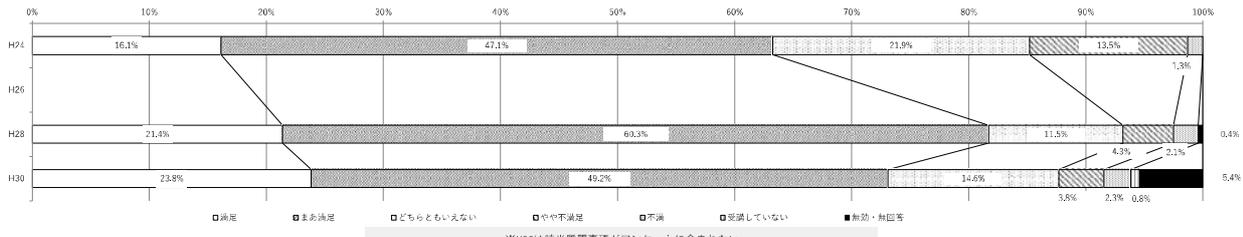
(7) まとめと課題

結果の多くは「どちらともいえない」「やや〇〇」であり、「よく」「全く」などの振り切った回答が全体の平均より低い傾向であった。目標・目的が明確な学生が全体の平均より低い。目標・目的を持たせるため、資格取得支援などを学生に伝えていたが、まだ不足である。学生が興味をもつ服飾ならではの資格について調査し、導入する検討が必要である。

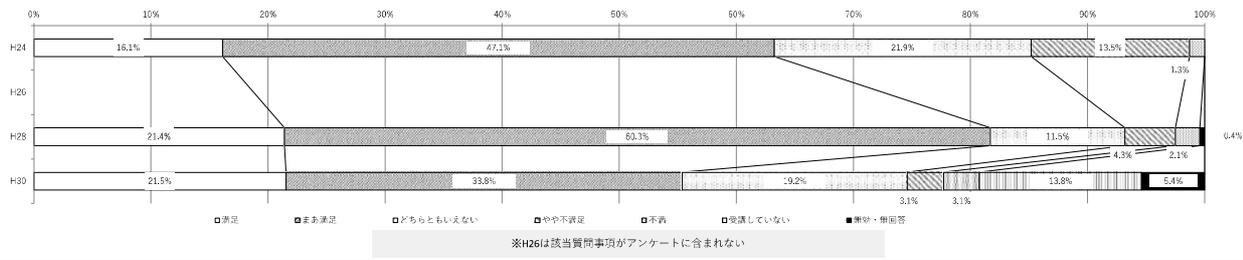
服飾造形学科 カリキュラムの目標合致度 推移



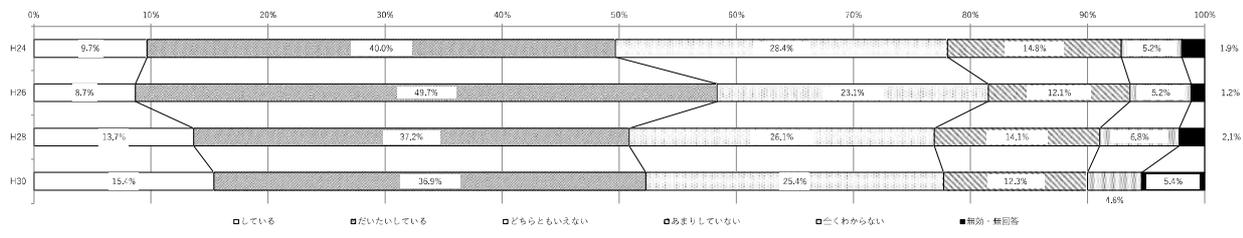
服飾造形学科 専門科目（講義）満足度 推移



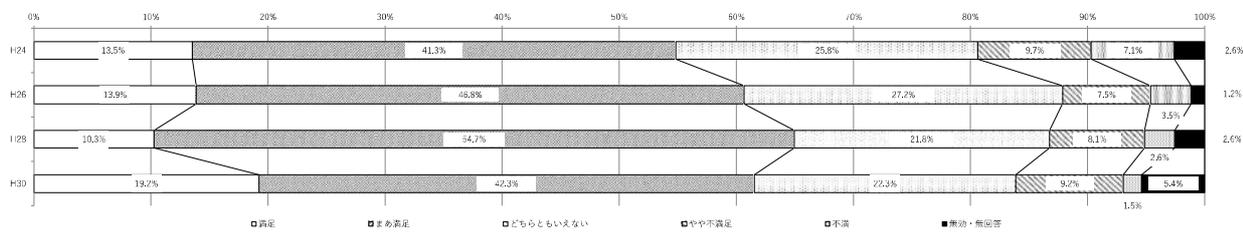
服飾造形学科 専門科目（卒論・ゼミ・実習等）満足度 推移



服飾造形学科 勉強目標の明確さ 推移



服飾造形学科 大学全体の満足度 推移



6. 健康栄養学科

学科長 登坂三紀夫

(1) カリキュラムの目標合致度

学科の教育目標と学生が大学で学びたいことが「よく合っている」および「だいたい合っている」と回答した者は、H24の87.0%からH30の86.0%まで、ほぼ横ばいであった。大学全体の結果を見ると、「よく合っている」および「だいたい合っている」と回答した者は、H30が78.8%であり、健康栄養学科の学生の結果がやや高くなっていた。それは、健康栄養学科の学生は、栄養士・管理栄養士を目指して入学してきていることから、勉強の目標がはっきりしている学生の割合をみると、「目標がはっきりしている」および「目標がだいたいはっきりしている」と回答した者が、健康栄養学科がH30で76.0%、大学全体で66.1%と、健康栄養学科で高くなっている。健康栄養学科の教育目標は、高度な知識と技術を持った専門家(栄養士・管理栄養士)を育成することであり、高い目標合致度が維持できていると考えられる。今後は、より多くの学生から「よく合っている」と回答が得られるよう、4年間学生を支援したいと考える。

(2) 専門科目満足度

専門科目(講義)の内容について「満足している」および「まあ満足している」と回答した者は、H24の87.9%、H28が89.1%、H30が81.3%でH30が減少していた(H26は調査項目なし)。H30を学年別に見ると1年生が78.7%、2年生が86.6%、3年生が69.3%、4年生が89.7%となっており、3年生の満足度が最も低かった。また、専門科目(卒論・ゼミ・実習等)の内容について「満足している」および「まあ満足している」と回答した者は、H24が87.9%、H28が89.1%、H30が65.9%とH30が大きく減少している。H30を学年別に見ると1年生が53.0%、2年生が71.1%、3年生が66.6%、4年生が77.0%となっており、全体的に低くなっているが、特に1年生と3年生が低かった。目標意識が高い学生が多い健康栄養学科において、専門科目の満足度の高い水準を維持できるようにすることが必要であると考え。専門の講義科目に比べ、卒論・ゼミ・実習等の専門科目の減少が大きくなっている。以上の結果を踏まえると、ただ単に専門科目の充実だけでなく、教員の教え方の質が問われている結果であるとも捉えることができる。今後の課題として、教員一人ひとりこれらのことに自覚を持って、学生に対してきめ細やかに指導することが必要であると考え。

(3) 勉強目標の明確さ

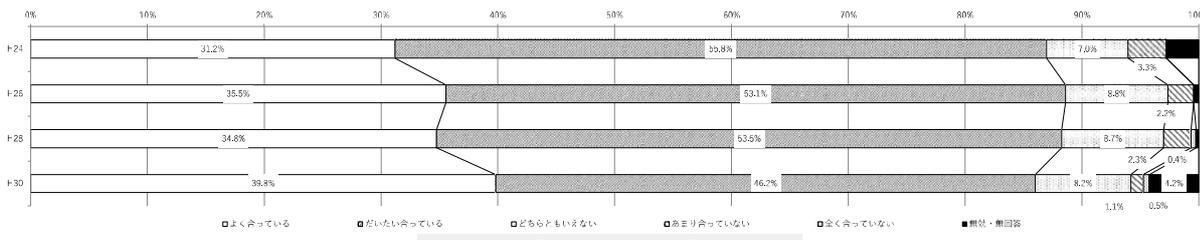
勉強したい目標が「はっきりしている」および「だいたいはっきりしている」と回答した者は、H24の75.9%からH30の76.0%まで、ほぼ横ばいであった。しかし、目標に向かってよく取り組んでいる者は、H24が54.4%、H26が71.1%、H28が58.0%、H30が55.9%であり、目標の明確さに比べると低い割合であった。これらの結果より、勉強目標がはっきりとしていても、その目標に向かってしっかり取り組んでいない学生もいることがわかった。1.の結果で示されたように、学生が大学で学びたいことがはっきりしているにもかかわらず、勉強に対する取り組みや目標達成への学びが若干低いことは、今後の学生支援として、個々の学生が目標達成できるような環境整備と学びに対する個別支援が必要であると考え。

(4) 大学全体の満足度

大学に「満足している」および「まあ満足している」と回答した者は、H24が74.4%、H26が79.8%、H28が69.7%、H30が69.9%であった。H30はH28に続けてそれまでの結果より満足度は低い結果であったが、H30の結果を学年ごとにみると、1～3年生では66.4%であったのに対し、4年生では80.5%と高い結果であった。大学でよいと思う点として教員の教え方12.9%であったのに対し、不満だと思う点として教員の教え方22.7%であった。教員一人ひとりの自覚を促し学科としても改善していきたいと考える。

図表H-6

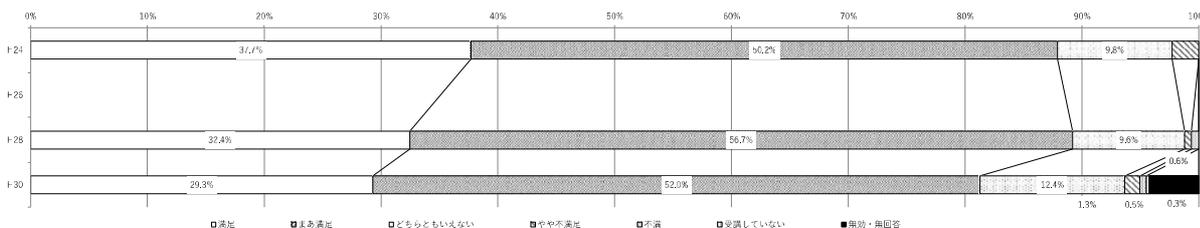
健康栄養学科 カリキュラムの目標合致度 推移



※H24のみ回答項目に「教育目標を知らない」があり「無効・無回答」に含

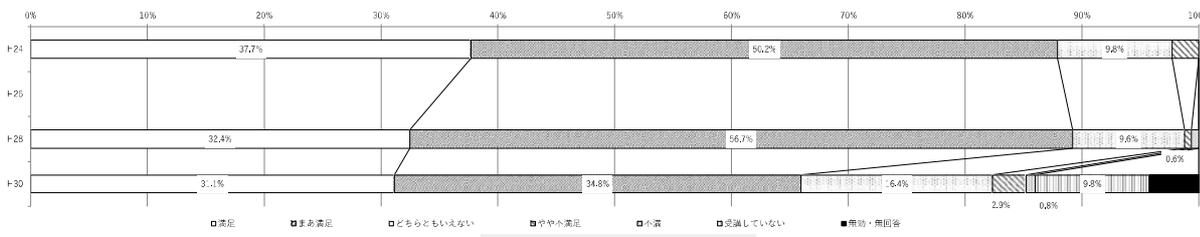
算

健康栄養学科 専門科目（講義）満足度 推移



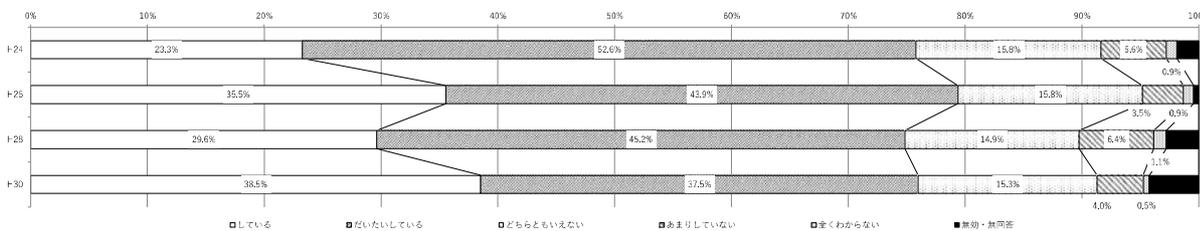
※H26は該当質問事項がアンケートに含まれない

健康栄養学科 専門科目（卒論・ゼミ・実習等）満足度 推移

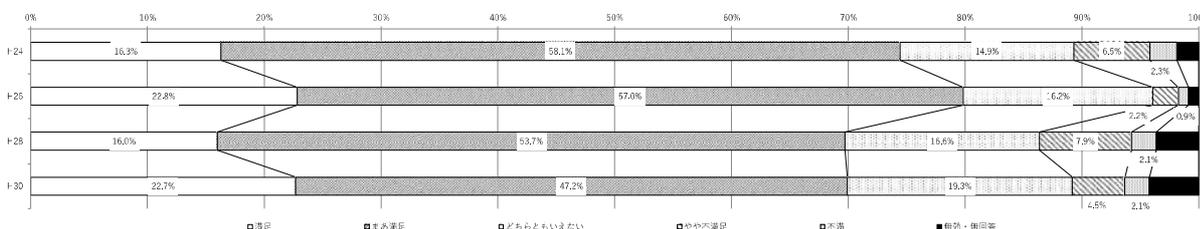


※H26は該当質問事項がアンケートに含まれない

健康栄養学科 勉強目標の明確さ 推移



健康栄養学科 大学全体の満足度 推移



7. 家政福祉学科

学科長 佐藤宏子

(1) 概要

本学科のH30の「無効・無回答」の割合が11.9%と全学科の中で最も高率であったこと、特に1年生は15.7%、2年生は15.6%が「無効・無回答」であったことを学科全体で重く受け止めなければならない。H30の「無効・無回答」が1割を超えたことが、他の3時点との比較を難しくしている。そこで、4時点の比較をなんとか可能にするため、提示されたH30の集計結果から、Q2、Q8とQ9、Q3、Q16の「無効・無回答」及びQ9の「受講していない」を除外してH30のデータを集計し直し、4時点の経年変化について述べることにする。

(2) カリキュラムの目標合致度

H30の「無効・無回答」を除いた「よく合っている」と「だいたい合っている」は83.9%で、H24の67.5%、H26の71.3%、H28の75.5%よりも上昇している。H30に「あまり合っていない」、「全く合っていない」と回答した学生は、それぞれ1名ずつであった。

(3) 専門科目満足度

H30の「無効・無回答」を除いた専門科目（講義）の満足度は、「満足」が18.6%、「まあ満足」が66.9%で、合計85.5%である。これは、H24の69.3%、H28の82.5%よりも専門科目（講義）に対する満足度が上昇していることを示している。一方、専門科目（卒論・ゼミ・実習等）の満足度は、「受講していない」と「無効・無回答」を除いて集計し直すと「満足」は28.3%で、H24の13.3%、H28の16.5%を上回っている。ただし、H30の「まあ満足」は49.1%であり、H24の56.0%、H28の66.0%と比較して低下している。

(4) 勉強目標の明確さ

H30の勉強目標の明確さについて「無効・無回答」を除いて分析すると「はっきりしている」が24.6%、「だいたい」が44.1%で、回答者の7割弱が目標を持っている。目標の明確さは、H30が4時点で最も高率となっている。一方、目標が「あまりはっきりしていない」と「はっきりしていない」と回答した学生は15人（12.7%）であった。

(5) 大学全体の満足度

H30の大学全体の満足度は「無効・無回答」を除いて分析すると「満足」が19.5%、「まあ満足」が52.5%で72.0%が肯定的な回答をしている。この結果は、最も満足度が高かったH26とほぼ同水準である。「やや不満」と「不満」は5人（4.2%）にとどまっている。

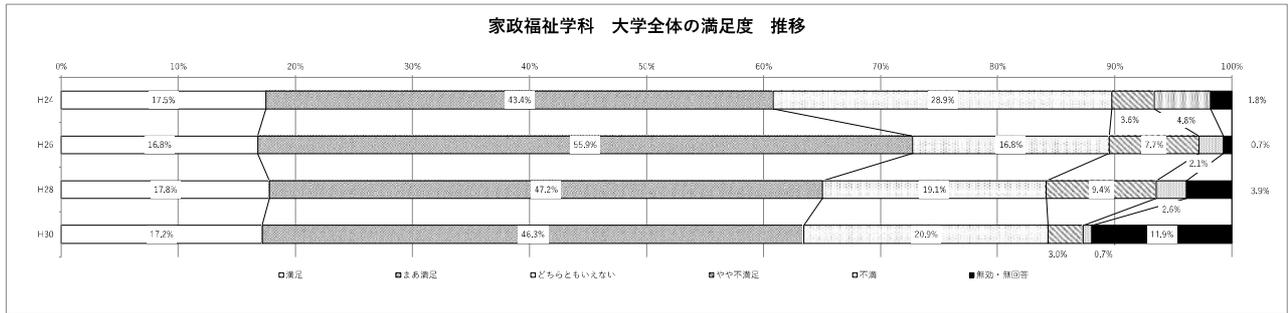
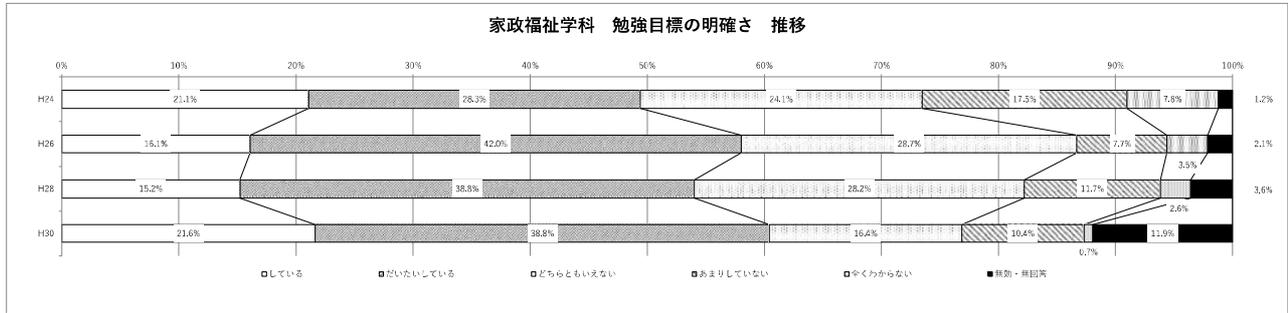
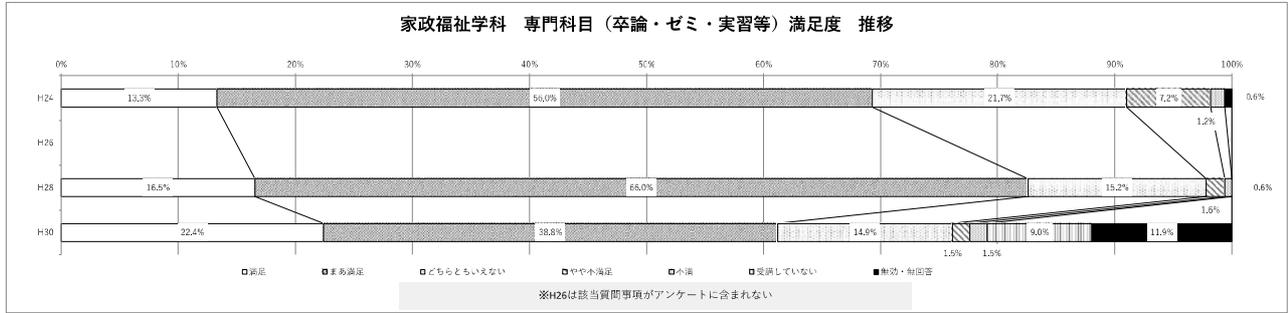
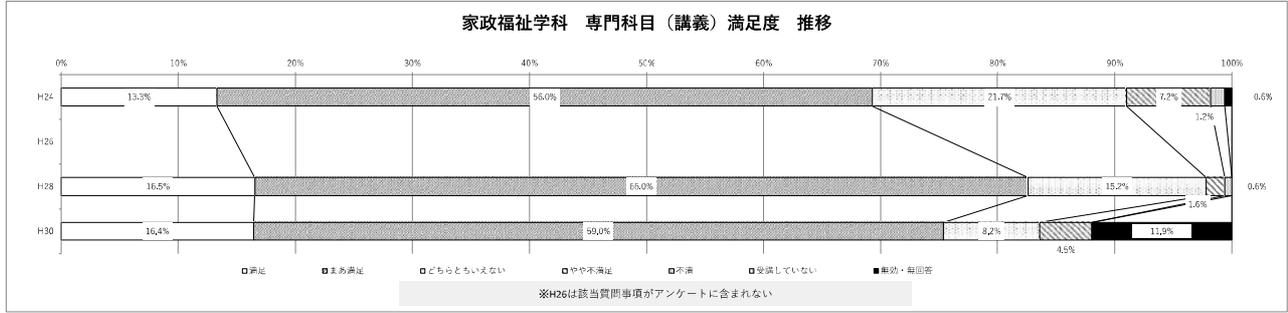
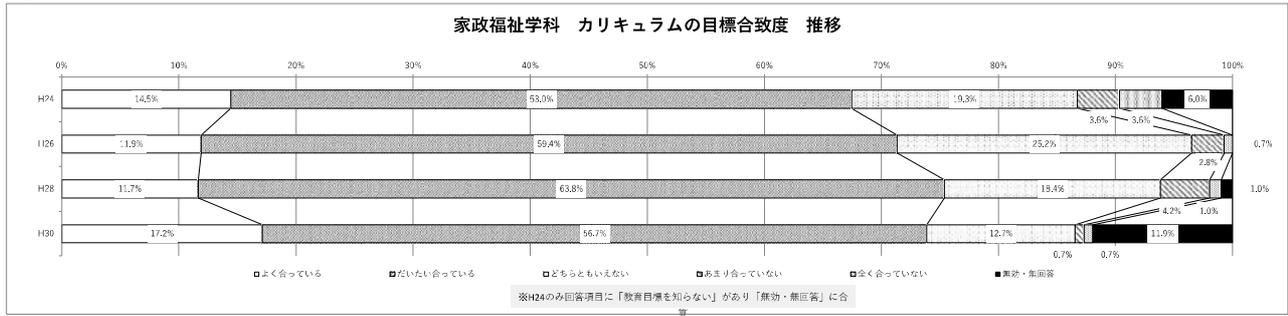
(6) 自由記述から

第二言語で韓国語、中国語、フランス語などを履修できないこと、学科の特色を生かした福祉先進国などへの海外研修がないことを複数の学生が指摘している。

(7) まとめと課題

学科ポリシーを検討し、専門科目を見直した成果が、カリキュラムの目標合致度、専門科目満足度、勉強目標の明確さを高めている。次回調査では無回答者を防止すること、第二言語の履修や海外研修を要望する学ぶ意欲の高い学生に応じていくことが課題である。

図表V1-7



※H28以前は「生活環境学系」と「家政福祉学類」の合併

8. 看護学科

学科長 中澤明美

(1) 概要

看護学科は、平成 30 年度 1 年生のみ在籍のため初めての学生生活調査である。経時的な比較分析はできない。そこで、平成 28 年度他学科のデータを一部比較対象として引用させて頂き記載したい。なお、回答者 61 人（回答率 55.5%）であり、約半数の学生の意見を基にした調査結果である。

(2) カリキュラムの目標合致度

学科の教育目標と学生が学びたいことが「よく合っている」「だいたい合っている」と回答した者は 75.4%だった。この数字が高いと言えるのか低いかわからない。平成 28 年度の健康栄養学科のデータでは 88.3%の学生が合致していると回答しており、同じ国家資格取得を目指す実務家養成の学科としては、看護学科の結果が低いと言わざるを得ない。これは、1 年次途中の学生の回答であり看護の専門科目がほとんど始まっていることが要因と思われる。今後 2 年次、3 年次と学習が進む中で看護師（保健師）になるために必要な学習が理解できていくと考える。

(3) 専門科目満足度

専門科目（講義）の内容について「満足」「まあ満足」を合わせると 67.2%、ゼミ科目は 44.2%だった。健康栄養学科（平成 28 年度 89.1%） 家政福祉学科（平成 28 年度 82.5%）と比較して低い結果と言える。看護学科 1 年生の専門科目（専門基礎科目含む）は、調査時点で 10 科目程度の履修であり学習がまだ進んでいない。しかし、授業評価アンケート結果からも他学科より各項目ともに得点（平均点）が低く授業に対する満足度は、高くはないことが読み取れた。看護師を目指し入学した学生が、看護の専門科目を楽しんでいると感じていないことは教員として重く受けとめなければならない。授業内容、方法の再考が必要かもしれない。また、このデータからは数字しかわからない。不満足と答えた学生は何がどう不満なのか、学生の声に耳を傾ける必要がある。今後は多くの専門科目が開講することから学生が各専門科目の学習を通して看護の楽しさ、やりがいを見出せるよう教授活動に取り組みたい。

(4) 勉強目標の明確さ

勉強したい目標が「はっきりしている」「だいたいはっきりしている」と回答した学生は 75.5%だった。看護師（保健師）国家試験受験資格を目指す学科であるため、その目標がはっきりしているのは当然と言えるが、その中で 14.7%の学生が、勉強目標がはっきりしていないと回答している点が気になる。ただ何となくや、親の薦めや資格がほしいだけなどの入学動機の学生が 1 割以上いることは今後、厳しさを増す臨地実習などの学習を乗り越えていけるのか、危惧される。学習動機の低い学生への教員のサポート体制構築が必要と考える。

(5) 大学全体の満足度

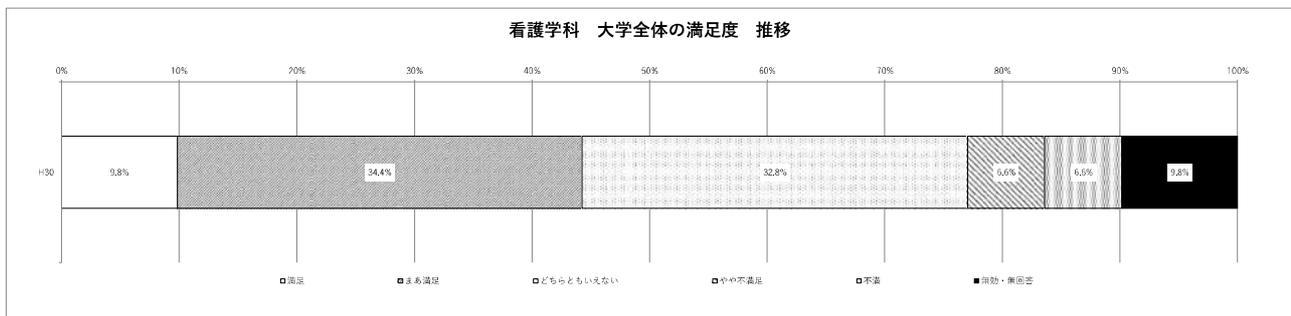
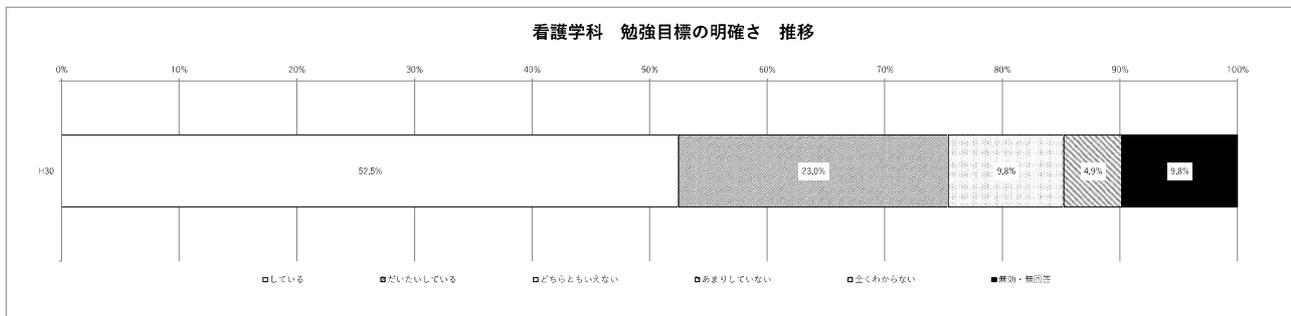
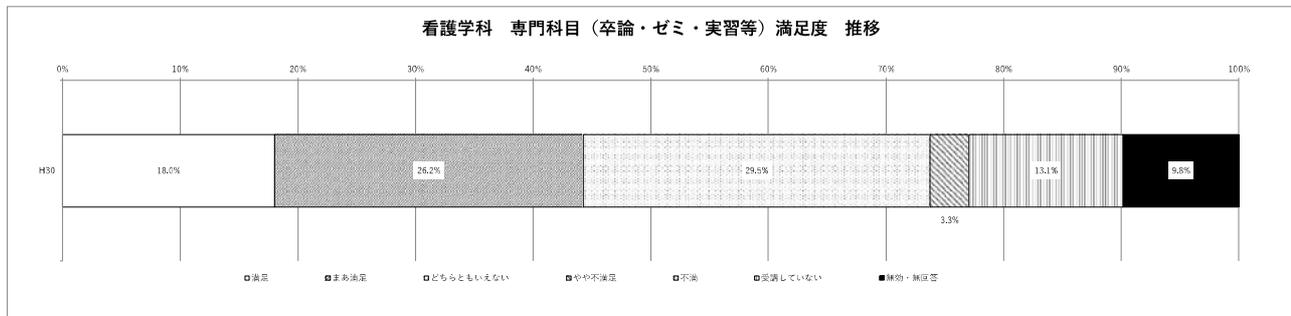
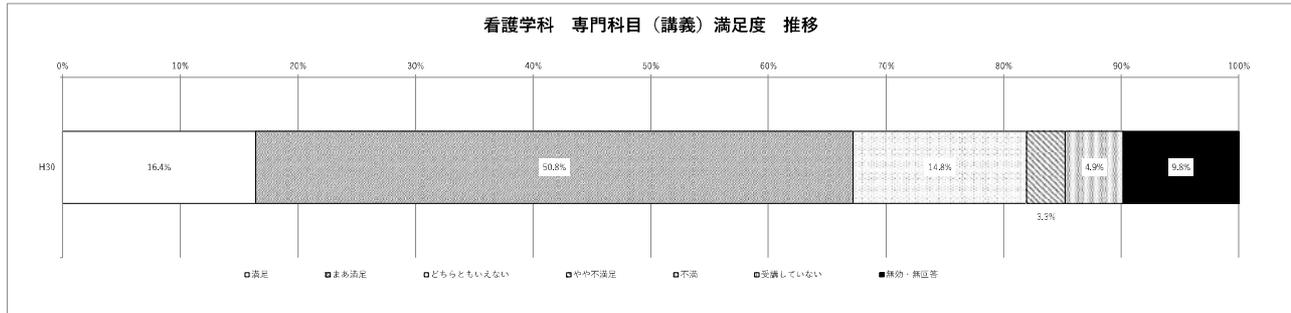
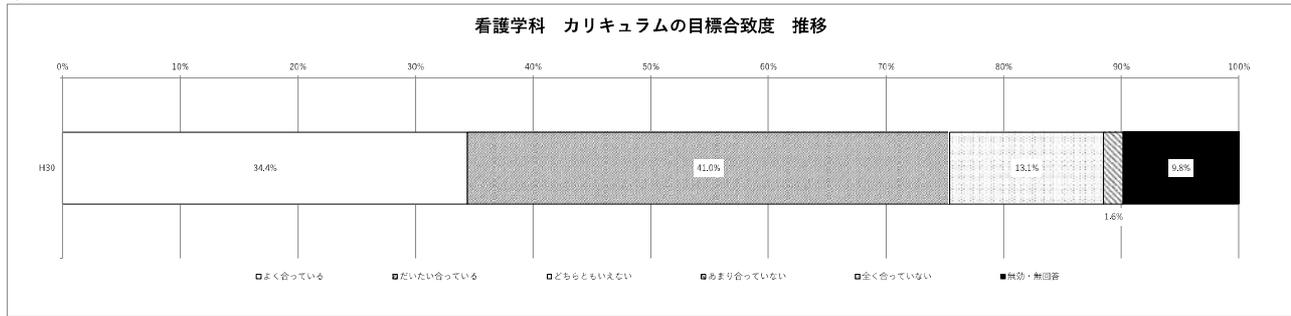
大学に「満足している」「まあ満足している」と回答した学生は、44.2%であり半数に満たなかった。健康栄養学科、家政福祉学科、服飾造形学科など他学科の平成 28 年度データが、65~70%の満足度であることから、この項目も看護学科の満足度の低さが鮮明となっている。特に不満足と答えた学生が 13.2%おり、どちらともいえないは 32.8%と他学科の倍近い数値となっている。新設学科であるため相談したり手本、見本となる先輩もなく学生は戸惑いながら学生生活を送っていると推察される。教員も様々な大学から集まりスタートしたばかりで組織として決して盤石とはいえないが、様々な教育経験を持っていることを強みに変えて学生の大学生生活を支えていきたい。

(6) 自由記述から

自由記述には、授業中うるさいなどの学習態度への不満、さとみ館の施設、設備に対する不満、時間割の問題など要望や不満などが記載され、肯定的意見が見られなかった。自販機やレンジ、ポットなどの設置等、すぐに解決できるところから取り組んでいる。授業態度は学生自らが担当を決めて集まりよりよいクラス運営に取り組んでいる。

(7) まとめと課題

看護学科は開設 1 年目であり、様々な点で教員、学生とも試行錯誤の状態で行っている。その中で学生の生活や学習満足度が、決して高いとはいえないことは教員組織として心に留めなければならないと認識している。学年担任には 20 人ほどの少人数を受け持つアドバイザー制度を取り入れ、きめ細やかな対応をしている。今後は少人数で学ぶ臨地実習、卒業論文作成などを通して学生との関わりを密にして一つ一つの出来事に真摯に向き合い完成年度に向けて看護学科を作り上げていきたい。



※新設のため、H30は1年生のみ

9. 全学教育センター

センター長 鬘谷 要

(1) 概要

H24年、H28年は共通総合のひとくりであったが、今回分野が細分化されたため直接比較は難しいが、共通科目を受講した学生の評価に絞って再計算して比較する事とした。総じて「満足」と回答した学生の割合が向上した一方、「満足」「まあ満足」を併せた所謂「肯定的回答」は伸び悩み、同時に「否定的回答」も微増し、評価の二極化傾向が認められた。

(2) 共通（総合）科目の基礎教養科目満足度

「満足」はH24から確実に上昇している（13.7→15.0→17.7%）ものの「肯定的回答」はH28から微減（67.9→65.9%）している。絶対数は少ないものの「不満」と「否定的回答」が増加傾向にあることも留意すべきである。このことは当該分野の評価が二極化していることを示唆している。

(3) 共通（総合）科目の和洋アビリティーズ満足度

「キャリアデザイン」「基礎ゼミ」「パソコンの基礎と応用」がアビリティーズに含まれる。「満足」も「肯定的回答」もH30年度の中で最低となった。いずれの科目も狙いは悪くないが運用面や授業細目に課題が残ると考えている。

(4) 共通（総合）科目の外国語科目満足度

「満足」「不満」ともに高く、中立回答が低い。明確に評価が二極化傾向にあることを示している。教員の教育スキル、レベル分け、カリキュラム、授業評価の分析を行っているところである。

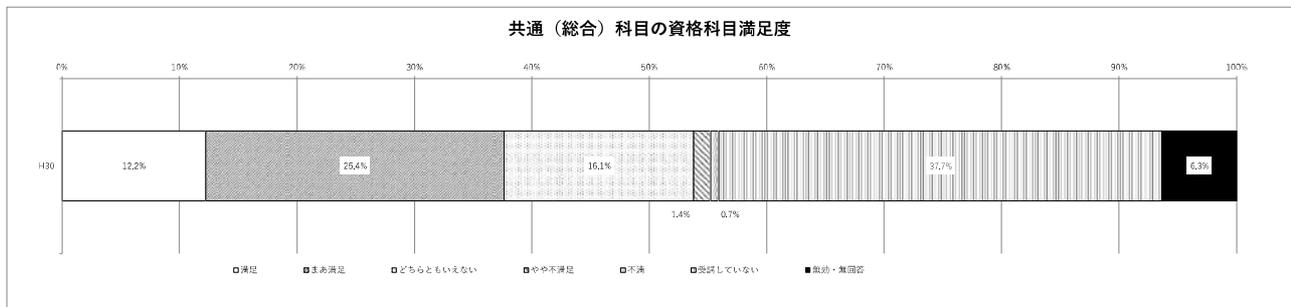
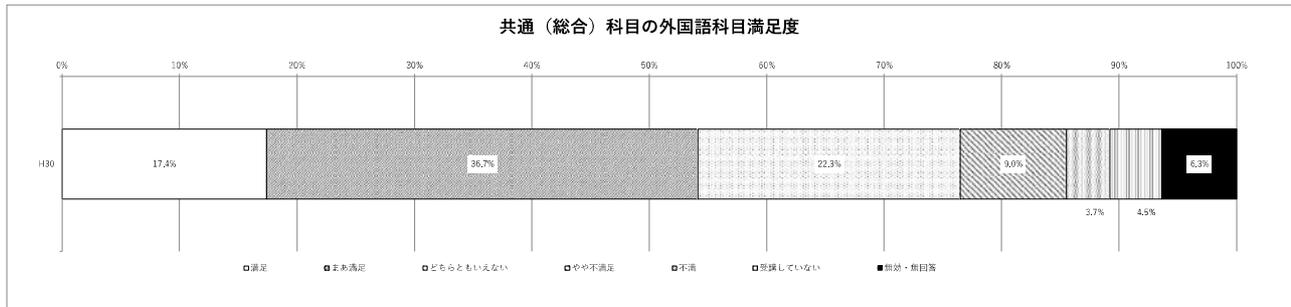
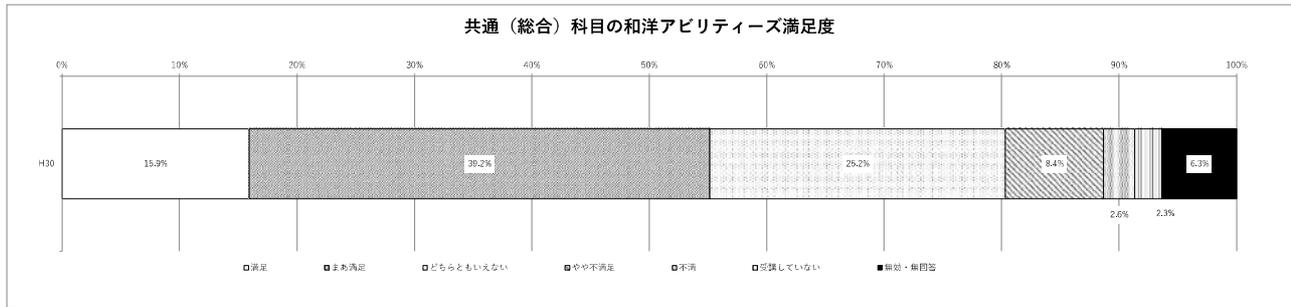
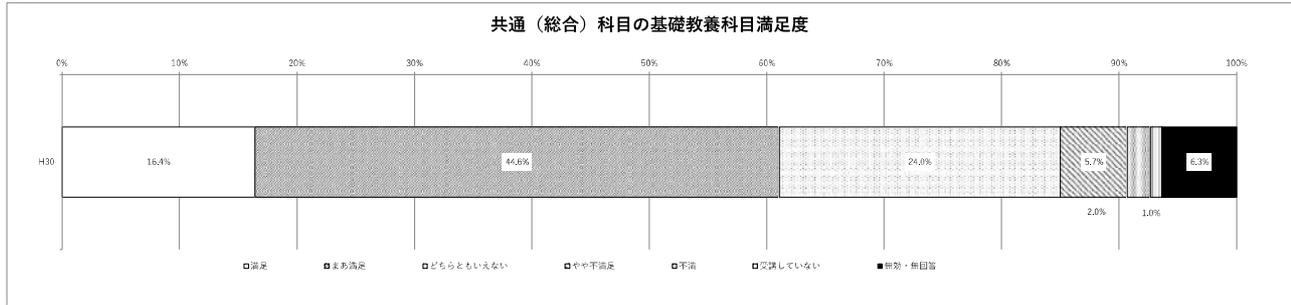
(5) 共通（総合）科目の資格科目満足度

資格分野は他に比較して明らかに高評価を得ており、受講者の満足度は「肯定的回答」67%に対して「否定的回答」が4%と顕著に低く、資格科目への高い満足度が表れている。資格科目を受講している割合は、日文（80%）、家福（72%）、こども（69%）、服飾（68%）等では高い一方、心理（38%）、国際（46%）では顕著に低く学科間格差があるようである。学科の設置目的が資格に直結していることと、共通の資格科目受講率には明らかな相関は無いようである。満足度と学年との関係は特に見当たらないが、看護学科で「肯定的回答」が、他を大きく下回る結果となっている。

(6) まとめと課題

全体を通じて明確な満足度は向上傾向にあるものの、二極化傾向が認められ、否定的回答も増加している。この原因を明らかにし、対策を講じていくことが急務であると考えている。基礎教養科目では科目数の大幅削減、アビリティーズでは運用と細目、外国語では教育力の教員間格差が課題であると考えている。全学教育センターでは教育の質保証の観点から授業評価の著しく低い教員に対して積極的な指導を行い、また外国語分野では2019年度より推奨教育方法の開発と独自の自己点検を開始している。

図表VI-9



10. 教務課

(1) 概要

2018年度実施のアンケート結果では「満足」「まあ満足」が48.2%と半数に達せず、前回は6.2ポイント減である。しかし「ほとんど利用しない」と「無効」を除く回答者では69.3%の学生が「満足」「まあ満足」と回答であり利用者の7割近くが教務課の対応に満足しているという結果であった。また「やや不満足」「不満」は7.6%であり、前回の15%近い同意見結果からは大きな改善が見られた。これは学生に寄り添って丁寧に話に耳を傾けるよう努めている成果と受け止めている。ポータルサイトの確認頻度については「必要な時だけ」と回答した学生が45.0%と半数近くにのぼり、ポータルサイト確認習慣には事務局が期待する姿勢とは齟齬が生じていることが明らかになった。

(2) 自由記述から

総じて「対応が冷やか」「訪ねにくい」という意見が多く、対応に満足できずさらに足が遠のいてしまう悪循環が見える。また「連携不足」「対応に一貫性がない」という指摘も散見され真摯に受け止めなければならない。学生に寄り添った対応を心がけているが「課員により対応態度が異なる」という意見もあり学生からの信頼を得て、安心して利用してもらうための努力がさらに必要であることがわかった。

(3) まとめと課題

履修や単位について取り扱う教務課として常に落ち着いて学生対応することを心がけている。公平であること、平等であることが対応の基本姿勢であり時に厳格に対応するため、学生から「融通がきかない」「冷たい」との意見があることは承知している。だからこそ「事務的にならず」「学生と共に疑問や課題を解決すること」を教務課員一同が日々、苦心して学生対応に当たっているが、アンケート結果からなお一層の努力が必要と受け止めている。学生の要望に応えられない事案もあり、その場合「なぜ応えられないのか」を学生と共有することも意識し、学生自身の理解の助けとなる対応や支援ができる教務課を目指す。

課内はもちろん教員または他課との連携については大学全体の課題と捉えている。連携構築を教務課から発信し推進する。大学からの情報を収集することは修学や生活に欠かせない行為であるため、学生自らが意識的、主体的に情報収集する力を醸成できるよう働きかける必要があると考えている。学生の利便性も念頭に、ポータルサイト利用率向上につながる工夫に取り組む。これらの課題取り組みから、修学支援の要である教務課として組織で支援に臨む体制作りと、「個」の力量向上により学生に不信感が残らない対応に注力していく。

1.1. 教育支援課

(1) 概要

①ラーニングステーション（全学教育センター）

前回回答の約50%が「利用する」に比べると、「ほとんど利用しない」が約80%の結果、修学支援が必要な学生が利用する場所とは言え利用率が低い。ラーニングステーションの活動について周知をする必要がある。「満足」、「まあ満足」が約20%の結果、満足度が低い理由を分析し、満足度を上げることを検討する。

②教職サポート室（教職教育支援センター）

「ほとんど利用しない」の回答率が約80%、教職課程（中・高）履修者が利用者の対象であるが真の利用者は教員を目指す学生。利用者の満足度は低くはないが、教職課程（中・高）履修者は全学年で300名近くいるので、低学年層の利用率を上げることを検討する。

(2) 自由記述から

①ラーニングステーション（全学教育センター）に対しての主な要望

- ・学生が利用している気配があまり感じられない、入室しづらい。
- ・貸出の参考書等の充実と学習スペースの整備。
- ・ICT関連：「マナビコース」のファイル保存がしづらい、「Wi-Fi」の整備をして欲しい。

②教職サポート室（教職教育支援センター）に対しての主な要望

- ・各手続きの説明が職員によってまちまちなことがあったという学生対応時の不満。

(3) まとめと課題

①ラーニングステーション（全学教育センター）

・授業で困ったことや、資格取得で質問や相談をしたいことがある時は、気軽にラーニングステーションを利用願いたい。待機する教員が学生の要望にそって対応する。学生が、より利用しやすい場となるように検討する。

・学生のニーズにあった教材を提供できるように努める。しかし、学生が受験希望する資格は多種にわたるため、すべての教材をそろえることは予算的にも難しいができる限り提供できるように努める。ラーニングステーションにある教材希望申込書を利用願いたい。学習スペース設置・整備については、今後の検討課題とする。

・「マナビコース」のファイルの保存方法が分かりにくいことについて、改めて、保存場所やその方法について学生にわかるようにポータルや掲示により周知を行う。「Wi-Fi」の環境整備は全学的な課題のため、メディアセンター等事務局と検討をする。

②教職サポート室（教職教育支援センター）

・担当職員間で情報共有し、事務手続きについて、学生に対して分かりやすくきちんと伝達する。学生目線に立った窓口サービスを心掛ける。また、模擬教室を開設する等学生が、自主学習ができるスペースを準備することを検討する。

1.2. メディアセンター

(1) 概要

メディアセンターの①利用頻度と②満足度を、「図書館として（以下、「図書館」とする）」、「勉強場所として（以下、「勉強場所」とする）」の二つの側面からの調査と、③わよりぶ（メディアセンター内で開放している無線環境）の利用頻度の調査となっている。

①の回答の最多は「図書館」「勉強場所」二つの側面ともに「時々利用する」である。「時々利用する」と次点「よく利用する」の回答と合わせると「図書館」は回答の約60%、「勉強場所」は約69%となり、「勉強場所」が9ポイント高い。②の回答の最多は「図書館」「勉強場所」とともに「まあ満足」であり、「まあ満足」と次点「満足」の回答と合わせると「図書館」は回答の約68%、「勉強場所」は約70%となり、「勉強場所」が2ポイント高い。過去2回（H26、28年）の窓口満足度の調査結果でも、約70%の学生から「まあ満足～満足」との評価を得ている。③の回答の最多は「どこにあるかわからない」が約50%、次に「ほとんど利用しない」が約30%、「必要な時だけ～週5日以上」を合わせて約17%である。

(2) 自由記述から

回答内容の趣旨を抽出し、要望の多い順に並べると「Wi-Fi 設置」「PC やプリンタ等の機器性能の向上や増設」「PC エリア・閲覧室での大声でのおしゃべり、ゲームや遊びで PC を占有する学生への不満と静かに勉強できる環境の増設の要望」「ソフトウェアのインストール場所の追加」「図書館資料の不足」があげられる。

(3) まとめと課題

約7割の学生が「図書館・勉強場所としてメディアセンターを利用」し、「まあ満足～満足」と感じ、対して約1割の学生が「ほとんど利用しない～不満」としている。自由記述の意見を課題とし、以下、対応状況を記す。「Wi-Fi 設置」の理由には、「授業用で教員の指示(出席確認等)により個人のスマホ等の回線を使うため」という記述が6割であり、「自習用」に使いたいのが4割であった。「授業用」の出席確認等については、別途全学教育センターから個人回線の利用をお願いしているところである。学科の演習に必要な教室には、学科の PC を接続できる Wi-Fi の整備が進んでいる。また、「自習用」ではメディアセンターを勉強場所として活用している学生が約7割

いることから、認知度が大変低かった「わよりぶ」の周知の強化を進め、利用の促進を図る。「PC やプリンタ等の機器性能の向上や増設」は、2019 年夏季休業中に OS を Windows10 とし、性能が低くなった PC の入替とソフトウェアのインストール場所の見直しを行っている。「PC エリア・閲覧室での大声でのおしゃべり、ゲームや遊びで PC を占有する学生への不満と静かに勉強できる環境の増設の要望」は、話し声に関するゾーニングのルールをより明確に周知し、「環境の増設」は各エリアの利用状況を確認の上、検討する。「図書館資料の不足」は、複本制度や選書基準の見直しを進めている。

1.3. 学生課

(1) 概要

H26・H28・H30 の学生課窓口を「利用している」学生の満足度を比較してみる。「満足している」「まあ満足している」を合わせると、H26 は 64.2%、H28 は 65.3%、H30 は 73.0%と満足度が上昇している。利用者の 7 割程度が満足している状況である。また「不満である」「やや不満である」を合わせると H26 は 9.7%、H28 は 10.3%、H30 は 8.2%と不満度は、大きな変化はなく 1 割を切っている。「どちらとも言えない」は、H26 は 26.1%、H28 は 24.4%、H30 は 18.8%と 2 割程度で推移している。「利用していない」学生は、H26 は 11.7%、H28 は 9.3%、「ほとんど利用しない」学生が H30 は 25.3%と推移している。以上のことから 9 割強の学生は不満のない状況が継続している。経時的には若干満足度が向上している。

(2) 自由記述から

満足度の高い 7 割の学生からは「親切・丁寧」等の回答となっている。満足度の低い 1 割の学生からは課員の対応や態度が「冷たい」「怖い」「担当者によって対応が違う」との回答が上がっている。

(3) まとめと課題

学生の回答に対しては真摯に受けとめ、窓口対応の基本（挨拶・笑顔・親切）を継続的に励行している。また学生の要望や相談等をよく聴いて適切な対応と指導を実施している。業務委託職員や派遣職員も勤務しているが全職員が同水準の業務を提供できるよう定例報告会や課内全員で情報共有を実施し継続した業務改善を行っている。今後も多様な学生に対し常に丁寧な対応を心がけ満足度の高い事務室を目指す。

1.4. 財務管財課（施設サポートチーム）

(1) まとめと課題

要望として(a)Wi-Fi 大多数の学生が設置希望。授業中でも先生によって携帯を使い調べものをする必要がある。(b)エレベーターの渋滞改善、(c)学食・購買改善が大多数を占める。他には、(d)空調等設備についての要望、(e)トイレの洋式化、(f)その他(勉強・休憩スペース、自販機、ロッカー等)と多岐に及んでいる。

まず、(a)Wi-Fiについては、メディアセンター対応となる。(b)エレベーター渋滞については、本年度6月から東館4台中2台のエレベーターを偶数階・奇数階へ行き先を制限しエレベーターの回転を早めるよう試行錯誤しているところである。(c)学食・購買については、メニュー・値段・量等を委託業者と協議する。南館1階シルフィードは、平成30年度末に改装を実施しテーブル・椅子の入れ替えを行った。また、さとみ館においては令和元年度に1階ベンダーコーナーに給湯器を設置し後期授業から使用出来るようにした。(d)空調設備については、令和元年度の修繕工事において東館・南館の空調熱源更新を年度末までに行う予定である。(e)トイレ洋式化については、大学内の大半のトイレが洋式に改装済みであるが、一部の学生の中に人が触れた洋式は使用出来ないとの意見もあるため、一部和式を残している。トイレ内に荷物置きを設置してほしいという要望については仕様を含めて設置の可否を検討中である。その他(f)勉強・休憩スペース等については、平成30年度末に東館・北館の各階踊り場に机・椅子を配置したほか、令和元年度前期には東館2階、西館1・2階オープンPCエリア椅子の入替え、大学正門銅像前のベンチの入替えを実施するなど、環境改善に努めた。講義室内等で汚損が激しい椅子については適宜交換している。また、ロッカーの増設・充実については収容人数の推移を見ながら実施の是非を検討することにしている。最後に財務管財・施設サポートチームとしては、学生アンケートの結果を真摯に受け止め計画的に予算化し、より良い環境を提供するため施設改善に努める所存である。

15. 保健センター・学生相談室・ユニバーサルサポート推進室(学生課)

(1) 概要

保健センター・学生相談室・ユニバーサルサポート推進室は「ほとんど利用しない」が59.8%と6割の学生はあまり利用していない。「利用している」学生の満足度は「満足している」「まあ満足している」を合わせると、H30は60%が満足している状況にある。また「不満である」「やや不満である」を合わせると、H30は4.3%と不満度は低い。「どちらとも言えない」は、H30は35.6%となっている。このことから95%の学生が不満に感じていない状況となっている。

(2) 自由記述から

ほとんど記述はなかったが、ごく少数「行きにくい」と回答があった。

(3) まとめと課題

満足度の回答数、利用者数の内訳は、H28の利用者数の状況から8割程度が保健センターで2割程度が学生相談室・ユニバーサルサポート推進室であると推測される。学生相談においては、すぐに解決できない事柄やメンタルの問題にかかわることなど多種多様な案件が多くすぐに満足感を得ることが難しい側面がある。カウンセラー2名体制できめ細かな対応を実施している。H28よりユニバーサルサポート推進室が開設され、修学や大学生活の中で学生が感じている困難さの解消に向けた支援や、適切な合理的配慮の提供に向けた支援を実施している。これからも各部署が連携を取り学生の支援を実施していく。

1.6. 進路支援センター

(1) 概要

卒業後の希望進路について、「就職したい」と回答した学生は、H26は88.9%、H28は90.6%、H30は88.3とH30が2.3ポイント減少しているが、これは、「進学したい」と回答している学生がH26は2.1%、H28は3.1%、H30は4.3%となり1.3ポイント進学を希望している学生の増加が要因であると読み取れる。また、家庭に入りたいと回答した学生がH26は1.3%、H28は4.9%、H30は6.8と上昇傾向にある。就職や進学に対する大学の支援体制の満足度について、「満足」「まあ、満足」と回答した学生は、全体で、H26は49.3%、H28は48.3%、H30は48.3%となった。「やや不満足」「不満」と回答した学生は、H28は5.0%、H30は3.0%と改善が見られた。事務対応の満足度について、「満足」「まあ、満足」と回答した学生は、全体で、H26は46.3%、H28は53.9%、H30は40.0%となった。H30については看護学科が新設され、進路支援センターを利用しない学生が含まれていることが要因であると示唆する。学年別にみると、進路支援センターの支援対象学年である3年生は70.1%、4年生においては74.8%と満足度が高い。「やや不満足」「不満」と回答した学生は、H26は4.6%、H28は6.8%、H30は2.2%と改善が見られた。

(2) 自由記述から

「進路支援センターは対応がよく優しい」とポジティブな意見がある反面、「不親切」「冷たい」との意見もあった。進路支援センターでは学科（学類）担当制をとっており、担当者与学生の関りが深く、初めて来室する学生やあまり利用しない学生に「冷たい」印象を与えてしまっていることは、真摯に受け止め、学科（学類）担当者向けの研修や進路支援センター独自のアンケート調査等を実施し、改善をしていきたい。

(3) まとめと課題

学生にとって、大学・大学院卒業後の進路は大きな人生の選択となり、その支援を行っている進路支援センターの責務は大きいことをしっかりと受け止め、より一層学生に寄り添った支援を行っていく。また、低学年については、キャリアガイダンス、インターンシップ、資格講座等を通して、進路支援センターの利用を増やしていきたい。

VII. 大学満足度からみた問題と課題

Ⅶ. 大学満足度からみた問題点と課題

大学運営の基本となる学生の大学への高い満足度の実現のために、大学や教職員が整える条件は何か、という視点で解析した。

図表Ⅶ-1に、問16「全体的にみて和洋女子大学についてどう感じていますか」の回答「満足・まあ満足」「どちらでもない」「やや不満足・不満足」別に他の単回答で訊ねた設問回答とクロス集計を実施し、カイ二乗検定により有意となった設問項目を、関連性が高い傾向順に示した。この結果は、各設問に該当する回答のみを有効回答として解析した結果である。例えば、各課への満足度の解析には利用していない者の回答を除き、各科目群の満足度については受講していない者を除いて解析した。

結果全体をみると、トップを除いて上位に挙がっているのは「教育内容」への満足度であり、学生は受講している科目の内容や教員による授業運営を評価して大学の満足度を認識している現状が明らかとなった。特に、専門科目の講義科目（図表Ⅶ-2）に対する満足度が大きく関連しており、続いて、和洋アビリティーズ科目を含む共通総合科目全般、専門科目のゼミ・卒論・実習科目に対する満足度も大学への満足度に大きく関連していた。また、学生自身もつ学習意識「学科の教育目標が自身の目標に合っている（図表Ⅶ-3）」「自分の目標に向けてよく取り組んでいる」も高い大学への満足度に関連していた。したがって、学生の満足度は、大学が提供している教育目標や教育内容、各科目の内容と授業の運営に大きく依存し、和洋の学生が、学科の方針に沿って大学生として各自の目標を定め、その目標に向かって真面目に取り組む姿勢を持ち、努力していこうとしている背景が明らかとなった。その姿勢を大学として支援することが、学生から「選ばれる大学」を維持していく重要な要素であることが判明した。

何にも増して、学部・学科での学生教育内容の構築とその内容についての学生との共有（これが肝要）、全教員の授業運営への真摯な取り組みこそが学生の満足感を高めていく最も重要な要素であろう。「教育に力を入れている大学」として大学運営を推進していかなければならない。同時に、目標が定まらずに大学での学習や生活が停滞気味の学生には、各学部・学科や全学教育センターによる、学生への学びの方向性についての相談や支援が必要であることも判明した。第一希望以外で和洋女子大学に入学した学生や入学後に自分の方向性が学科と異なっていたことに気づいた学生など、様々な理由から学習への意識や意欲が低下している学生を早い段階で発見し、サポートしていくシステムの構築が望まれる。学部・学科の教員・スタッフだけでなく、各部署の窓口、保健センター・学生相談室・US（ユニバーサルサポート）室、メディアセンター、ラーニングステーションなど、学生とかわるあらゆる場で学生を見守り、把握し、問題を抱える学生への支援を充実させる必要がある。

これらの教育内容より高く、最も強い関連傾向があったのは、「卒業後の支援態勢の満足度」であった（図表Ⅶ-4）。大学に「満足・まあ満足」を選択した者のうち81.4%が卒業後の支援態勢も「満足・まあ満足」と回答した。有効回答数は980となり、まだ就職活動のスタートしていない低学年の学生の回答も含まれていた。これは、入学前から「和洋は進路支援に強い大学」という良いイメージが定着していて、将来の期待を込めた回答であったとも受け取れた。一方で学生の悩みの内容として「進路・就職のこと」を挙げる学生が多く、2014年度58.3%、2016年度62.2%、今回、2018年度35.4%と、今回、前回、前々回に比較して大きく減少したが依然として悩みの内容として最も高い選択率であり、進路支援のプログラムへの満足度向上はこの悩み解消、大学への満足度向上に有益となるであろう。

その点、共通総合科目の和洋アビリティーズ科目の中に2014年度入学生から導入した「キャリアデザイン」の授業の効果が大きいことが推察された。本アンケートの対象学生は2014年度入学生が4年生となった学生たちであり、対象者全員が1・2年次にキャリアデザインの授業を受講した。この授業は、将来の自分像をイメージしながら大学4年間の学びの方向性を自身で考える授業である。前回のアンケート時から「進路・就職のこと」についての悩んでいる学生が減少したことについてこの授業の影響があったと考えられた。今後も、授業でのキャリア教育と進路支援センターによる学生サポートの両面の支援により、学生が満足した学生生活を送り、卒業後の進路の良い選択が実現できることが望まれる。

大学内の生活支援の各部署や学習支援の各センターや事務課窓口などの満足度についても有意な関連性が認められ、教育内容、進路支援の次のグループとして大学全体の満足度に影響していた。その中であって最も高い関連性を示したのは、「学食の満足度（図表Ⅶ-5）」であった。大学の学生食堂の運営については、授業期間、学生数や学生の大学での滞留時間など、通常の営利目的の飲食業態としては、経営は困難な状況にあり、学食の委託運営会社に依存する営業では、学生の満足度向上は難しい。学生から自由記述でも指摘があった通り、和洋には「健康栄養学科」で健康と食事栄養に関する教育が行われているにも拘わらず適切な食事提供が少なく、学生からは「価格が高い」「食事の提供量が少ない」「おしゃれな雰囲気してほしい」「健康的な食事にしてほしい」「千葉商大の学食がよい」など多数の意見があった。価格を下げるには、大学としての経営介入が必要不可欠であり、「学食改革」を学生から「選ばれる大学」の推進に位置づけて取り組むことも戦略の1つであろう。居心地のよい学食やカフェの設置は女子大学として有効であり、その場所での学生、教員の交流促進や学生の居場所確保、大学での滞在延長など、人間関係の構築、授業以外の学習活動などにおいてもよい効果が期待できると思われる。

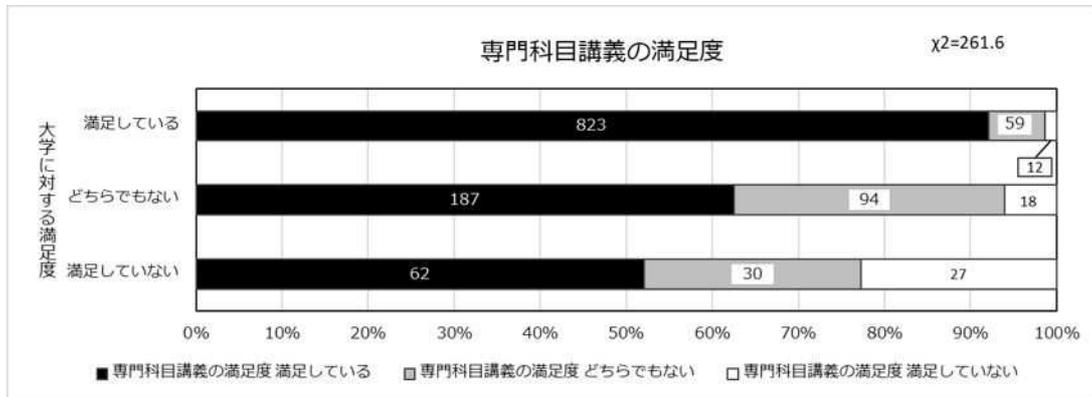
なお、各部署の窓口対応や各センターの満足度向上は、それぞれの部署で苦心しているところであり、毎回のアンケートにおいて指摘される自由記述に書かれた不満足の内容についても、それぞれの部署で対応しており、継続した自己点検と学生との共有が求められる。

最後に、学生の「授業以外の1日当たりの学習時間」と「アルバイトの有無」についても高くはなかったが、大学への満足度と関連性が認められた。学習時間が1日当たり1時間未満、あるいはほとんど学習していない学生、アルバイトを週に3日以上実施している者では、大学への満足度が低い割合が多い傾向にあった。両者を重ね合わせて考えると、経済的に問題を抱えている学生は、アルバイトを多くせざるを得ない状況にあり、学習時間を確保できず、大学での授業をはじめとする学習活動がおろそかになっている現状が窺われた。そのような学生では、学習意識が低くなり、目標に向けての良い取り組みが不十分となり、大学への満足度も低くなる可能性があった。学生への経済的支援、奨学金の充実など大学として取り組む課題がある。2020年度入学生から、国による高等教育の就学支援制度（高等教育無償化）もスタートすることから、大学としての奨学金の新体制についても検討課題である。

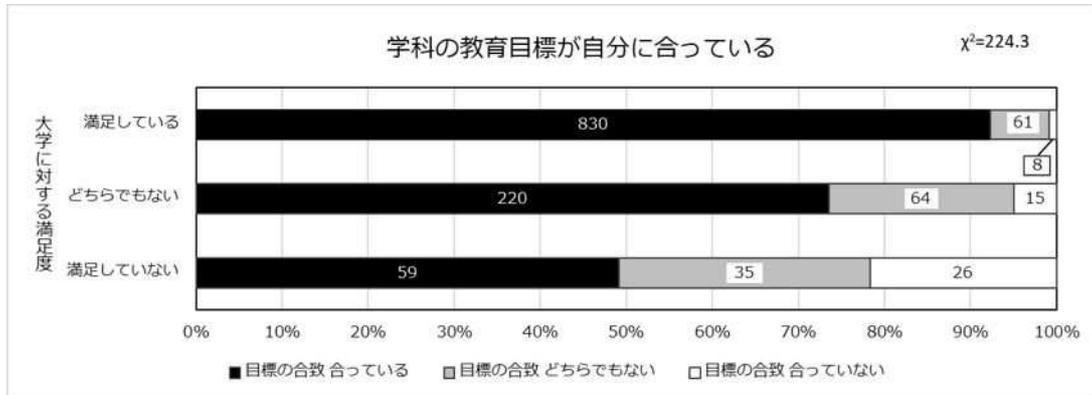
図表VII-1

分野	設問	カイ二乗値	有効回答数	解釈 <大学への満足度が高い学生は低い学生に比較して>
進路支援	卒業後の支援態勢の満足度	265.0	980	卒業後の支援態勢への満足度が高い学生の割合が多い
教育内容	専門科目講義の満足度	261.6	1312	専門科目講義への満足度が高い学生の割合が多い
学生の学習意識	学科の教育目標の合致度	224.3	1318	学科の目標が自分に合っていると考えている学生の割合が多い
教育内容	共通総合科目アビリティーズの満足度	143.1	1285	共通総合の基礎ゼミ・キャリアデザイン・PC科目への満足度が高い学生の割合が多い
教育内容	共通総合科目基礎教養の満足度	140.4	1304	共通総合の人文・社会・生活・人間科学科目への満足度が高い学生の割合が多い
教育内容	専門科目ゼミ等の満足度	125.6	1037	専門科目ゼミ・卒業・実習への満足度が高い学生の割合が多い
学生の学習意識	目標に向けての良い取り組み	108.7	1318	目標に向けてよく取り組んでいると考えている学生の割合が多い
生活支援	学食の満足度	93.3	1118	8か所の学食の満足度が高い学生の割合が多い
教育内容	資格科目教職等の満足度	88.2	787	資格科目の教職・司書・博物館学芸員科目への満足度が高い学生の割合が多い
教育内容	共通総合科目外国語の満足度	87.7	1255	共通総合の英語科目・海外語学研修等への満足度が高い学生の割合が多い
学生の学習意識	自分の目標の明確さ	77.2	1318	自分の目標がはっきりしていると考えている学生の割合が多い
学習支援	メディアセンター（図書館）の満足度	73.6	1094	図書館としてのメディアセンターの満足度が高い学生の割合が多い
学生の学習意識	目標に向けての積極的な学び	71.9	1318	目標に向けて積極的に学びたいと考えている学生の割合が多い
生活支援	購買部・ブックセンターの満足度	69.5	1110	購買部・ブックセンターの満足度が高い学生の割合が多い
学習支援	教務課窓口の満足度	65.3	913	教務課の窓口対応の満足度が高い学生の割合が多い
学習支援	メディアセンター（勉強場所）の満足度	54.9	1108	勉強場所としてのメディアセンターの満足度が高い学生の割合が多い
生活支援	学生課窓口の満足度	51.8	926	学生課の窓口対応の満足度が高い学生の割合が多い
学生の学習意識	学科の教育目標の認知度	43.5	1318	学科の教育目標を知っている学生の割合が多い
進路支援	進路支援センター窓口の満足度	42.0	701	進路支援センター窓口対応の満足度が高い学生の割合が多い
学習支援	教育支援課窓口の満足度	32.9	500	教育支援課の窓口対応の満足度が高い学生の割合が多い
生活支援	保健センター・学生相談室・US室の満足度	19.1	475	保健センター・学生相談室・US室の満足度が高い学生の割合が多い
学生生活	授業以外の学習時間	17.4	1318	大学への満足度が低い学生は高い学生に比較して、授業以外1日あたり1時間未満の学習時間の学生の割合が多い
学習支援	ラーニングステーションの満足度	15.2	438	ラーニングステーションの満足度が高い学生の割合が多い
学生生活	アルバイトの有無	14.1	1260	大学への満足度が低い学生では高い学生に比較して、アルバイトをしている頻度が多い学生の割合が多い
学習支援	教職教育支援センターの満足度	12.0	371	教職教育支援センターの満足度が高い学生の割合が多い
学習支援	さとみ館事務室窓口の満足度	8.6	212	さとみ館事務室窓口対応の満足度が高い学生の割合が多い

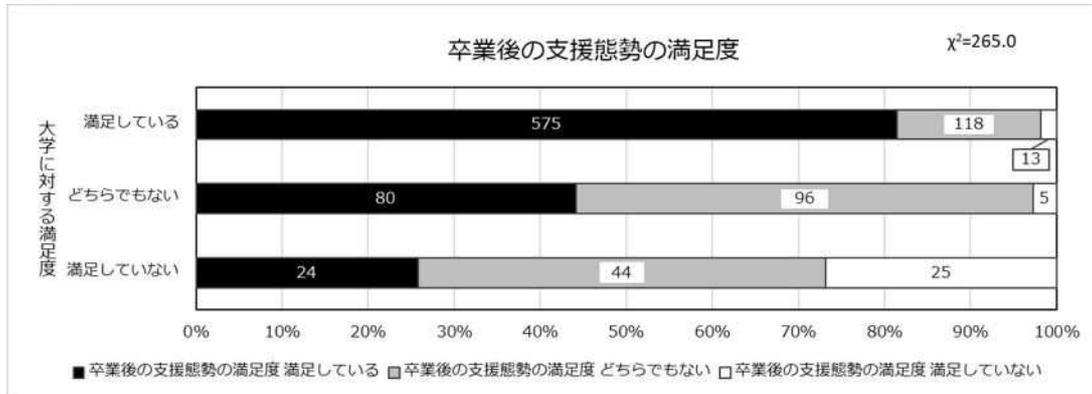
図表Ⅶ-2



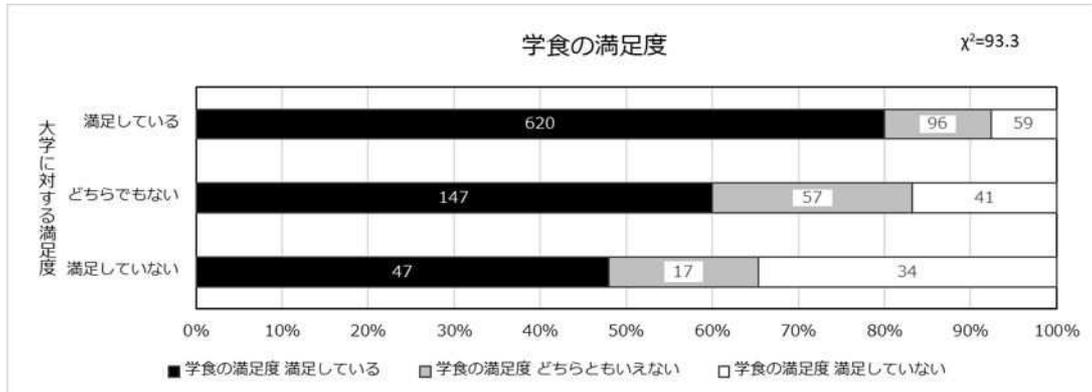
図表Ⅶ-3



図表Ⅶ-4



図表Ⅶ-5



VIII. 資料

平成 30 (2018) 年度学生生活アンケート設問

◆ 教学関連 Q1～Q20・生活関連 Q21～Q58 は WEB での回答 ◆

教学関連

Q1 あなたの所属する学類・学科で4年間に何を学ぶことができるか(学類・学科の目標)を知っていますか

知っている 知らない

Q2 学類・学科・専修のカリキュラムはあなたが大学で学びたいと思っていることと合っていますか

よく合っている だいたい合っている どちらともいえない あまり合っていない 全く合っていない

Q3 あなた自身の勉強したい目標ははっきりしていますか

している だいたいしている どちらともいえない あまりしていない 全くわからない

Q4 その目標に向かってよく取り組んでいると思いますか

思う まあまあ思う どちらともいえない あまり思わない 全く思わない

Q5 その目標に向けて積極的に学びたいと考えていますか

考えている まあまあ考えている どちらともいえない あまり考えていない 全く考えていない

Q6 授業以外の学修(学習)時間は平均すると1日あたりどのくらいですか。課題やレポート作成などの時間も含みます

3時間以上 2時間以上 1時間以上 1時間未満 あまりしない

Q7 目指している資格または取得した資格はなんですか(複数回答可)

教員免許状(英語 社会 国語 書道 美術 家庭 栄養 幼稚園 養護) 司書 司書教諭
日本語教員 博物館学芸員 認定心理師 ピアヘルパー 保育士 社会教育主事 社会福祉士
社会福祉主事 衣料管理士 (管理)栄養士 看護師 保健師 食品衛生管理者・監視員
フードスペシャリスト 日本茶アドバイザー サプリメントアドバイザー その他

2017・18年度に受講した(している)科目を全体的に考えて科目群ごとの満足度を回答してください

Q8 専門科目(講義)の授業についての満足度はいかがですか

満足 まあ満足 どちらともいえない やや不満足 不満 受講していない

Q9 専門科目(卒論・ゼミ・実習等)の授業についての満足度はいかがですか

満足 まあ満足 どちらともいえない やや不満足 不満 受講していない



Q10 共通総合科目（基礎教養科目 人文科学・社会科学・生活科学・人間科学）の授業についての満足度はいかがですか

満足 まあ満足 どちらともいえない やや不満足 不満 受講していない

Q11 共通総合科目（和洋アビリティーズ 基礎ゼミ・キャリアデザイン・PC 科目）の授業についての満足度はいかがですか

満足 まあ満足 どちらともいえない やや不満足 不満 受講していない

Q12 共通総合科目（外国語科目）の授業についての満足度はいかがですか

満足 まあ満足 どちらともいえない やや不満足 不満 受講していない

Q13 資格科目（全学共通：教職課程・司書課程・博物館学芸員課程）の授業についての満足度はいかがですか

満足 まあ満足 どちらともいえない やや不満足 不満 受講していない

Q14 卒業後の進路についてどのように希望していますか（複数回答可）

就職したい 進学したい 家庭に入りたい 未定 その他

Q15 卒業後の就職や進学に対する大学の支援態勢についてどのように思いますか

満足 まあ満足 どちらともいえない やや不満足 不満 まだ利用していない

Q16 全体的にみて和洋女子大学についてどう感じていますか

満足 まあ満足 どちらともいえない やや不満足 不満

Q17 あなたが和洋女子大学でよいと思う点はどんなことですか。5つまで選んでください

カリキュラムの内容 教員の教え方 教員との関係 学生の学び方 海外研修・留学
学外活動（産学連携など） 大学・学生の気質や雰囲気 友人との関係 就職活動 大学の行事
サークル活動 ボランティア活動 事務職員の対応 施設や設備 所在地や景観 伝統があること
その他

Q18 あなたが和洋女子大学で不満だと思う点はどんなことですか。5つまで選んでください

カリキュラムの内容 教員の教え方 教員との関係 学生の学び方 海外研修・留学
学外活動（産学連携など） 大学・学生の気質や雰囲気 友人との関係 就職活動 大学の行事
サークル活動 ボランティア活動 事務職員の対応 施設や設備 所在地や景観 伝統があること
その他



Q19 あなたが考える和洋女子大学の誇れるポイントを3つ挙げてください（自由記述）

Q20 大学にもっとこうしてほしいという意見や改善の希望があれば、具体的に記述してください（自由記述）

生活関連

Q21 アルバイトをしていますか

週に5日以上している 週に3~4日している 週に1~2日している 時々している
したことはあるが現在していない したことがない

Q22 何のためにアルバイトをしていますか（複数回答可）

授業料（学費） 普段の生活費 楽しみの買い物・食事・旅行など 教科書や英会話などの学習費
社会経験 皆がしている その他 したことがない

Q23 学費はだれが負担していますか（複数回答可）

家族（親・祖父母など）が負担している 自身の貯金やアルバイト収入で負担している
奨学金を学費に充てている 特待生なので学費は免除されている

IT 関連について回答してください

Q24 スマートフォンを持っていますか

はい いいえ

Q25 スマートフォンを授業時以外の学習にも使いますか。単に漢字やスペルを調べることは除く

例：レポートを書く 参考文献を検索する 参考書を読む 授業動画を見る など

週に5日以上使う 週に3~4日使う 週に1~2日使う 必要な時だけ使う ほとんど使わない

Q26 学習時間も含めてスマートフォンの利用時間は平均すると1日あたりどのくらいですか

8時間以上 6時間以上 4時間以上 2時間以上 2時間未満 もっていない

Q27 タブレットを持っていますか（看護学科生は「はい」を選択してください）

はい いいえ

Q28 タブレットを授業時以外の学習にも使いますか。単に漢字やスペルを調べることは除く

例：レポートを書く 参考文献を検索する 参考書や教科書を読む 授業動画を見る など

週に5日以上使う 週に3~4日使う 週に1~2日使う 必要な時だけ使う ほとんど使わない



Q29 自宅にパソコンはありますか

自分専用パソコンがある（ノート型） 自分専用パソコンがある（デスクトップ型）
家族と共有パソコンがある（ノート型） 家族と共有パソコンがある（デスクトップ型）
パソコンは持っていない

Q30 自宅のパソコンを学習のためにどのくらい使いますか

週に5日以上使う 週に3～4日使う 週に1～2日使う 必要な時だけ使う ほとんど使わない

Q31 大学のパソコン（教室・PCエリア・メディアセンターなど）を授業時以外にどのくらい使いますか

週に5日以上使う 週に3～4日使う 週に1～2日使う 必要な時だけ使う ほとんど使わない

Q32 ポータルサイトからのお知らせをよく確認しますか

週に5日以上確認する 週に3～4日確認する 週に1～2日確認する
必要な時だけ確認する ほとんど確認しない

Q33 マナビコース（授業名コース）をよく利用しますか（教員の指示により利用することも含む）

週に5日以上利用する 週に3～4日利用する 週に1～2日利用する
必要な時だけ利用する ほとんど利用しない

Q34 マナビコース（個人コースの個別指導コレクション）をデータ保存場所としてよく利用しますか

週に5日以上利用する 週に3～4日利用する 週に1～2日利用する
必要な時だけ利用する ほとんど利用しない どのことかわからない

Q35 わよりぶ（メディアセンター内の無線LAN環境）をよく利用しますか

週に5日以上利用する 週に3～4日利用する 週に1～2日利用する
必要な時だけ利用する ほとんど利用しない どこにあるかわからない

Q36 大学のIT環境について要望があれば具体的に記述してください（自由記述）

大学内の各施設についての利用頻度と満足度を回答してください

Q37 図書館としてのメディアセンター

Q38 勉強場所としてのメディアセンター

Q39 学生食堂（東館18階ラウンジ・南館1階食堂・体育館1階学生ホール）

Q40 購買部（体育館1階和洋サービス）・紀伊国屋書店ブックセンター（北館1階）



Q41 保健室（北館 1 階）・学生相談室（北館 1 階）・ユニバーサルサポート室（北館 2 階）

Q42 ラーニングステーション（西館 2 階）

Q43 教職教育支援センター（東館 8 階）

よく利用する 時々利用する ほとんど利用しない

Q44 図書館としてのメディアセンター

Q45 勉強場所としてのメディアセンター

Q46 学生食堂（東館 18 階ラウンジ・南館 1 階食堂・体育館 1 階学生ホール）

Q47 購買部（体育館 1 階和洋サービス）・紀伊国屋書店ブックセンター（北館 1 階）

Q48 保健室（北館 1 階）・学生相談室（北館 1 階）・ユニバーサルサポート室（北館 2 階）

Q49 ラーニングステーション（西館 2 階）

Q50 教職教育支援センター（東館 9 階）

満足 まあ満足 どちらともいえない やや不満足 不満 ほとんど利用しない

Q51 大学内各施設（Q44～50） について要望があれば具体的に記述してください（自由記述）

大学内の事務の窓口対応についての満足度を回答してください

Q52 教務課

Q53 教育支援課

Q54 学生課

Q55 進路支援センター

Q56 さとみ館事務室

満足 まあ満足 どちらともいえない やや不満足 不満 ほとんど利用していない

Q57 事務の窓口対応（Q52～56） について要望があれば具体的に記述してください（自由記述）

Q58 大学内の施設やサービスなどについてもっとこうしてほしいということがあれば具体的に記述してください（自由記述）



このアンケートは、あなたの悩みやハラスメントと考えられることの調査を目的として実施するものです。無記名のアンケート方式で行うため、個人の回答結果を特定することはできません。そのため、アンケートへの回答によって、個人的な利益や不利益が生じるようなことはありません。今後、より良い調査が継続できるよう、最後の自由記入欄にも、率直なご意見をよろしくお願いたします。

F1 あなたの所属学類・学科はどこですか

- ① 国際 ② 日本文学文化 ③ 心理 ④ こども発達
⑤ 服飾造形 ⑥ 健康栄養 ⑦ 家政福祉
⑧ 看護
⑨ その他(正規生以外)

F1-2 あなたの専修はどこですか(2~4年生の学生)

- 【国際】 ① 英語文化コミュニケーション ② 国際社会
【日本文学文化】 ③ 日本文学 ④ 日本語表現
⑤ 書道 ⑥ 文化芸術

F2 何年生ですか

- ① 1年生 ② 2年生 ③ 3年生 ④ 4年生

記入上の注意

- 記入は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
- 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
- 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

良い例



悪い例



※該当が「その他」の場合は()内にご記入ください。

Q59 あなたは現在悩みがありますか

- ① 日常生活に支障があるほど悩んでいる ② 支障があるほどではないが悩みがある ③ 特に悩みはない

Q60 どのような悩みですか **複数回答可**

- ① 学業のこと ② 学類・学科が合わない ③ 卒業研究や卒論のこと ④ 進路や就職のこと ⑤ 健康上のこと ⑥ 友人関係
⑦ 恋愛関連 ⑧ 性の問題 ⑨ 家族のこと ⑩ ストーカー ⑪ セクハラ ⑫ 経済問題 ⑬ サークル活動
⑭ 性格や能力 ⑮ その他()

Q61 悩みや不安を誰に相談しますか **複数回答可**

- ① 家族 ② 友達 ③ 大学の教員 ④ 保健室 ⑤ 学生相談室 ⑥ 学生課コンシェルジュ室
⑦ ユニバーサルサポート推進室 ⑧ 各課窓口 ⑨ その他()

Q62 学内にハラスメント相談員がいること、相談窓口があることを知っていますか

- ① はい ② いいえ

Q63 ハラスメント、人権侵害、いじめを感じたとき、どうしましたか **複数回答可**

- ① 大学の相談員・相談窓口相談 ② 担任に相談 ③ その他の教職員に相談 ④ 家族に相談 ⑤ 友達に相談
⑥ 相談しない ⑦ その他()

Q64 学内で性的に不快な思い(セクハラ)を感じたことがありますか

- ① はい ② いいえ

Q65 教職員の不快な振る舞いや人権侵害を感じたことはありますか

- ① はい ② いいえ

Q66 大学でいじめを受けたことはありますか、または他人のいじめの事実を知っていますか

- ① はい ② いいえ

Q67 Q64~66の「はい」は、どのようなことですか 差し支えなければ**本用紙の裏面**に具体的に記述してください

提出は東館・西館・南館・北館・さとみ館の各エントランスにある回収BOXに投函してください。

ハラスメントやいじめを感じたり、見たり聞いたりした場合は迷わず相談してください。

相談員

大学院：岡本文子 杉浦令子

大 学：星野文子 小澤京子 山本高美 原子はるみ 織田奈緒子 杉浦令子 大沼良子 山下菜穂子

相談窓口

保健センター(北館1階) 浅井綾子 047-371-2548

事務局(北館2階) 高橋悦子 047-371-1123

◆ 各相談員に関わらず各教職員へも相談できます。

【提出期間】 11.8(木)~11.14(水)

平成 30(2018)年度 学生生活アンケート報告書

令和 2(2020)年 2 月

編集 和洋女子大学 大学・大学院評議会

担当 湊久美子 岡本文子 高橋悦子 加藤菊江 伊藤博康

発行 和洋女子大学

〒272-8533 千葉県市川市国府台 2-3-1

TEL 047-371-1111